オーナーズマニュアル

Manuel d'utilisation et entretien

SUPERBIKE

1199 PANIGALE

1199 PANIGALE ABS

日本語

SUPERBIKE

1199 PANIGALE
1199 PANIGALE ABS

本取扱説明書はモーターサイクルを構成する一部であり、使用期間はモーターサイクルと共に保管しなければなりません。
所有者が変更される場合は、本取扱説明書も新しい所有者に譲渡されなければなりません。
本取扱説明書は大切に保管しなければなりません。損傷や紛失した場合、速やかに Ducati オフィシャルディーラーまたはサービスセンターに新しい取り扱い説明書を請求してください。

ドゥカティモーターサイクルの品質と安全性はデザイン、装備、アクセサリーの開発に伴い絶えず更新され、したがって本取扱説明書には印刷の時点での最新情報が記載されていますが、Ducati モーターホールディング社は予告なく、またその義務を負わず、いつでも変更する権利を有します。このため、お客様の実際のモーターサイクルと比較すると、いくつかの図に違いがある可能性があります。

本マニュアルの全て又は一部を複製又は流布することは禁止されています。あらゆる権利はDucatiモーターホールディング社に帰属しており、理由を明記したうえで（書面による）許可の申請をしなければなりません。

はじめに

この度はDucati製品をお買い上げ頂きありがとうございます。貴方をドゥカティストの仲間としてお迎えできるのは、私達にとって何よりの喜びです。この新しいバイクでは日常的に利用されるだけではなく、ロングツーリングも楽しまれることと思います。Ducati Motor Holding S.p.A.は、そのライディングが常に快適で楽しいものであるよう願っています。

お客様のモーターサイクルはDucatiモーターホールディング社の絶え間ない研究と開発から得られたものであり、メンテナンスプログラムに従い、オリジナルスペアパーツを使用することで品質を維持することが重要です。
本取扱説明書には簡単なメンテナンス作業の実施方法が記載されています。
より重要なメンテナンス作業は、Ducatiオフィシャルディーラーまたはサービスセンターに配備されているディーラーマニュアルに記載されています。

あなた自身のため、また製品の安全性及び信頼性を保証するために、メンテナンスプログラムで行うあらゆる作業は、Ducatiオフィシャルディーラーまたはサービスセンターにご依頼頂くよう強くお薦めします（245ページ参照）。

Ducatiオフィシャルディーラーの熟練したスタッフが、どのような整備作業にも対応できる専用器具と適切な工具、完璧な交換可能性、円滑な作動、ロングライフを保証するDucatiオリジナルパーツのみを使用し、最善のサービスを提供致します。

全てのDucati モーターサイクルには保証書が付属しています。

車両を競技やそれに類する目的に使用する場合は保証の対象外となります。

車両や部品の一部でも交換したり、改造したり、変更した場合、保証は適用されません。

メンテナンスが正しく行われなかったり、不十分だったり、オリジナルでない又はDucati に承認されていないスペアパーツが使用されている場合、車両に損傷を招いたり、期待される性能が得られないばかりでなく、保証が適用されなくなることがあります。

目次

はじめに　3
安全性ガイドライン　9
本取扱説明書で使用されている警告
シンボルマーク　9
用途　10
ライダーの義務　10
ドライバーのトレーニング　12
服装　12
安全のための″ベストプラクティス″　13
燃料の補給　15
最大積載時の運転　16
危険物 – 注意事項　17
車両識別番号　19
エンジン識別番号　20

インストルメントパネル（ダッシュボード）　21
本マニュアルで使用されている頭字語及び略語　24
技術用語　24
機能ボタン　28
パラメータ設定 / 表示　29
メイン機能　36
ライディングモード（Riding Mode）　43
DTC　47
EBC　53
DQS　57
メニュー1の機能：　61
メニュー1の機能：オドメーター（TOT）　62
メニュー1の機能：トリップメーター 1 (TRIP 1)　64
メニュー1の機能：トリップメーター 2 (TRIP 2)　66
メニュー1の機能：燃料リザーブトリップメーター (TRIP FUEL)　68
メニュー1の機能：ラップタイム（LAP time）　70
メニュー2の機能　73
メニュー2の機能：エンジンクーラント温度　74
メニュー2の機能：瞬間燃費　76
メニュー2の機能：平均燃費　77
メニュー2の機能：平均スピード　78
メニュー2の機能：走行時間　79
メニュー2の機能：外気温　80
サブ機能　81
時計（CLOCK）　81
メンテナンス表示（SERVICE）　82
OIL SERVICE ゼロ表示　82
OIL SERVICE 又は DESMO SERVICE 表示　84

警告 / アラーム　85
エラー表示　89
エラー表示の説明　90
サイドスタンドステータスの表示　94
設定メニュー　95
ライディングモード のパーソナライズ (Riding Mode)　98
ライディングモードのパーソナライズ : ABS の調整 (ABS バージョン)　102
ライディングモードのパーソナライズ : ディスプレイの設定　105
ライディングモードのパーソナライズ : DQS の起動 / 解除　108
ライディングモードのパーソナライズ : DTC レベルの設定　110
ライディングモードのパーソナライズ : エンジンの調整　112
ライディングモードのパーソナライズ : EBC レベルの設定　116
ライディングモードのパーソナライズ : デフォルト設定の回復　118
エンジン回転数のデジタル表示 (RPM)　119
バッテリー電圧　120
DDA　122
Pin Code　126
PIN CODE の変更　129
時計の調整　133
日付の調整　136
ディスプレイの背景の調整　139
LAP　141
単位の設定　147
その他の機能　154
ディスプレイの背景色　161
ランプコントロール　162
イモビライザーシステム　165
キー　165
作業　165
キーの複製　166
PIN CODE による車両ブロックの解除　166

運転時に必要なコマンド　169

コマンド類の配置　169
イグニッションスイッチ / ステアリングロック　170
左側スイッチ　171
クラッチレバー　172
右側スイッチ　173
スロットルグリップ　174
フロントブレーキレバー　174
リアブレーキコントロールペダル　175
ギアチェンジペダル　175
ギアチェンジペダルとリアブレーキペダルの配置調整　176

主要構成部品 / 装備　178
車両上の配置　178
燃料フィラープラグ　179
シートロック　180
サイドスタンド　181
ステアリングダンパー　182
フロントフォーク調整　183
リアショックアブソーバー調節　185
車高の調整　187

運転のしかた　188
慣らし運転の方法　188
走行前の点検事項　190
エンジンの始動　192
ブレーキ操作　195
車両の停止　198
パーキング　198
燃料の補給　199
付属アクセサリー　200

主な整備作業とメンテナンス　201
装飾部品の取り外し　201
サイドフェアリング　201
エアフィルターの交換　202
クーラントレベルの点検および補充　203
ブレーキ / クラッチフルードレベルの点検　205
ブレーキパッドの摩耗点検　207
バッテリーの充電　208
バッテリー充電および冬季の断熱　211
トランスミッションチェーン張力の点検　213
チェーンの潤滑　214
ハイ / ロービーム電球の交換　215
ヘッドランプの光軸調整　217
リアビューミラーの調整　219
チューブレスタイヤ　220
エンジンオイルレベルの点検　222
スパークプラグの清掃と交換　223
車両の清掃　224
長期間の保管　225
重要注意事項　225

メンテナンスプログラム　226
メンテナンスプログラム：ディーラーで行うメンテナンス　226
メンテナンスプログラム：お客様が行うメンテナンス　230

テクニカルデータ　231
全体寸法（mm）　231
重量　231
エンジン　233
タイミングシステム　233

性能データ　234
スパークプラグ　234
燃料供給　234
ブレーキ　235
トランスミッション　236
フレーム　237
ホイール　237
タイヤ　237
サスペンション　237
エキゾーストシステム　238
カラーバリエーション　238
エレクトリカルシステム　238

定期点検メモ　245

安全性ガイドライン

お客様とその他の人の安全性は非常に重要です。Ducati モーターホールディング社はお客様にモーターサイクルを責任をもって使用されることをお願いします。
お客様のモーターサイクルをはじめてご使用になる前に、本取扱説明書を最初から最後まで注意深くお読みになり、記載されているガイドラインに忠実に従ってください。正しい使用法とメンテナンスに関するすべての情報を得ることができます。
車両について不明な点、さらに詳しくお知りになりたい点がある場合は、ご購入先のオフィシャルディーラーにお問い合わせ下さい。

本取扱説明書で使用されている警告シンボルマーク

お客様又はその他の人に負わす可能性のある危険について、以下のような異なる形式で記載されています。
- モーターサイクルの安全性に関するラベル
- 注意シンボル、及び警告又は重要シンボルのうちの一つで表わされる安全性に関するメッセージ

警告
この説明を遵守しなかった場合、ライダー又はその他の人が重度の負傷および死亡に至る危険性があります。

重要
車両や車両構成部品に損傷を与える可能性があります。

参考
作業上の追加注意事項。

文中の「右」、「左」の表記は乗車位置から見た位置です。

用途

モーターサイクルはアスファルト舗装された道路又は平らで滑らかな路面でのみ使用することができます。
舗装されていない道路やオフロードではこのモーターサイクルを使用することができません。

⚠ 警告
オフロードでの使用はコントロールを失う原因となり、車両が破損したり、けがをしたり、さらには死亡したりすることがあります。

⚠ 警告
このモーターサイクルをトレーラーのけん引に使用したり、サイドカーを取り付けて使用してはいけません。コントロールを失う原因となり、事故につながる可能性があります。

このモーターサイクルにはライダーが乗り、付属キットを取り付けた場合パッセンジャーが乗ることができます。これは Ducati オフィシャルディーラーまたはサービスセンターでのみ取り付けることのできます。

⚠ 警告
ライダー、パッセンジャー、荷物、アクセサリーを含めた走行時の総重量は、370kg/816 lb を越えてはいけません。

ライダーの義務

すべてのライダーは運転免許証を所持していなければなりません。

⚠ 警告
無免許運転は法律違反で、法律により訴追されます。モーターサイクルを使用するときには免許証を携帯していることを確認してください。未経験者および有効な免許証を持っていないライダーに使用を認めないでください。

飲酒後や麻薬の使用後には運転しないでください。

⚠ 警告
飲酒運転や麻薬の使用後の運転は法律違反で、法律により訴追されます。

薬の副作用に関する情報をかかりつけの医師から説明を受けていない場合は、運転前の薬の服用は避けてください。

⚠ 警告
薬によっては眠気を催したり、運転者の反射神経やモーターサイクルの制御能力を減少させることがあり、事故を起こす危険があります。

保険の加入を義務付けている国があります。

警告
自身の国の法律を確認してください。保険に加入し、モーターサイクルのその他の書類と共に保険証書を大切に保管してください。

ドライバー及び必要に応じてパッセンジャーの安全を守るため、規格に適合したヘルメットの着用を法律で義務付けている国があります。

警告
自身の国の法律を確認してください。ヘルメット着用せずに運転すると処罰されることがあります。

警告
ヘルメットを着用しないと、事故の際、重傷や死に至る危険が高まります。

警告
ヘルメットが安全性の規格を満たしており、視界がよく、頭部にちょうどフィットし、自身の国の規格認証ラベルが貼られていることを確認してください。
交通関連法規は国によって異なります。モーターサイクルを運転する前に自身の国の現行の法律を確認し、常にそれに従ってください。

ドライバーのトレーニング

多くの事故は経験不足のために起こります。運転、操作、ブレーキは他の車両とは違う方法で行わなければなりません。

警告
ライダーの経験不足や車両の不適切な使用は、コントロールを失い、死や重大な破損の原因になる可能性があります。

服装

モーターサイクル使用時の服装は安全性の面で非常に重要です。モーターサイクルは衝撃に対して車のように人を保護することができません。

適切な服装とは、ヘルメット、目を保護するゴーグル、手袋、ブーツ、長袖ジャケット、長ズボンです。

- ヘルメットは11ページに記載されている要件を満たしていなければなりません。バイザーの付いていないモデルのヘルメットを使用する場合には、適切なメガネを使用してください。
- 手袋は革製又は摩耗に耐える素材のもので、5 本指のものでなければなりません。
- 運転用ブーツ又は靴は、滑り止めソール及び足首のプロテクションが付いていなければなりません。
- ジャケット及びズボン、又は防護スーツは、革製又は摩耗に耐える素材のもので、非常に目立つ色でなければなりません。

重要
いずれにせよ、車両にひっかかる可能性のあるひらひらした服装やアクセサリーの使用は避けてください。

重要
安全のため、季節を問わずこのような服を着用しなければなりません。

重要
パッセンジャーも安全のため、適切な服を着用してください。

安全のための"ベストプラクティス"

使用前、使用中、使用後、人の安全性の確保に非常に重要な簡単な作業及びモーターサイクルの有効なメンテナンスを忘れずに行ってください。

重要
慣らし運転期間中は細心の注意を払って、188 ページに記載されている内容を順守してください。順守されなかった結果、エンジンの損傷、および寿命の短縮などについて、Ducati モーターホールディング社はいかなる責任も負いません。

警告
運転中に使用する装置について熟知していない場合は運転しないでください。

起動前には本取扱説明書に記載されている点検を行ってください(190 ページ参照)。

警告
点検を行わないと、車両が破損したり、ライダー又はパッセンジャー、またはその両方に重大なけがを負わせる原因になることがあります。

警告
エンジンの始動は屋外又は十分な換気がされている場所で行い、閉ざされた場所では絶対にエンジンを始動させないでください。
排気ガスは有毒ですので、短時間で意識を失ったり、さらには死に至る危険性があります。
走行中はライダー、パッセンジャーと共に適切な姿勢を保ちます。

重要
ライダーは常にハンドルバーを握っていなければなりません。

重要
ライダー、パッセンジャー共に、走行中は足をフットレストに乗せておいて下さい。

重要
パッセンジャーは常にパッセンジャーシートにあるベルトを両手で握っていなければなりません。

重要
交差点や私有地の出口に近い場所、駐車場、高速道路への進入路等を走行する際は充分に注意して下さい。

重要
良好な視界を保ち、前方車両の″死角″に入らないよう走行して下さい。

重要
車線を変更する時や曲がる時には、常に適切にターンインジケーターを使用し、早めに合図を出して下さい。

重要
車両は人や物がぶつからないような場所にサイドスタンドを使用して停車して下さい。
車両が倒れる可能性があるので平面でないところや柔らかい地面には絶対に停車しないで下さい。

重要
タイヤを定期的に点検します。特に側面に傷やヒビがないか、突起、広範囲のシミ、内部の損傷を表すような箇所がないかを注意深く目視点検して下さい。損傷が著しい場合はタイヤを交換して下さい。トレッドに入り込んだ石や異物は取り除いて下さい。

警告
エンジン停止後でもエンジン、エキゾーストユニット、及びサイレンサーは長時間にわたり高温のままであるので、手を触れないよう充分注意し、車両を木材、木の葉などの可燃物のそばに駐車しないようにして下さい。

警告
モーターサイクルを目の届かない場所に置く場合には、常にイグニッションキーを抜き取り、車両の使用に適していない人の手に触れられないように保管してください。

燃料の補給

燃料の補給は屋外で、エンジンが停止している状態で行います。

給油時には絶対に喫煙せず、火気を近付けないでください。

エンジン及びエキゾーストチューブに燃料がかからないように注意してください。

給油中、燃料タンクを完全に満タンにしないでください。燃料レベルは燃料タンクの給油口より低くなければなりません。

給油中、燃料の蒸気をできるだけ吸いこまないようにし、目、皮膚、服に触れないようにしてください。

警告

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料（E10）のみ使用することができます。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁止されています　この燃料を使用すると車両のエンジン及び部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用すると保証の対象外になります。

警告

燃料の蒸気を長時間吸い込み気分が悪くなった場合には、屋外にとどまり、医師に相談してください。目に入った場合は大量の水で洗い流し、皮膚に触れた場合は速やかに石鹸水で洗ってください。

警告

燃料は非常に引火しやすいので、過って衣服に付着した場合には着替えてください。

最大積載時の運転

このバイクは最大積載時でも長距離を安全に走行できるように設計されています。

重量をバランス良く配分することは、通常の安全走行に必要な注意事項です。凸凹な道を走行したり、急な進路変更を必要とする際のトラブルを避けるために非常に重要です。

警告
車両許容重量を超えることのないよう、以下の積載容量に注意すること。

積載容量について

重要
積み荷は車両の中心に近く、できる限り低い位置に配置するよう努めて下さい。

重要
車両が不安定になりますので、ステアリングヘッドやフロントマッドガード部に、体積や重量のかさむものを固定しないで下さい。

重要
バッグなどの荷物は車体にしっかり固定してください。確実に固定されていない場合、運転が不安定になる危険があります。

重要
車両の可動部分の妨げになる恐れがありますのでフレームのすき間に絶対に物を挟まないで下さい。

警告
タイヤが、220 ページに定められた規定空気圧内の良いコンディションであることを確かめて下さい。

危険物 – 注意事項

使用済みエンジンオイル

警告
使用済みエンジンオイルは長期間にわたり繰り返し表皮に触れると、上皮がんの原因になることがあります。日常的に使用済みエンジンオイルを取り扱う場合には、使用後速やかに手を水と石鹸で入念に洗ってください。子供の手の届かない場所に保管してください。

ブレーキダスト

ブレーキユニットを清掃する際、圧縮空気のジェットやドライブラシは絶対に使用しないでください。

ブレーキフルード

警告
車両のプラスチック、ゴム製部品又は塗装部品にブレーキフルードがかかるとその部品の損傷の原因になることがあります。ブレーキシステムのメンテナンスを始める前に、これらの部品に清潔な布をかぶせてください。子供の手の届かない場所に保管してください。

警告
ブレーキフルードは腐食性です。誤って目や皮膚に付いた場合は、大量の流水で洗浄して下さい。

クーラント

特定の条件下ではエンジンクーラントに含まれるエチレングリコールが発火し、その炎は目に見えません。エチレングリコールが発火するとその炎は目に見えず、重大なやけどの原因になることがあります。

警告
エンジンクーラントをエキゾーストシステムやエンジン部品にかけないようにしてください。これらの部位は高温のためクーラントを発火させる危険があり、見えない炎で焦げてしまいます。

クーラント（ エチレングリコール ）は皮膚の炎症の原因になることがあり、飲み込むと有毒です。子供の手の届かない場所に保管してください。
エンジンがまだ熱いときにはラジエーターのキャップを取り外さないでください。クーラントは圧力がかかっており、やけどの原因になることがあります。

クーリングファンは自動的に作動するので手や衣服を近付けないでください。

バッテリー

警告

バッテリーは爆発性ガスを発生させます。火花、炎、タバコを近付けないでください。バッテリー充電を行う場所の換気が適切であることが確認してください。

車両識別番号

参考
これらの番号は車両モデルを識別するもので、部品を注文する際にも必要です。

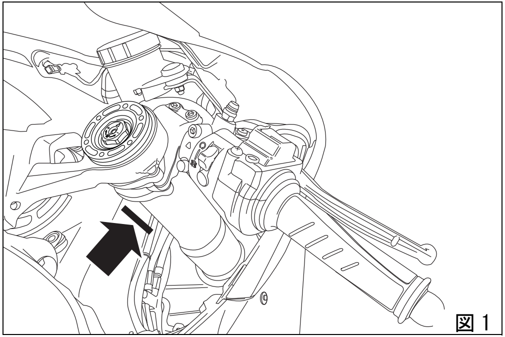


図 1

以下の欄に自身のモーターサイクルのフレーム番号を控えておくことをお勧めします。

フレーム　N.

エンジン識別番号

参考
これらの番号は車両モデルを識別するもので、部品を注文する際にも必要です。

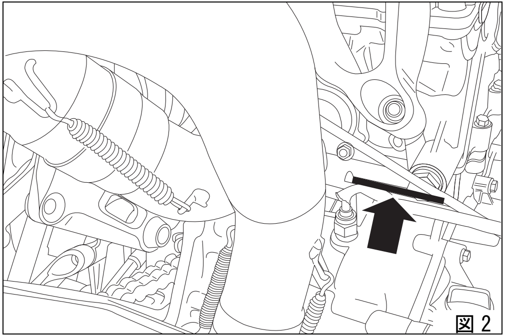


図 2

以下の欄に自身のモーターサイクルのエンジン番号を控えておくことをお勧めします。

エンジン　N.

インストルメントパネル（ダッシュボード）

1） ディスプレイ。
2） ニュートラルランプ N（緑）。
ギアポジションがニュートラルの時に点灯します。
3） ハイビーム表示灯 ≣D （青）。
ハイビーム点灯時及びフラッシュ起動時に表示します。
4） エンジンオイル圧警告灯 （赤）。
エンジンオイルのプレッシャーが低すぎる時に点灯します。"Key-on" の状態が必要ですが、エンジン起動後、数秒の停止が必要です。
エンジン温度が高い時に、場合によって数秒間点灯することがありますが、回転数が上がると消灯します。

⚠ 重要
エンジンに重度の破損をもたらす恐れがあるので、このランプ (4) が点灯続けている場合は、車両を使用しないで下さい。

5） リザーブ燃料警告灯 （琥珀色）。
燃料レベルがリザーブ状態になると点灯します。この際、燃料残量は約 5 リットルです。
6） ターンインジケーター表示灯 ⇦⇨ （緑）。
ターンインジケーターを ON にすると点滅します。
7） " エンジン / 車両診断 - EOBD" ランプ （琥珀色）。
エンジンや車両にエラーがあると点灯しますが、場合によっては、エンジンブロックにつながることもあります。
8） 一般警告灯（赤）（図 3）:
警告灯 (8a) は回転数が第一リミッター値に達すると点灯します。
警告灯 (8b) は回転数が第二リミッター値に達すると点灯します。
警告灯 (8c) は回転数が第三リミッター値に達すると点灯します。

9) ABSランプ （琥珀色）、ABSバージョン用（図3）。ABS 停止もしくはエラー時に点灯します。

エンジン停止 / 走行速度 5 km/h 以下		
ランプ OFF	点滅	点灯
-	メニューの "ABS" 機能を使って ABS が解除されている	ABSは起動しているがまだ作動していない
エンジン起動 / 走行速度 5 km/h 以下		
ランプ OFF	点滅	点灯
-	メニューの "ABS" 機能を使って ABS が解除されている	ABSは起動しているがまだ作動していない
エンジン起動 / 走行速度 5 km/h 以上		
ランプ OFF	点滅	点灯
ABS 機能は起動中	メニューの "ABS" 機能を使って ABS が解除されている	問題発生のため、ABS は解除され作動していない

10) DTC 干渉（琥珀色）（図 3）:

	DTC
干渉なし	ランプ OFF
アドバンサーなし	ランプ ON 固定
インジェクションなし	ランプ ON 固定

11) OVER REV/ イモビライザー抑止 / 盗難防止（赤）（図 3）:

	Over rev
干渉なし	ランプ OFF
第一リミッター値（N リミッターの前の RPM）	ランプ ON 固定
リミッター	ランプ ON 点滅

参考

それぞれのエンジンコントロールユニットの較正は、リミッター値とリミッター自体により異なる設定になる場合があります。

	イモビライザー
車両 key-on	ランプ OFF
車両 key-on	ランプ ON 点滅
12 時間以上車両 key-off	ランプ OFF

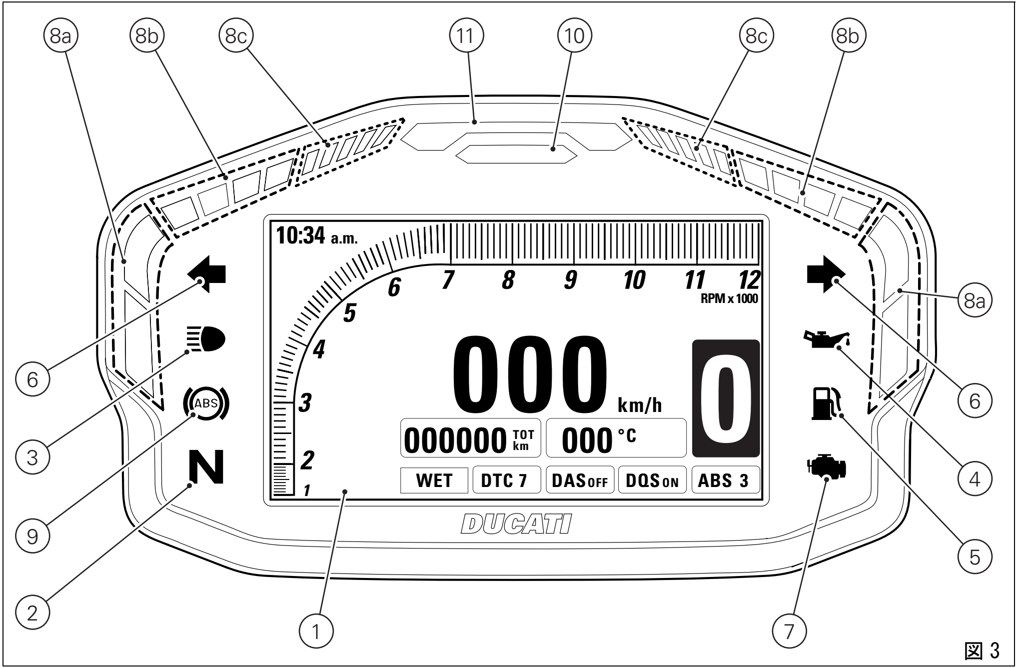

8a
8b
8c
11
10
8c
8b
8a
6
3
9
2
1
7
5
4
6
10:34 a.m.
6
7
8
9
10
11
12
RPM x 1000
5
4
3
2
1
000
km/h
0
000000 TOT km
000 °C
WET
DTC 7
DASOFF
DQSON
ABS 3
ABS
N
DUCATI

図 3

本マニュアルで使用されている頭字語及び略語

ABS
アンチロックブレーキシステム
BBS
ブラックボックスシステム
CAN
コントローラーエリアネットワーク
DDA
ドゥカティデータアナライザー
DES
ドゥカティエレクトロニックサスペンション
DSB
インストルメントパネル
DTC
ドゥカティトラクションコントロール
DQS
ドゥカティクイックシフト
EBC
ドゥカティエンジンブレーキコントロール
ECU
エンジンコントロールユニット
E-Lock
エレクトロニックメインスイッチセット
GPS
グローバルポジショニングシステム
UP-MAP
マップ / キャリブレーションアップデーター

技術用語

エンジンブレーキコントロール (EBC)

エンジンブレーキ調整システム (EBC) はアンチホッピングクラッチと連動して機能し、急激なシャフトダウンの際のリアホイールのブロックを防止します。システムがホイールのスリップを検知すると、エンジン制御装置に信号を送り、リアホイールのスピードが車両スピードと同じになるよう回転数を若干増加させます。
3 レベルのオペレーションシステムが装備され、EBC は3 つのライディングモードに組み込まれています。

ライディングモード

1199 Panigale ではライダーは３つの初期設定（ライディングモード）からドライビングスタイルや道路の状態に最も合っているものを選択することができます。ライディングモードでエンジン出力（パワーモード）、ABS 干渉レベル（搭載機種）、DTC、DQS、EBC、インストルメントパネルの表示、S バージョンではサスペンションの設定（DES）を瞬時に変更することができます。
1199 Panigale で使用できる設定は、Race、Sport、Wet です。ライダーはそれぞれのライディングモードの初期設定を自由に変更することができます。

パワーモード

パワーモードはライダーが出力レベルと排気モードをライディングモードと道路の状態に合わせて最も合っているものを選択できるエンジンマッピングです。1199 Panigale には 3 つのパワーモードがあります。それぞれライディングモードと連動します。
120 CV、低出力
195 CV、低出力
195 CV、瞬間出力

ライドバイワイヤ（RbW）

ライドバイワイヤシステムは燃料供給スロットル開閉の電子制御装置です。ガスグリップとスロットルボディが機械的に接続されていなくても、スロットルの開度に作用し、エンジン ECU が出力を調整できるようにするものです。
ライドバイワイヤは選択したライディングモードに合わせて出力と排出量を変更（パワーモード）し、エンジンブレーキ（EBC）をタイムリーに管理することができ、リアホイールのスリップを制御します（DTC）。

ドゥカティエレクトロニックサスペンション（DES）

Öhlins のドゥカティエレクトロニックサスペンションシステムは、油圧ブレーキのリバウンド及びコンプレッションダンピングを自動的に調整します。これは、選択したライディングモードに合わせてサスペンションのセットアップを変更したり、ライダーが自身のドライビングスタイルに合わせてパーソナライズすることができます。

ドゥカティトラクションコントロール (DTC)

ドゥカティトラクションコントロール (DTC) はリアホイールのスリップ制御を行い、8 つの干渉レベルを基に機能します。それぞれリアホイールのスリップに対し異なる許容値がプログラムされています。それぞれのライディングモードにはあらかじめ設定された干渉レベルが割り当てられています。
レベル 8 はごくわずかなスリップを検知しただけでシステムが作動し、一方、熟練ライダー向けのレベル 1 は許容値が高いのが特徴で、システムの干渉が最小限に抑えられます。

アンチロックブレーキシステム (ABS) 9ME

1199 Panigale に搭載されている ABS 9ME はデュアルチャンネルの次世代システムで、リアホイールのリフティングを制御することでインテグラルブレーキを行い、停止距離を短くするだけでなく、ブレーキ動作における高い安定性を確保します。ABS 9ME は主にスポーツドライブ用に設定されており、3 つの干渉レベルがあり、それぞれのライディングモードと連動しています。RACE モードではシステムはフロントディスクにのみ作用し、サーキットにおいてさらに高いパフォーマンスを保証します。

エンジンブレーキコントロール (EBC)

エンジンブレーキ調整システム (EBC) はアンチホッピングクラッチと連動して機能し、急激なシャフトダウンの際のリアホイールのブロックを防止します。システムがホイールのスリップを検知すると、エンジン制御装置に信号を送り、リアホイールのスピードが車両スピードと同じになるよう回転数を若干増加させます。
3 レベルのオペレーションシステムが装備され、EBC は 3 つのライディングモードに組み込まれています。

ドゥカティクイックシフト (DQS)

ドゥカティクイックシフト (DQS) はレースにおけるギア電子制御システムで、ガスオープンのままクラッチを使用せずに加速中にギアを挿入することができます。これにより 100 分の 1 秒も無駄にせずラップタイムを短くすることが可能になります。

ドゥカティデータアナライザー (DDA+)

DDA+ はドゥカティデータアナライザーの最新モデルで、GPS 信号を読み取り " バーチャルフィニッシュライン " を作成します。システムはライダーの操作なしに自動的にラップの終了を検知し、ストップウォッチ測定を中断します。GPS 信号を使用することでサーキットのマップ上に軌跡及びスロットル開度、スピード、エンジン速度、ギア、エンジン温度、DTC 干渉といった車両のメインパラメーターを表示することができます。

機能ボタン

1)　コントロールボタン（図4）UP″▲″
インストルメントパネル″▲″上の設定および表示に使用するボタン。
2)　コントロールボタン（図4）DOWN″▼″
インストルメントパネル″▼″上の設定および表示に使用するボタン。
3)　フラッシャーランプボタン（図4）
フラッシャーランプ機能ボタンは LAP 機能に使用する場合もあります。
4) ターンインジケーター解除ボタン(図4)メニュー決定ボタン
このボタンは通常ターンインジケーターの解除機能に使用しますが、メニュー決定、ライディングモードの選択にも使用します。

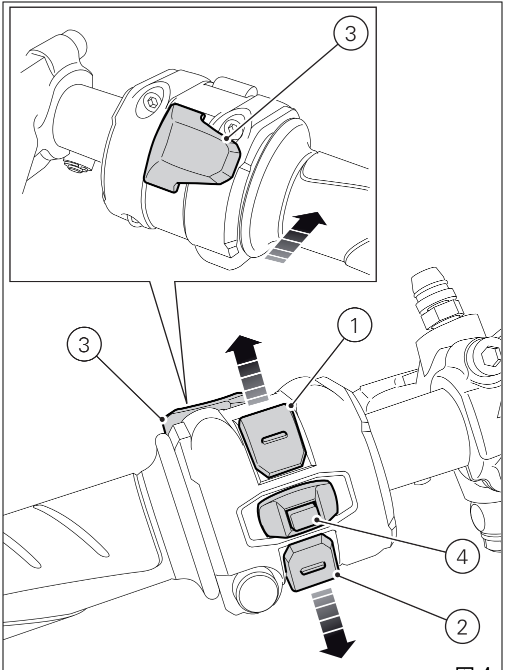


図 4

パラメータ設定 / 表示

車両を起動するとインストルメントパネルはディスプレイに DUCATI のロゴを表示し、LED の明るいランプ（" 初期点検 "）が 2 回点灯します。
点検後、インストルメントは ROAD 又は TRACK のメインスクリーンを表示します (key-off 前に使用した設定による)。

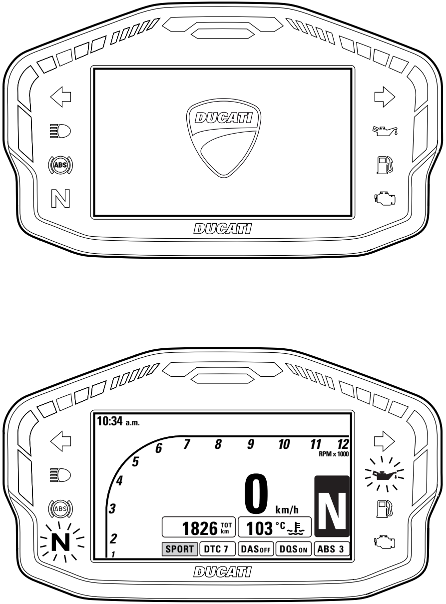


図 5

車両が Performance 仕様の場合、すなわち Performance エキゾーストキット（ 部品番号 96450211B）– Performance サイレンサーキット（部品番号 96450311B）が搭載されている場合、車両起動時にインストルメントパネルは DUCATI のロゴの後、"RACING" 又は "RACING EVO" を表示します。
- RACING：車両に Performance サイレンサーキットが搭載されている場合
- RACING EVO：車両に Performance エキゾーストユニットキットが搭載されている場合

参考
Performance エキゾーストキット（ 部品番号 96450211B）– Performance サイレンサーキット（部品番号 96450311B）はディーラー又は Ducati サービスセンターでお求めいただけます。

警告
Performance エキゾーストキット（ 部品番号 96450211B）– Performance サイレンサーキット（部品番号 96450311B）の取り付けはディーラー又は Ducati サービスセンターに依頼してください。

点検中に車両スピードが 10 km/h（実スピード）を超えると、インストルメントパネルは以下を中断します。
- ディスプレイの点検。更新情報をスタンダードスクリーンに表示します。
- 警告灯の点検。その時点で実際に起動している物のみ点灯します。

参考
キーを OFF の位置にすると、車両への電源供給て直ちに停止されるわけではなく、70 秒後に停止されます。

図 6

メインスクリーンのレイアウトはROADとTRACKの2種類があります。メインスクリーンに表示可能な情報は以下のものです。

1) エンジン回転数棒グラフ
2) 車両スピード
3) ギア
4) メニュー1（オドメーター、トリップメーター1、トリップメーター2、燃料リザーブトリップメーター、ラップタイム - 起動時のみ）
5) メニュー2（エンジンクーラント温度、瞬間燃費、平均燃費、平均スピード、走行時間、外気温）
6) 設定ライディングモード (Riding Mode)
7) 起動しているDTCのレベル又はDTC停止の表示
8) 起動しているEBCのレベル又はEBC停止の表示
9) DQS起動又は停止の表示
10) 起動しているABSのレベル又はABS停止の表示（ABSバージョンのみ）
11) DDA起動の表示（搭載機種のみ）
12) GPS受信の表示（搭載機種のみ）
13) 時計
14) SERVICE表示（起動時のみ）- アラーム/警告表示（ある場合のみ）- エラー表示（ある場合のみ）

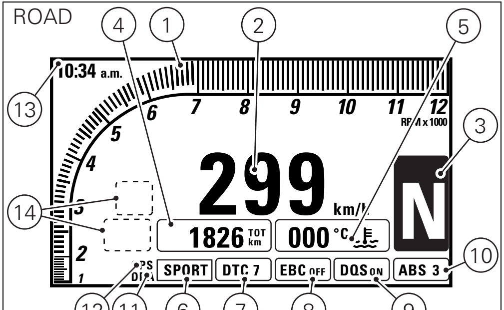


図 7

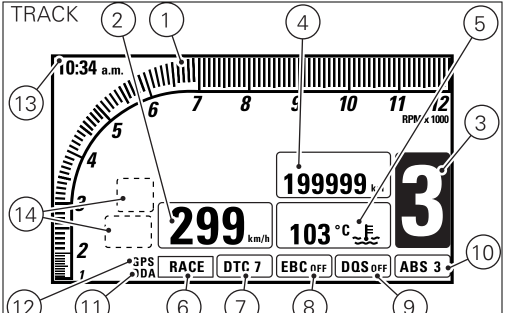


図 8

メニュー 1 の情報を表示するにはボタン (1) を押します。
ROAD 及び TRACK モードで表示される情報は以下の順です。
- オドメーター (TOT)
- TRIP 1
- TRIP 2
- TRIP FUEL (起動時のみ)
- ラップタイム (LAP) - TRACK モードのみ

メニュー 2 の情報を表示するにはボタン (2) を押します。
ROAD 及び TRACK モードで表示される情報は以下の順です。
- 冷却水温度
- 瞬間燃費 (CONS.)
- 平均燃費 (CONS. AVG)
- 平均スピード (SPEED AVG)
- 走行時間 (TRIP TIME)
- 外気温

車両を起動 (Key-ON) した時にメニュー 1 及びメニュー 2 に表示される情報は、Key-OFF 前に表示されていたものです。

参考
ROAD 及び TRAC モード双方で、Key-ON 時にメニュー1 には出発の時点で設定したパラメーター (オドメーター - TOT) が 10 秒間表示され、その後最後の Key-OFF 時のパラメーターが表示されます。

参考
急な Key-OFF (電源供給の急な停止) の場合、次の Key-ON 時にはインストルメントパネルにデフォルトの設定が表示されます。特に、
- メニュー 1 ではオドメーター (TOT)
- メニュー 2 ではエンジンクーラント温度が表示されます。

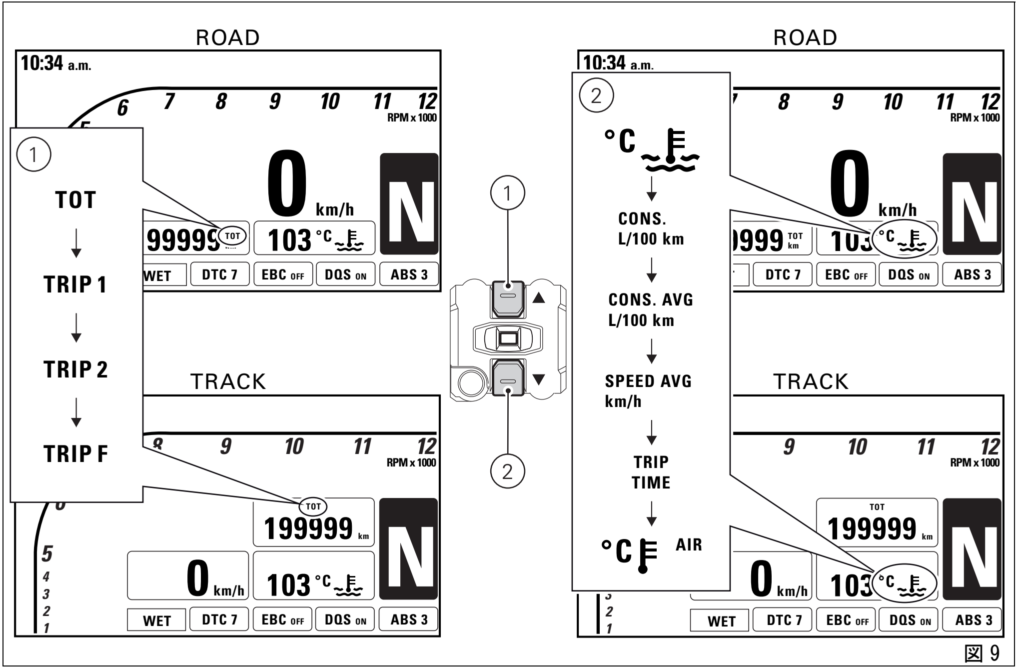

ROAD
10:34 a.m.
6 7 8 9 10 11 12
RPM x 1000
0 km/h
N
199999 TOT
103 °C
WET
DTC 7
EBC OFF
DQS ON
ABS 3
1
TOT
TRIP 1
TRIP 2
TRIP F
TRACK
2
°C
CONS.
L/100 km
CONS. AVG
L/100 km
SPEED AVG
km/h
TRIP
TIME
°C AIR

図 9

スタンダードスクリーンが表示された場合、車両の実スピードが 20 km/h 以下の状態でボタン（2）を 3 秒間押すと、機能設定を行うことのできる設定メニューに入ります。

重要

設定メニューには車両の実スピードが20km/h以下の場合にのみ入ることができます。設定メニュー内にいるときに車両の実スピードが20km/hを超えると、インストルメントパネルは自動的にこのメニューを終了しスタンダードスクリーンを表示します。

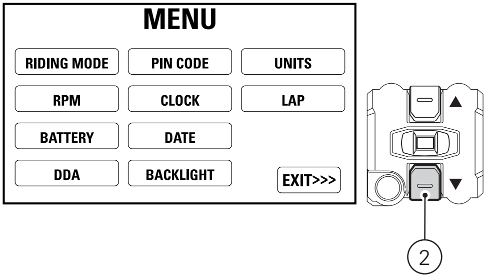


図 10

Key-ON 時及び点検終了時にキーがインストルメントに認識されない場合、

- PIN CODE 機能が起動していない場合、スタンダードスクリーンが表示されます。この時、警告灯の初期点検は行われず、E-LOCK エラーが表示され、設定メニューに入ることはできません。

PIN CODE 機能が起動している場合、PIN CODE 機能のページ表示され、解除暗号を入力します（"PIN CODE による車両の解除" の章を参照）。

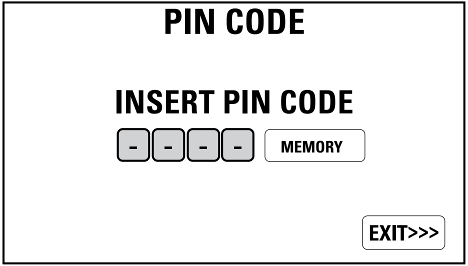


図 11

メイン機能

スタンダードスクリーンに表示される機能

メイン機能
- エンジン回転数表示 RPM
- 車両スピード
- ギア
- ライディングモード (Riding Mode)
- DTC
- EBS
- DQS
- ABS
- メニュー 1 には以下の機能が表示されます
  - -オドメーター (TOT)
  - -トリップメーター 1(TRIP1)
  - -トリップメーター 2(TRIP2)
  - -燃料リザーブトリップメーター (TRIP FUEL)
  - -ラップタイム (LAP time) - 起動している場合、TRACK モードのみ
- メニュー 2 には以下の機能が表示されます
  - -エンジンクーラント温度
  - -瞬間燃費 (CONS.)
  - -平均燃費 (CONS. AVG)
  - -平均スピード (SPEED AVG)
  - -トリップタイム (TRIP TIME)
  - -外気温

サブ機能
- DDA (搭載機種のみ)
- DDA (搭載機種のみ)
- 時計 (CLOCK)
- メンテナンス表示 (SERVICE)
- 注意 / 警告表示 (Warning)
- エラー表示

設定メニューのうちユーザーが変更できる機能
- ライディングモード (RIDING MODE) のパーソナライズ。パーソナライズメニュー内で以下の機能を設定することができます
  -ABS 調整 (ABS)
  -エレクトロニックサスペンション調整 (DES)
  -ディスプレイの設定 (DISPLAY)
  -DQS 起動 / 解除 (DQS)
  -DTC レベルの設定 (DTC)
  -エンジン調整 (ENGINE)
  -EBC レベルの設定 (EBC)
  -デフォルト設定の回復 (DEFAULT)
  -エンジン回転数のデジタル表示 (RPM)
- バッテリーテンション (BATTERY)
- DDA (起動 / 解除 – 表示 – 削除)
- PIN CODE (入力 / 変更)
- 時計の調整 (CLOCK SETTING)
- 日付の調整 (DATE)
- ディスプレイ背景の設定 (BACK LIGHT)
- 単位の設定 (スピード – 温度 – 燃費) UNIT
- LAP (表示 / 削除 / 自動設定の回復)

10500rpm から 11500rpm のゾーン (事前警告ゾーン) はディスプレイにオレンジ色の棒グラフ及び数値 11 (″ オレンジゾーン ″) で表示されます。
11500rpm から 12000rpm のゾーン (警告ゾーン) はディスプレイに赤の棒グラフ及び数値 12 (″ レッドゾーン ″) で表示されます。

⚠ 重要
走行距離が 1000km (慣らし運転) までの期間、すなわちオドメーターの表示が 1000km 以下では、6000rpm に達すると、″ オレンジゾーン ″ (事前警告ゾーン – ディスプレイにオレンジ色の棒グラフ及びそれに相当する数値を表示) が表示されます。慣らし運転期間中は 6000rpm を超えないこと、すなわちインストルメントパネルの棒グラフに '' オレンジゾーン ″ が表示されないことが推奨されます。

慣らし運転期間が終了すると、" オレンジゾーン " はエンジンが冷たい状態でエンジン回転数を抑えるよう指示します。" オレンジゾーン " は以下に示すようなエンジン温度によって変化します。

- 8000rpm 以上、エンジン温度 40 度以下
- 9000rpm 以上、エンジン温度 50 度以下
- 10500rpm 以上、エンジン温度 50 度未満

回転数リミッターの限界値に到達すると点灯する警告灯は以下の数値で 3 つのグループに分けられます。

1ª 10500 rpm まで (A)

2ª 10700 rpm まで (B)

3ª 10900 rpm まで (C)

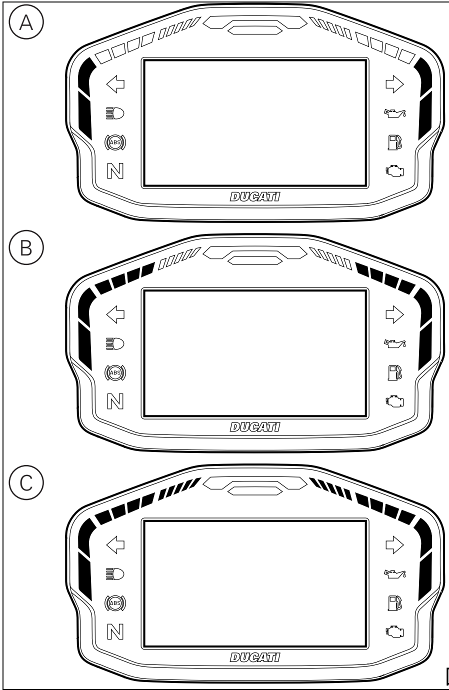


図 12

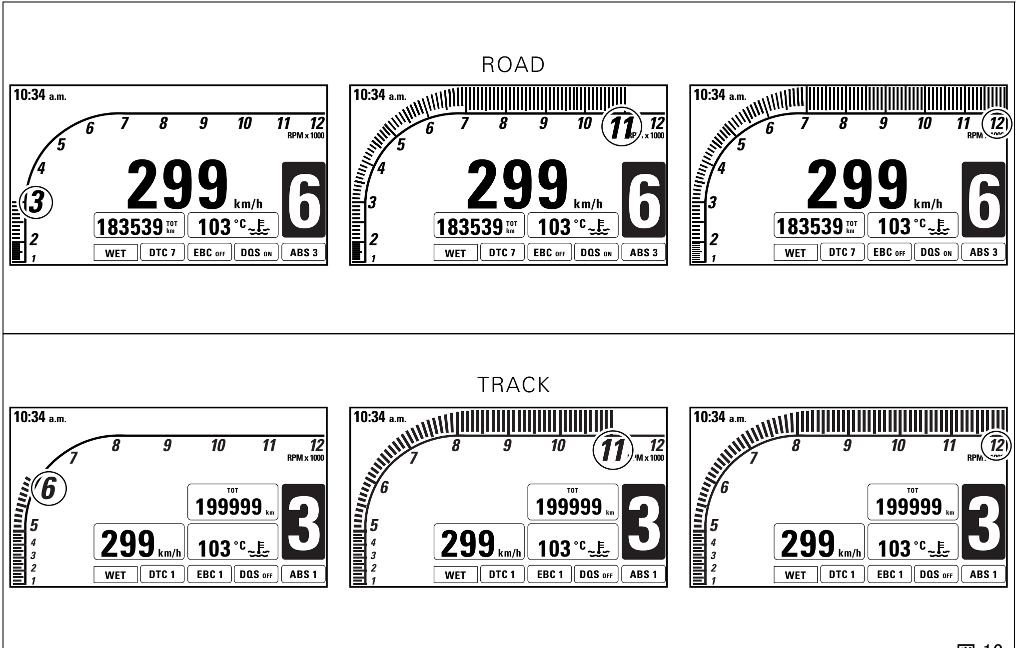

ROAD
10:34 a.m.
RPM x 1000
299 km/h
6
183539 TOT km
103 °C
WET
DTC 7
EBC OFF
DQS ON
ABS 3
TRACK
199999 km
3
DTC 1
EBC 1
DQS OFF
ABS 1

図 13

車両スピード

インストルメントパネルは車両の実スピード（km/h で算出）情報を受信し、ディスプレイに 5% 上乗せしたデータを設定した単位（km/h 又は mph）で表示します。

以下の場合、"---" が表示されます。
- スピードが 299 km/h 又は 186 mph の場合、又は、インストルメントパネルがスピード情報を受信しない場合（"---" 点灯）
- リアスピードセンサーエラー（"---" 点滅、EOBD ランプ点灯、SPEED SENSOR エラー表示）

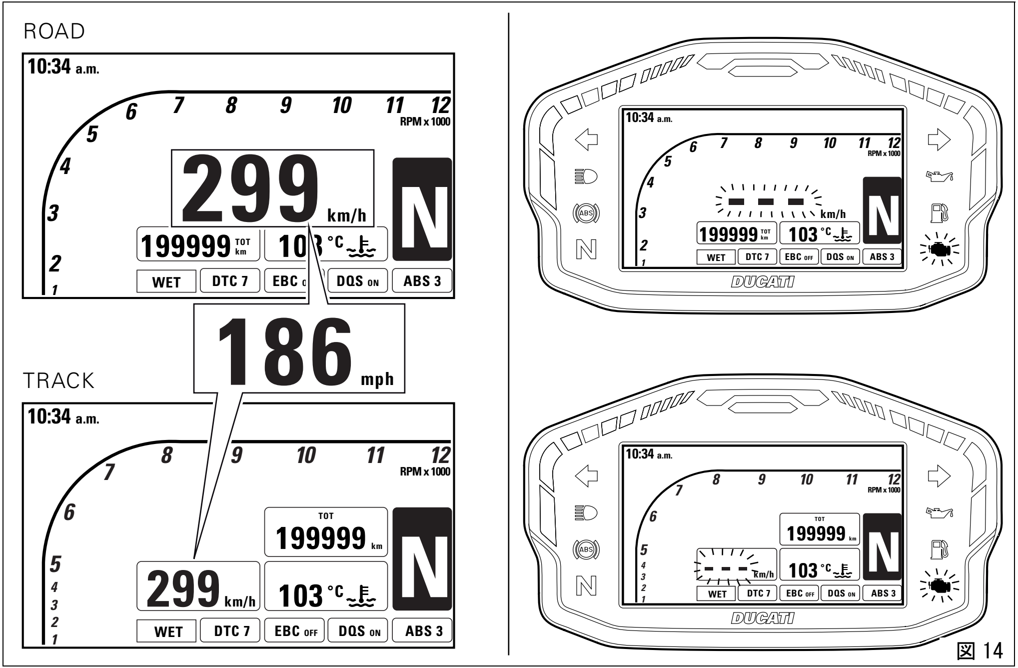

ROAD
10:34 a.m.
6 7 8 9 10 11 12
RPM x 1000
299 km/h
199999 TOT km
103 °C
N
WET
DTC 7
EBC OFF
DQS ON
ABS 3
186 mph
TRACK
DUCATI

図 14

ギア

インストルメントパネルは車両のギアに関する情報を受信し、ディスプレイにその値を表示します。

ギアが挿入されていると 1 から 6 の値が表示され、ニュートラルの状態では N の文字が表示されます。ギアチェンジする必要がある場合は、C の文字が表示されます。

以下の場合は "--" が表示されます。

- ギアの学習を行っていない（"--" 点滅、ニュートラルランプ (A) 点滅）
- ギアセンサーエラー（"--" 点滅、EOBD ランプ (B) 点灯、GEAR SENSOR エラー表示）
- インストルメントパネルがギア情報を受信していない（"--" 点灯）

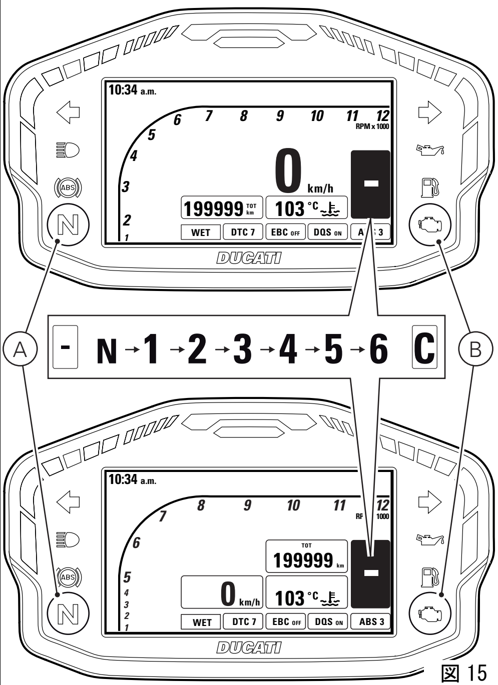


図 15

ライディングモード (Riding Mode)

インストルメントパネルから好みのライディングモードを選択することが可能です。あらかじめ設定された 3 つのライディングモード RACE、SPORT、WET から選択します。

選択したライディングモードはインストルメントパネルのディスプレイの下部に表示されます。ライディングモードのパラメーターがデフォルトのものである場合、緑色の長方形内に、一方ユーザーがパーソナライズしたパラメーターの場合はオレンジ色の長方形内に表示されます。

それぞれのライディングモードには以下のドゥカティが設定したパラメーター、又はユーザーが設定機能のページで変更したパラメーターが連動しています。

- トラクションコントロール DTC 干渉レベル（1、2、3、4、5、6、7、8、off）
- スロットル作動を変更するエンジン出力 （195Hi、195Lo、120）
- ABS システムの許容値（1、2、3、off）
- EBC　エンジンブレーキコントロールシステムの干渉レベル（1、2、3、off）
- DQS ギアクイックシフトの使用の有無 （DQS on 又は DQS off）

それぞれのライディングモードには情報表示のスタンダードスクリーン（ROAD、TRACK）が異なり、それらはドゥカティが設定したもの、又は、ユーザーが設定機能のページで変更したものです。

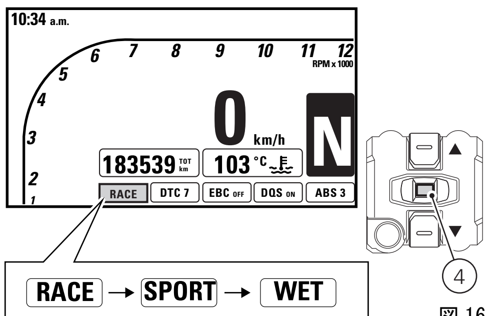


図 16

重要

ドゥカティは車両停止時にライディングスタイルを変更することをお勧めします。運転中にスタイル変更を行なう場合は、充分ご注意下さい（低速での変更をお勧めします）。

ライディングモードの選択

メニュー決定ボタン (4) を押して、ライディングモード選択メニューに入ります (A、図 17)。
インストルメントパネルはスピードを表示したまま (ディスプレイの右側) ライディングモードの名前を表示します (ディスプレイの左側)。
- RACE
- SPORT
- WET

最後にメモリーし、現在使用中のライディングモードが強調表示されます。

⚠ 警告
ボタン (4) がターンインジケーター起動の位置、すなわち右又は左にある場合は、ライディングモード選択メニューに入ることはできません。

強調表示されたライディングモードについて対応するパラメーターの一部が表示されます。
- DTC システム : DTC が起動している場合、DTC の文字の後、設定干渉レベル (1、2、3、4、5、6、7、8) が表示され、DTC が解除されている場合、OFF の文字が表示されます。
- EBC システム : EBC が起動している場合、EBC の文字の後、設定干渉レベル (1、2、3) が表示され、EBC が解除されている場合、OFF の文字が表示されます。
- エンジン出力 (ENGINE): ENG の文字の後、設定エンジン出力が表示されます。出力は 195 Hi、195 Lo 又は 120 の値で表示されますが、いくつかの国 (例、フランス、日本) では出力は HIGH、MID 又は LOW2 と表示されます。
- DQS システム : DQS が起動している場合、DQS の文字の後、ON の文字が表示され、DQS が解除されている場合、OFF の文字が表示されます。
- ABS システム : ABS が起動している場合、ABS の文字の後、設定許容レベル (1、2、3) が表示され、ABS が解除されている場合、OFF の文字が表示されます。

表示される情報はそれぞれのライディングモードにメモリーされている値です。その値はドゥカティが設定した値、又はユーザーがパーソナライズした値です。
メニュー決定ボタン (4) を押す度にライディングモードが表示可能なパラメーターと共に強調されます (A、図 17)。
選択したライディングモードが強調されたら、メニュー決定ボタン (4) を2秒押し続け希望のライディングをモードを決定します。ライディングモードの変更がメモリーされ、スタンダードスクリーンの画面に戻ります (B、図 17)。
選択したライディングモードが強調されてもメニュー決定ボタン (4) を 10 秒以内に押さないと、ライディングモードは変更されず、スタンダードスクリーンの画面に戻ります (C、図 17)。

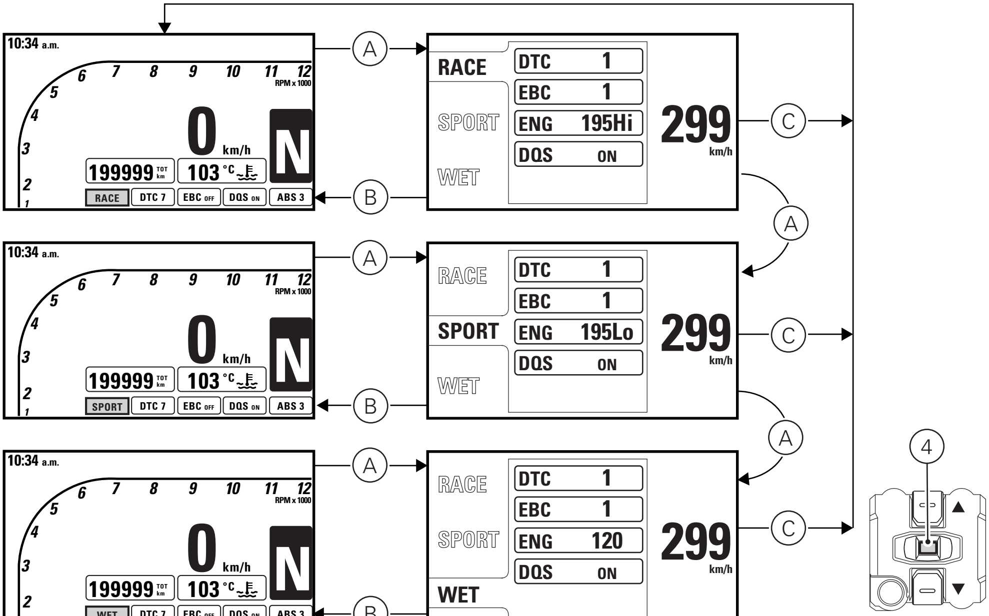

10:34 a.m.
RPM x 1000
0 km/h
N
199999 TOT km
103 °C
RACE
DTC 7
EBC OFF
DQS ON
ABS 3
A
B
C
RACE
SPORT
WET
DTC 1
EBC 1
ENG 195Hi
DQS ON
299 km/h
SPORT
ENG 195Lo
WET
ENG 120
4

図 17

以下の場合、ライディングモードの変更の決定をしてもエラーになります。

- ABS システムが搭載されていないバージョンでスロットルコントロールが開いている場合、スロットル閉鎖（CLOSE THROTTLE ）エラーが表示され、5 秒以内にスロットルコントロールが閉じられないとライディングモードの変更は行われず、スタンダードスクリーンの画面に戻ります。
- ABS システム搭載バージョンでスロットルコントロールが開き、ブレーキがかかり、車両が走行中の場合、スロットル閉鎖及びブレーキ開放（CLOSE THROTTLE AND RELEASE BRAKES ）エラーが表示され、5 秒以内にスロットルコントロールを閉じるか、ブレーキを放すか、又は車両のスピードがゼロにならないとライディングモードの変更は行われず、スタンダードスクリーンの画面に戻ります。

参考

ABS システム搭載バージョンでは、ライディングモードの変更時に ABS システムの状態を ON（起動）から OFF（解除）又は OFF（解除）から ON（起動）に変更すると、選択したライディングモードを決定するときにインストルメントパネルは ABS システムの起動又は解除の手続きも行います。

図 18

図 19

DTC

インストルメントパネルはディスプレイに DTC 機能の状態を以下のように表示します。
- DTC が起動している場合、DTC の文字とトラクションコントロール干渉レベルの 1 から 8 までの数値
- DTC が解除されている場合、DTC OFF の文字
- DTC エラー又はブラックボックスコントロールユニットエラーの場合、DTC --- の文字、及び EOBD ランプが点灯し、対応するエラーが表示されます。

警告

DTC はライダーをアシストするシステムで、一般道走行時でもサーキット利用時でも使用できます。アシストシステムとは、車両の運転がより確実に安心なものとなるためのメカニズムで、ライダーの注意による正しい行動を制限するものではなく、道路交通法の観点から言う偶発的に起こりうる間違いや、外的要因による間違いに対するアシストをするためにのものです。

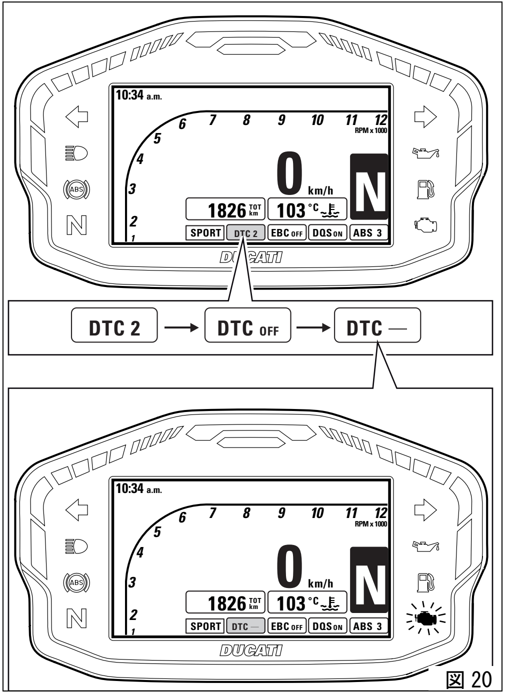


図 20

この安全システムは事故予防のためのシステムです。これらの機能は車両の運転を助け、その管理を簡単で確実なものにします。車両が走行している路面状況や道路交通法など各種規制範囲を超えたり、合理的に許容されるスピードを超えて走行するライダーを阻止するシステムではありません。

下記の表は、各タイプのライディングに適した DTC 干渉レベルで、ユーザーが"RIDING MODE" からデフォルト設定を選択することできます。

DTC レベル	ライディングモード	使用	DEFAULT
1	RACE	熟練ライダーが Pirelli の SC2 タイヤ用に最適化されたサーキットで使用 スキッドします	NO
2	RACE	熟練ライダーが OEM タイヤ（相手先ブランド名製造）用に最適化されたサーキットで使用 スキッドします	ライディングモード RACE のデフォルトレベル
3	RACE	熟練ライダー向けサーキットでの使用 スキッドします	NO
4	RACE	（熟練ライダー向け）サーキット （及びストリート）での使用	NO
5	SPORT	ENGINE 195cv LOW（最大出力 195 馬力、排出量 Smooth）の使用に適したストリート及びサーキットでのスポーツドライブ用	SPORT デフォルト
6	SPORT	ENGINE 195cv LOW（最大出力 195 馬力、排出量 Smooth）の使用に適したストリート及びサーキットの乾燥した路面でのセーフティードライブ用	NO
7	WET (RAIN)	雨天時用のタイヤ、特に Pirelli Diablo Rain タイヤ（リア 190/55 ZR17）用に最適化されたサーキットでの使用	NO
8	WET (HEAVY RAIN)	OEM タイヤ（相手先ブランド名製造）を使用し濡れた路面かつ非常に滑りやすいアスファルトでの使用。ENGINE 120 と合わせて使用します。	ライディングモード WET のデフォルトレベル

レベルの選択に際しての注意事項

⚠ 警告

車両に搭載されている DTC システムのレベル 1 の調整は車両の標準装備のタイヤではなく SC2 タイヤ（Pirelli Diablo Supercorsa SC2）を使用して行われました。特徴の異なるタイヤでこのレベルを使用すると、システムの機能の特徴が異なることがあります。
車両に搭載されている DTC システムのレベル 7 の調整は車両の標準装備のタイヤではなく Rain タイヤ (Pirelli Diablo Rain 、リアサイズ 190/55 ZR17) を使用して行われました。特徴の異なるタイヤでこのレベルを使用すると、システムの機能の特徴が異なることがあります。
車両に搭載されている DTC システムのレベル 2-3-4-5-6-8 の調整は、車両の標準装備のタイヤ Pirelli Diablo Supercorsa SP フロント 120/70ZR17, リア 200/55ZR17) を使用して行われました。標準装備のタイヤとサイズや特徴の異なるタイヤを使用すると、システムの機能の特徴が異なることがあります。
標準装備のタイヤとモデルやメーカーが違うが、サイズクラスが同じ (リア＝ 200/55ZR17、フロント＝ 120/70ZR17) など､少し違うだけのタイヤを使用する場合、システムの機能を最適化するには、選択可能なレベルのうち、より適切なレベルを選択することでカバーできるでしょう。
サイズクラスの違うタイヤ、又はサイズが少しだけ違うタイヤを使用する場合、システム機能は設定可能な 8 レベルのどれも納得できるものではない可能性があります。この場合、システムは解除する事をお勧めします。

レベル 8 を選択すると､DTC システムはリアタイヤのわずかなスピンにも対応します。レベル 8 からレベル 1 の順に DTC システムの干渉レベルが小さくなります。レベル 1、2、3 ではリアタイヤにスピンやスキッドさせることができます。これらのレベルはサーキットで熟練ライダーのみが使用することが推奨されます。特にレベル 1 は SC2 タイヤを使用する場合のみに最適に機能するよう考慮されたものです。

正しいレベルを選択すると主に以下のパラメーターが機能します。
タイヤ / アスファルトに関連する安定性 (タイヤのタイプ、磨耗状態、アスファルトの種類、気候など)
レイアウト / 行程 (同じような、又は全く異なったカーブ)
ライディングスタイル (より ″ 丸く ″ 又は ″ 鋭く ″)

定着状況によるレベルの関係 : 正しいレベルの選択はレイアウト / 行程中の定着状況に影響します (後述のサーキットおよび一般道での使用時のアドバイス参照)。

レイアウトのタイプによるレベルの関係：レイアウト / 行程に同じスピードで走ることのできるカーブがいくつもある場合、それぞれのカーブで満足できる干渉レベルを簡単に見つけることができるでしょう。一方、様々カーブがレイアウト / 行程にある場合、妥当な DTC 干渉レベルが必要になります。

ライディングスタイルからのレベル選択

DTC は " 丸く " 操縦する人にはバイクを倒し、" 鋭く " 操縦する人には車体を上げて、カーブからより早く抜けれるよう介入します。

サーキットでの使用時のアドバイス

タイヤを温める間の数周は、システムとの接触を良くするため、レベル 8 に設定して走行することをお勧めします。その後、レベルを 7、6、と DTC の最適なレベルに達するまで調整します（ タイヤを温めるため、ひとつのレベルごとに数周する ）。

1 つか 2 つのゆるいカーブ以外は納得のできるレベルの場合、違うレベルに設定しようと調整するよりは、ゆるいカーブでのライディングスタイルを少し " 鋭く " し、カーブ出口での車体角度をより早く上げて走行するとよいでしょう。

一般道での使用時のアドバイス

DTC を起動した後、レベル 8 を選択し、好みのスタイルで運転します。DTC が介入しすぎると感じる場合は、レベルを 7、6、と順番に落とし、快適なレベルに達するまで調整して下さい。
定着状況や行程の種類、ライディングスタイルを変更し、設定レベルでは満足できない場合は、次のレベルに設定します。この方法で最も快適なレベルに調整します (例 : レベル 7 では DTC が介入しすぎると感じる場合はレベル 6 に、レベル 7 では全く DTC の介入がないと感じる場合はレベル 8 に)。

EBC

インストルメントパネルはディスプレイに EBC 機能の状態を以下のように表示します。

- EBC システムが起動している場合、EBC の文字と設定した干渉レベルの 1 から 3 までの数値
- EBC システムが解除されている場合、EBC OFF の文字
- EBC システムエラー又はコントロールユニットエラーの場合、EBC --- の文字、及び EOBD ランプが点灯し、対応するエラーが表示されます。

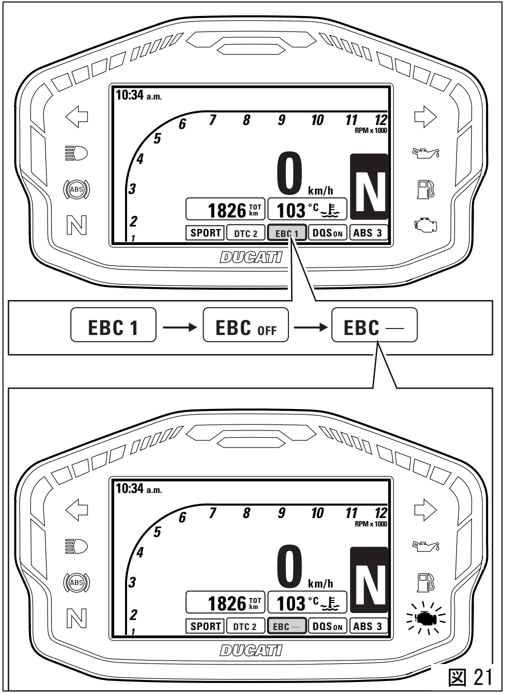


図 21

EBC はアクセルが完全に閉じている状態で運転中のエンジンブレーキを制御するシステムです（シフトダウン及び一定のギアでの単なる開放、ブレーキ動作の有無にかかわらない)。このシステムは独立してスロットルを調整し、運転中にホイールからエンジンへのトルクの退行を一定にします。

システムは ″ エンジンブレーキ ″ を作動させます。OFF に設定されているとエンジンブレーキが最大となり、レベルが高くなるとエンジンブレーキが徐々に弱くなります。

システムの影響はエンジン回転速度が高いと特に大きくなり、エンジン回転速度が減少するとともにその影響も小さくなります。

警告

EBC はライダーをアシストするシステムで、一般道走行時でもサーキット利用時でも使用できます。アシストシステムとは、車両の運転がより確実なものとなるためのメカニズムで、ライダーの注意による正しい行動を制限するものではなく、道路交通法の観点から言う偶発的に起こりうる間違いや、外的要因による間違いに対するアシストをするためにのものです。

下記の表は、各タイプのライディングに適した EBC レベルで、ユーザーが″RIDING MODE″ からデフォルト設定を選択することできます。

EBC レベル	ライディングモード	特徴	DEFAULT
停止		エンジンブレーキ最大	NO
1		エンジンブレーキがある程度かかっているが、EBC OFF でさらに小さくできる	全てのライディングモードでのデフォルト
2		エンジンブレーキが弱い。サーキットでの使用に限り、減速時のエンジンブレーキをあまり望まないライダー向け。	NO
3		エンジンブレーキが非常に弱い。サーキットでの使用に限り、減速時のエンジンブレーキをほとんど望まないライダー向け。	NO

レベルの選択に際しての注意事項

⚠ 警告
車両に搭載されているEBCシステムのレベル1-2-3 の調整は、車両の標準装備のタイヤ Pirelli Diablo Supercorsa SP フロント 120/70ZR17、リア 200/55ZR17) を使用して行われました。標準装備のタイヤとサイズや特徴の異なるタイヤ（特にリアタイヤ）を使用すると、システムの機能の特徴が異なることがあります。
標準装備のタイヤとモデルやメーカーが違うが、サイズクラスが同じ (リア= 200/55ZR17、フロント= 120/70ZR17) など、少し違うだけのタイヤを使用する場合、システムの機能を最適化するには、選択可能なレベルのうち、より適切なレベルを選択することでカバーできるでしょう。
サイズクラスの違うタイヤ、又はサイズが少しだけ違うタイヤを使用する場合、システム機能は設定可能な 3 レベルのどれも納得できるものではない可能性があります。この場合、システムは解除する事をお勧めします。

レベル 3 を選択すると、EBC システムはエンジンブレーキの機能を最小限に抑えます。レベル 3 からレベル 1 の順にエンジンブレーキの強さが大きくなります。EBC OFF でエンジンブレーキは最大になります。

正しいレベルを選択すると主に以下のパラメーターが機能します。
タイヤ / アスファルトに関連する安定性 (タイヤのタイプ、磨耗状態、アスファルトの種類、気候など)
レイアウト / 行程 (同じような、又は全く異なったカーブ)
ライディングモード
定着状況によるレベルの関係 : 正しいレベルの選択はレイアウト / 行程中の定着状況に影響します (後述のサーキットおよび一般道での使用時のアドバイス参照)。
レイアウトのタイプによるレベルの関係 : レイアウト / 行程に同じようにブレーキをかけることができる場合（全て非常に激しい、又は、全て非常に緩やか)、それぞれのブレーキで満足できる干渉レベルを簡単に見つけることができるでしょう。一方、様々なブレーキがレイアウト / 行程にある場合、妥当な EBC 干渉レベルが必要になります。

DQS

インストルメントパネルはディスプレイに DQS 機能の状態を以下のように表示します。
- DQS システムが起動している場合、DQS ON の文字
- DQS システムが解除されている場合、DQS OFF の文字
- DQS　システムエラー又はコントロールユニットエラーの場合、DQS --- の文字、及び EOBD ランプが点灯し、対応するエラーが表示されます。
- 車両に DQS が搭載されていない場合、----- のシンボル

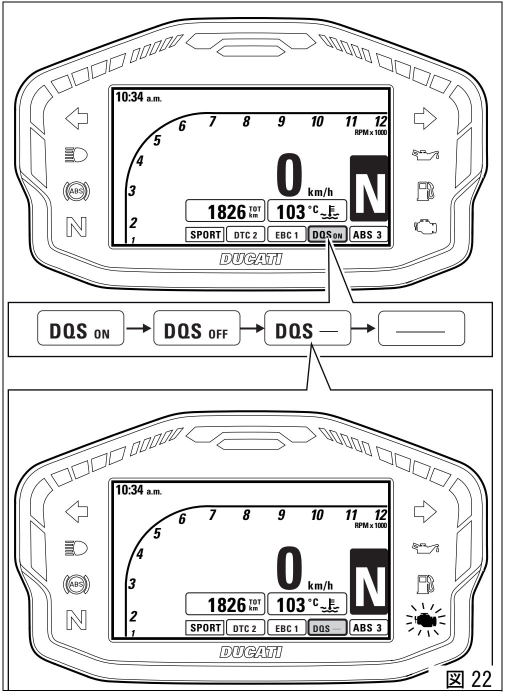


図 22

ABS（ABS バージョンのみ）

車両に ABS システムが搭載されている場合、インストルメントパネルは ABS 機能の状態を示す長方形を表示します

インストルメントパネルの表示

- ABS システムが起動している場合、ABS の文字と設定した干渉レベルの 1 から 3 までの数値
- ABS システムが解除されている場合、ABS OFF の文字
- ABS システムエラーの場合、ABS --- の文字、さらに ABS 及び EOBD ランプが点灯し、対応するエラーが表示されます

参考

ABS 1 の表示は琥珀色の背景に ABS FRONT ONLY のアイコンのディスプレイ上の表示に常に連動します。この表示はスタンドの状態の表示エリアにスタンドの状態に関する情報に優先して表示されます。

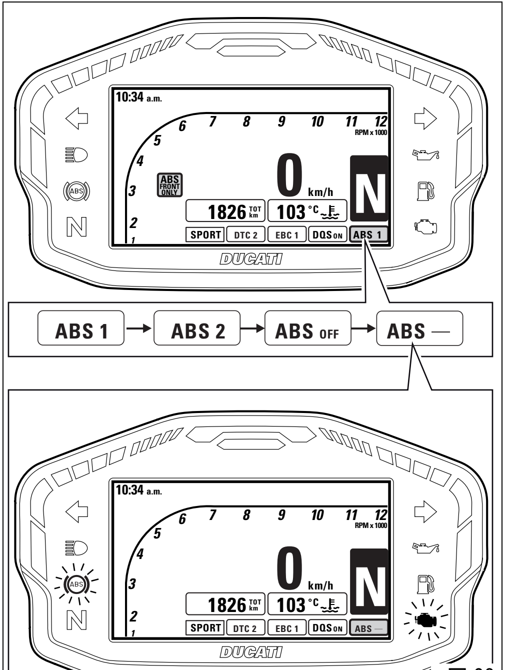


図 23

下記の表は、各タイプのライディングに適した ABS レベル、及び、ユーザーが選択できる ″ ライディングモード ″ のうちどのレベルがデフォルト設定かを表示します。

ABS レベル	ライディングモード	特徴	DEFAULT
停止		ABS システム解除	NO
1	RACE	熟練ライダー向けサーキットでの使用のみ（ストリートでの使用は推奨しません）。このモードでは ABS はフロントホイールにのみ機能し（ブロック回避）、リアホイールに対しては機能しません。システムはリフトアップを制御せず、フロント、リア間のブレーキ配分を行いません。	ライディングモードRACEのデフォルトレベル
2	ROAD	高い定着性のある条件でのストリートでの使用向け。両方のタイヤ共システムにより制御され、リアキャリパーにも圧をかけてブレーキ配分し、アンチリフトアップ制御が起動します。しかしこの調整は、システムにより制御されないリフトアップよりブレーキが優先されます。	ライディングモード SPORT のデフォルトレベル
3	WET CONDITION ROAD/TRACK	濡れた路面のあらゆる状況での使用向け。両方のタイヤ共システムにより制御され、リアキャリパーにも圧をかけてブレーキ配分し、大半のリフトアップを制御します。	ライディングモード WET のデフォルトレベル

レベルの選択に際しての注意事項

⚠ 警告

車両に搭載されているABSシステムのレベル1-2-3 の調整は、車両の標準装備のタイヤ Pirelli Diablo Supercorsa SP フロント 120/70ZR17 リア 200/55ZR17）を使用して行われました。標準装備のタイヤとサイズや特徴の異なるタイヤ（特にリアタイヤ）を使用すると、システムの機能の特徴が異なることがあります。
標準装備のタイヤとモデルやメーカーが違うが、サイズクラスが同じ（リア＝200/55ZR17、フロント＝120/70ZR17）など、少し違うだけのタイヤを使用する場合、システムの機能を最適化するには、選択可能なレベルのうち、より適切なレベルを選択することでカバーできるでしょう。
サイズクラスの違うタイヤ、又はサイズが少しだけ違うタイヤを使用する場合、システム機能は設定可能な 3 レベルのどれも納得できるものではない可能性があります。この場合、システムは解除する事をお勧めします。

レベル 3 を選択すると、ABS システムは非常に安定したブレーキ動作、リフトアップの高い制御を行い、車両は全てのブレーキにおいて高い安定性を維持します。レベル 3 からレベル 1 の順に安定性及びリフトアップ制御よりブレーキの優先度合いが高くなります。レベル 1 ではリフトアップを制限する制御が行われず、リアブレーキは ABS によって管理されません。また、フロント及びリアのブレーキ配分が行われません。
正しいレベルを選択すると主に以下のパラメーターが機能します。

1) タイヤ／アスファルトに関連する安定性（タイヤのタイプ、磨耗状態、アスファルトの種類、気候など）
2) ライダーの経験及び間隔：熟練ライダーは停止距離を最小限に抑えるためリフトアップを制御することができますが、経験の少ないライダーには急ブレーキでも車体の安定性を維持するためレベル 2 及び 3 の使用を推奨します。

メニュー 1 の機能 ：

メニュー1 の機能は 3 つのドライビングスタイル (Race、Sport、Wet) のそれぞれで 2 種類のモードのうちどちらかで表示することができます。

- ROAD
- TRACK

以下の機能があります。

- オドメーター (TOT)
- トリップメーター 1 (TRIP1)
- トリップメーター 2 (TRIP2)
- 燃料リザーブトリップメーター (TRIP FUEL)
- ラップタイム (LAP time) (起動している場合) - TRACK モードのみ

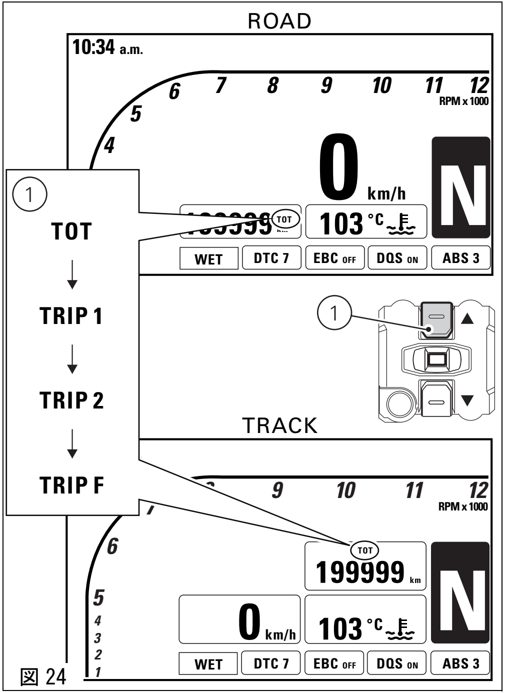


図 24

メニュー１の機能：オドメーター（TOT）

オドメーターは車両の総走行距離を設定した単位（キロ又はマイル）でカウント、表示します。

オドメーターに対応するキロ数又はマイル数は TOT の文字及び単位と共に表示されます。最大値（199999km 又は 199999 マイル）に達するとインストルメントパネルのその値が表示されたままになります。
オドメーターの値は常に保存され、いかなる理由でもリセットはできません。
電源の供給が中断（Battery Off）してもデータを紛失することはありません。

参考

Key-On 時にインストルメントパネルは 10 秒間オドメーターを表示し、その後ユーザー設定ページの表示に代わります。

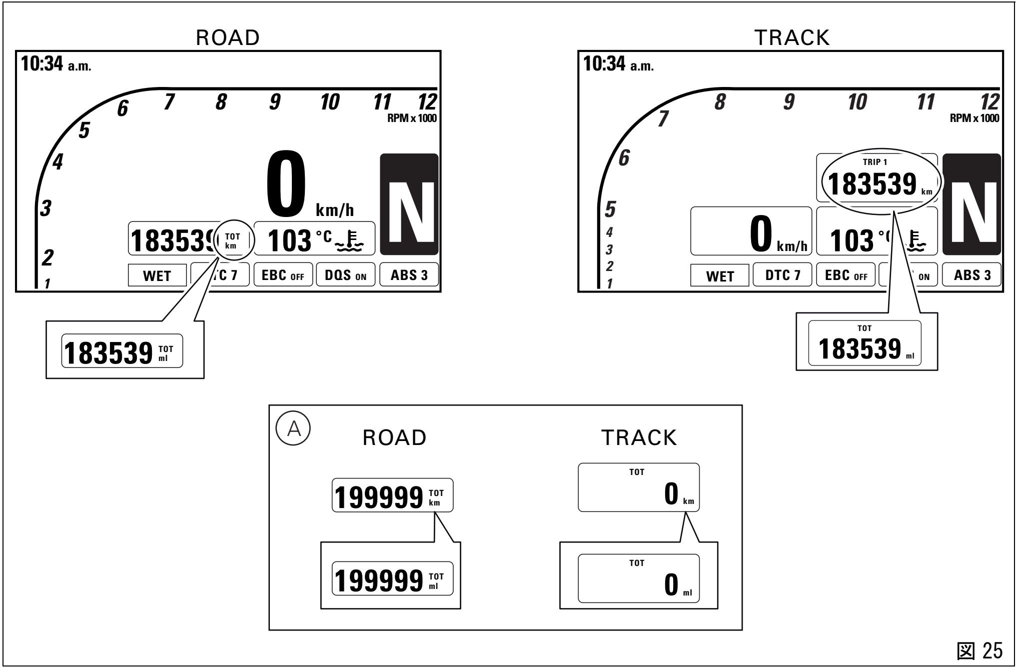

ROAD
TRACK
10:34 a.m.
RPM x 1000
0 km/h
N
183539 TOT km
103 °C
WET
DTC 7
EBC OFF
DQS ON
ABS 3
183539 TOT ml
TRIP 1
183539 km
TOT
183539 ml
A
ROAD
TRACK
199999 TOT km
199999 TOT ml
TOT
0 km
TOT
0 ml

図 25

メニュー1の機能： トリップメーター 1 (TRIP 1)

トリップメーターは車両の部分走行距離を設定した単位（キロ又はマイル）でカウント、表示し、平均燃費、平均スピード、トリップタイムの計算に使用されます。
TRIP1に対応するキロ数又はマイル数はTRIP1の文字及び単位と共に表示されます。
データが最大値である9999.9 km又は9999.9マイルを超えると、カウンターは自動的にリセットされゼロから再カウントされます。
トリップメーターの表示中にボタン (1)″▲″ を 3 秒間押すと、TRIP 1のデータはリセットされます。TRIP 1がリセットされると、平均燃費、平均スピード、トリップタイムのデータもリセットされます。TRIP 1のカウントはシステムの単位を手動で変更した場合にも自動的にリセットされます。新しく設定した単位でゼロから再カウントされます。

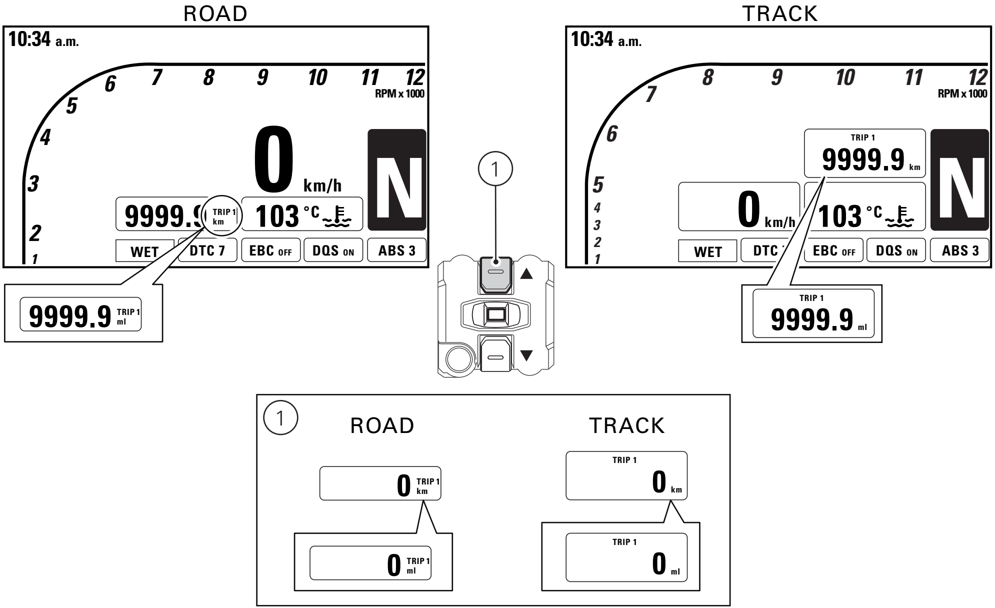

ROAD
10:34 a.m.
RPM x 1000
0 km/h
9999.9 TRIP 1 km
103 °C
N
WET
DTC 7
EBC OFF
DQS ON
ABS 3
9999.9 TRIP 1 ml
TRACK
TRIP 1
9999.9 km
9999.9 ml
1
ROAD
0 TRIP 1 km
0 TRIP 1 ml
TRACK
TRIP 1
0 km
0 ml

図 26

メニュー１の機能： トリップメーター 2 (TRIP 2)

トリップメーターは車両の部分走行距離を設定した単位（キロ又はマイル）でカウント、表示します。
TRIP2に対応するキロ数又はマイル数はTRIP2の文字及び単位と共に表示されます。
データが最大値である9999.9 km又は9999.9 マイルを超えると、カウンターは自動的にリセットされゼロから再カウントされます。
トリップメーターの表示中にボタン (1)″▲″ を 3 秒間押すと、TRIP 2 のデータはリセットされます。
TRIP2 のカウントはシステムの単位を手動で変更した場合にも自動的にリセットされます。新しく設定した単位でゼロから再カウントされます。

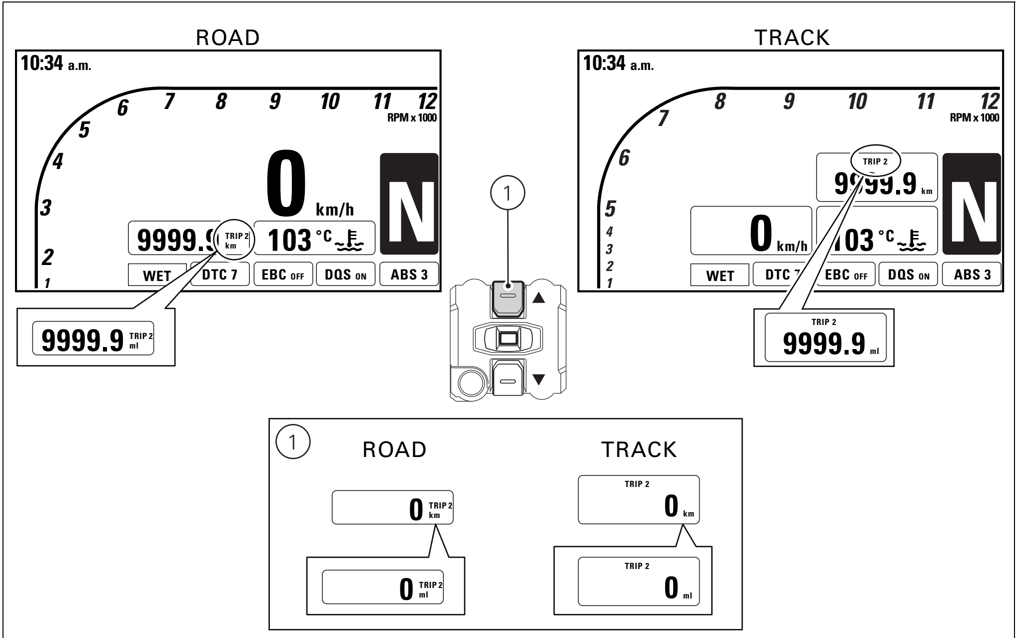

ROAD
10:34 a.m.
RPM x 1000
0 km/h
9999.9 TRIP 2 km
103 °C
N
WET
DTC 7
EBC OFF
DQS ON
ABS 3
9999.9 TRIP 2 ml
1
TRACK
10:34 a.m.
RPM x 1000
TRIP 2
9999.9 km
0 km/h
103 °C
TRIP 2
9999.9 ml
1
ROAD
TRACK
0 TRIP 2 km
0 TRIP 2 ml
TRIP 2 0 km
TRIP 2 0 ml

図 27

メニュー 1 の機能 : 燃料リザーブトリップメーター（TRIP FUEL）

燃料リザーブトリップメーターは車両のリザーブでの走行可能距離（燃料リザーブランプが点灯した時点からの車両の走行距離）を設定した単位（キロ又はマイル）でカウント、表示します。
燃料リザーブランプが点灯すると、ディスプレイにその時点で表示されている機能にかかわらず自動的に TRIP FUEL 機能が表示され、その後、メニューの他の機能をスクロール表示することができます。リザーブタンク使用の状態が続く場合は、データは Key-Off 後もメモリに記憶されます。カウンターは給油後、リザーブ状態ではなくなった時点で自動的に中断します。
TRIP FUEL に対応するキロ数又はマイル数は TRIP FUEL の文字及び単位と共に表示されます。
データが最大値である 9999.9 km 又は 9999.9 マイルを超えると、カウンターは自動的にリセットされゼロから再カウントされます。
TRIP FUEL 機能が起動していない場合、メニュー内に対応する値を表示することはできません。

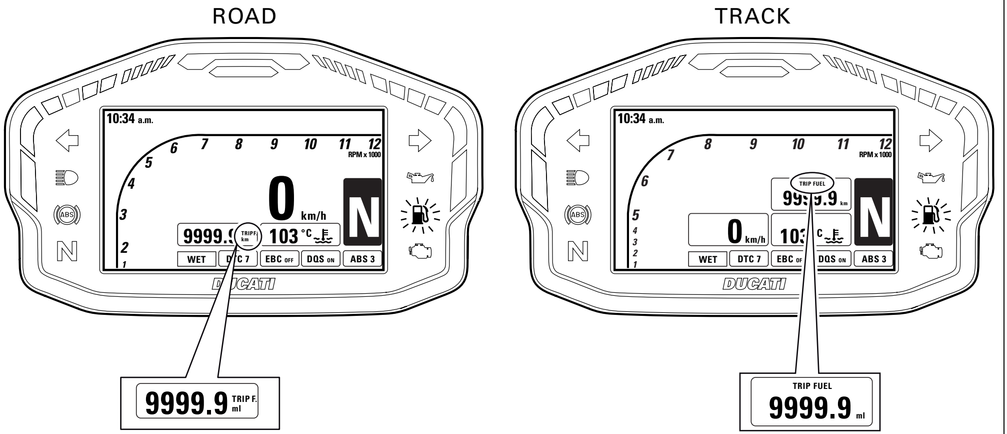

ROAD
TRACK
10:34 a.m.
RPM x 1000
km/h
9999.9 TRIP F. ml
TRIP FUEL
9999.9 ml
WET
DTC 7
EBC OFF
DQS ON
ABS 3
DUCATI

図 28

メニュー1 の機能 : ラップタイム (LAP time)

ラップ機能は TRACK モードのスタンダードスクリーンでのみ表示することができます。LAP 機能に関する情報は機能が起動している場合に表示されます。
LAP 機能の起動時、ストップウォッチの最初の表示 ″0' 00'' 00″、及び LAP 数の最初の表示 ″LAP--″ が表れます。FLASH ボタン (3) を押すと 1 秒の 10 分の 1(″0' 00'' 0″) までのストップウォッチがカウントし始め、現在進行中の LAP 数が表示されます。その後 FLASH ボタン (3) を押す度に終えたばかりの周回のラップ数及びラップタイムが一時的に表示され、続いてストップウォッチ及び進行中の新しい周回のラップ数が改めて表示されます。
ストップウォッチが起動していも車両が停止している場合、5 秒後にストップウォッチの機能が一時的にストップし、ストップウォッチの最初の表示 ″0' 00'' 00″ 及びラップ数の最初の表示 ″LAP--″ が表れます。その後 FLASH ボタン (3) を 1 回押すと再度ストップウォッチが起動します。

参考
LAP 機能が起動中、FLASH ボタン (3) はハイビームの点滅とラップのストップウォッチの Start / Stop の操作（新しい周回の開始指示）両方に使われます。

参考
TRIP FUEL 機能は常に LAP 機能より優先されます。LAP 機能が起動している状態で TRIP FUEL 機能を起動すると、自動的に LAP 機能のストップウォッチの表示が停止され、TRIP FUEL 機能に関する情報が表示されます。

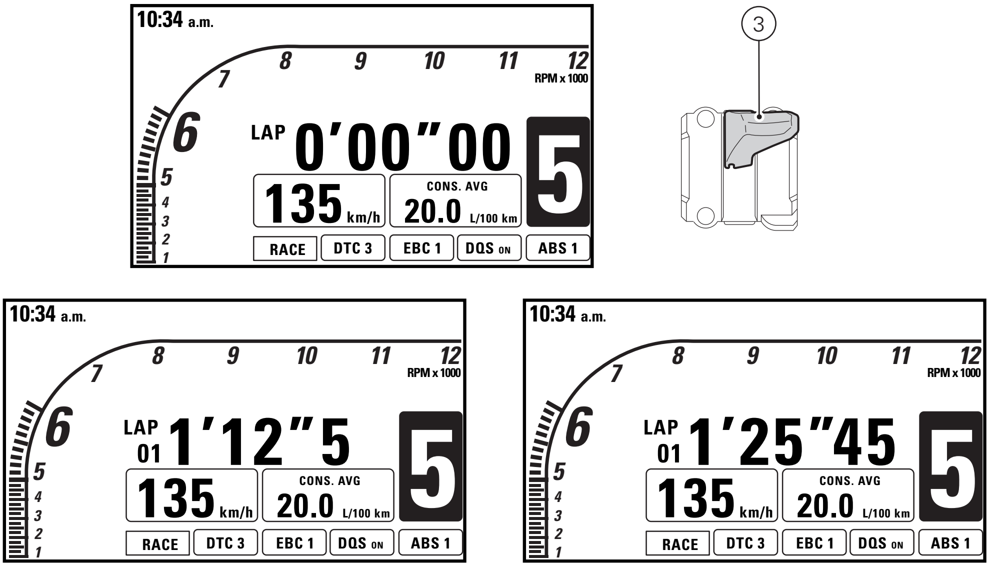

3
10:34 a.m.
7 8 9 10 11 12
RPM x 1000
6 5 4 3 2 1
LAP 0’00”00
5
135 km/h
CONS. AVG
20.0 L/100 km
RACE DTC 3 EBC 1 DQS ON ABS 1
10:34 a.m.
LAP 01 1’12”5
10:34 a.m.
LAP 01 1’25”45

図 29

LAP の記録 (図 29)

LAP 機能が起動している場合、連続して 30 の周回までラップタイプを記録することができます。

操作

- FLASH ボタン (3) を押すと最初にインストルメントパネルは 1 秒の 10 分の 1("0' 00'' 0") までのストップウォッチを表示します。
- その後 FLASH ボタン (3) を押す度にインストルメントパネルはディスプレイに 5 秒間、1 秒の 10 分の 1 まで終えたばかりの周回のラップ数及びラップタイムを表示します。
- 5 秒後、インストルメントパネルは進行中の新しい周回のラップ数の表示に戻ります。
- FLASH ボタン (3)(FLASH) を長く押し続ける (3 秒) と、ストップウォッチの機能が一時的にストップし、ストップウォッチの最初の表示 "0' 00'' 00" 及びラップ数の最初の表示 "LAP--" が表れます。
- その後 FLASH ボタン (3) を 1 回押すか同等の操作を行うと再度ストップウォッチが起動します。

ラップタイムが最大 9 分 59 秒 99 以内に停止されない場合、ストップウォッチは再度ゼロからカウントを開始し、ラップが停止するか記録機能が解除されるまで続きます。

ラップ数は 01 から 30 で、循環して表示されます。最初の 30 周が終わると、インストルメントパネルは LAP01 から情報を上書きします。

ラップ機能が中止 (ROAD スクリーンへの変更、一時的な解除、又は key-off) され、その後再度起動 (TRACK スクリーンの回復、再起動、又は key-on) されてもメモリー中のラップが消去されないと、ラップに関する情報は古いラップ情報に上書きされます。

例 : 34 周行われても一切消去が行われないと、インストルメントパネルはまず最初の 30 周を記録し、その後、最初の 4 周の記録に上書きします。次の key-on 時、又は LAP 機能の再起動時、消去が行われていないと、インストルメントパネルは LAP05 からメモリーを続けます。

それぞれの LAP で以下が記録されます。

- 30 周分のラップタイム（連続したスタートとストップ間のタイム）
- 30 の最大 RPM 値（各ラップの最大 RPM 値）
- 30 の最高スピード（各ラップの最高スピード）

メニュー 2 の機能

メニュー 2 の機能は 3 つのドライビングスタイル (Race、Sport、Wet) のそれぞれで 2 種類のモードのうちどちらかで表示することができます。

- ROAD
- TRACK

以下の機能があります。

- エンジンクーラント温度
- 瞬間燃費 (CONS.)
- 平均燃費 (CONS. AVG)
- 平均スピード (SPEED AVG)
- トリップタイム (TRIP TIME)
- 外気温

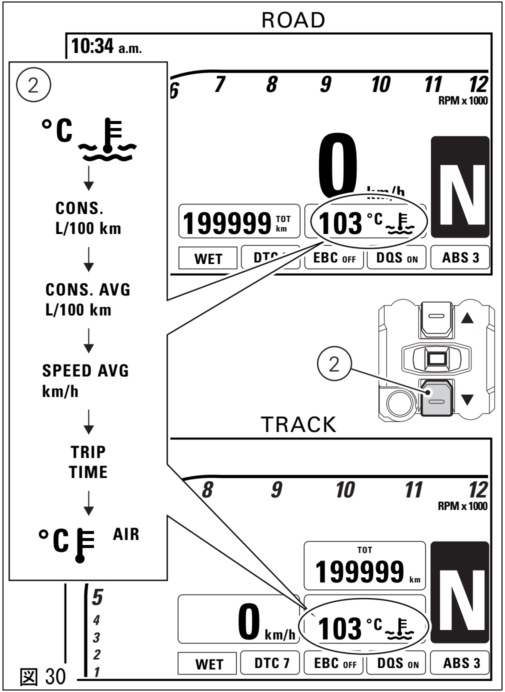


図 30

メニュー 2 の機能 : エンジンクーラント温度

インストルメントパネルはエンジン温度の情報(° C に変換済) を受信し、ディスプレイに設定された単位(° C 又は° F) に換算されたデータ、単位、エンジン温度のシンボルを表示します。

温度データの表示範囲は 40 ° C ～ +120 ° C (+104 ° F ～ +248 ° F) です。データが以下の場合

- <= -40 ° C 以下の場合、"- - -" が点滅表示されます。
- -39 ° C から +39 ° C の場合、"LOW" が点灯します。
- +40 ° C から +120 ° C の場合、データが表示されます。
- >= +121 ° C 以上の場合、"HIGH" が点滅表示されます。

クーラント温度が以下を超えた場合

- 100 ° C、MENU 2 の他の表示情報に関わりなく温度が MENU 2 に直ちに表示されます。MENU 2 の他の情報を表示することは可能です。
- 121 ° C、MENU 2 の他の表示情報に関わりなく温度が MENU 2 に表示されます。MENU 2 の他の情報を表示することはできません。さらに、警告アイコンが表示されます。

クーラント温度センサーエラーの場合、設定単位と共に "- - -" が点滅表示されます。さらに、EOBD ランプが点灯し、ENGINE TEMP. SENSOR エラーが表示されます。

インストルメントパネルがクーラント温度のデータを受信しない場合、単位と共に "- - -" が固定表示されます。

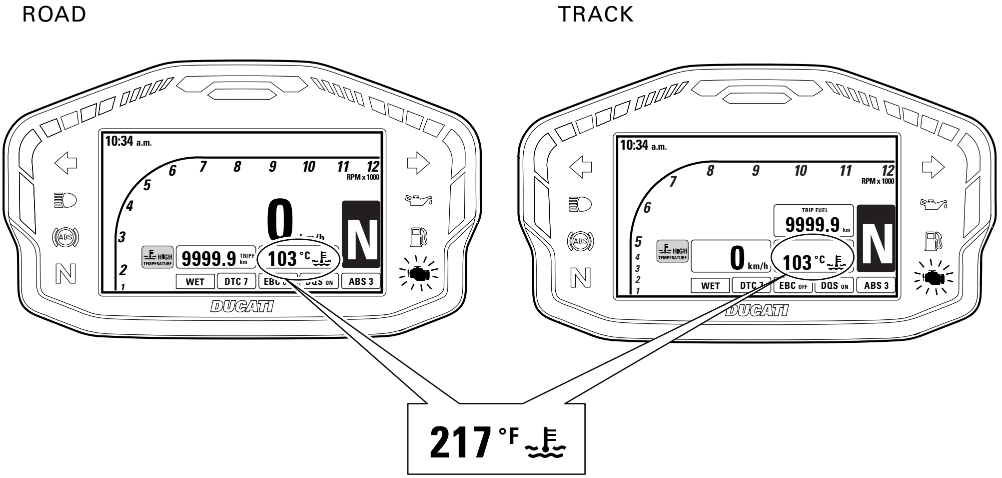

ROAD
TRACK
10:34 a.m.
RPM x 1000
0 km/h
N
HIGH TEMPERATURE
9999.9 TRIPF km
TRIP FUEL
9999.9 km
103 °C
WET
DTC 7
EBC OFF
DQS ON
ABS 3
DUCATI
217 °F

図 31

メニュー 2 の機能： 瞬間燃費

インストルメントパネルは車両の瞬間燃費、設定単位、及び CONS の文字を表示します。
数値は消費燃料の量と最終秒の走行距離から算出されます。データは設定された単位リットル /100 km、mpg UK、又は mpg USA で表示されます。
数値はエンジン起動中かつ車両が動いている時に算出されます（車両停止中もしくはエンジン停止中のギア中断はお勧めできません）。算出がされない場合、ディスプレイ上に ″- -.-″ が 瞬間燃費として固定点灯します。

参考

燃費の単位をL/100からkm/Lに設定メニューのUNITS 機能から変更することができます（平均燃費、瞬間燃費同時に）（ 95 ページ参照）。

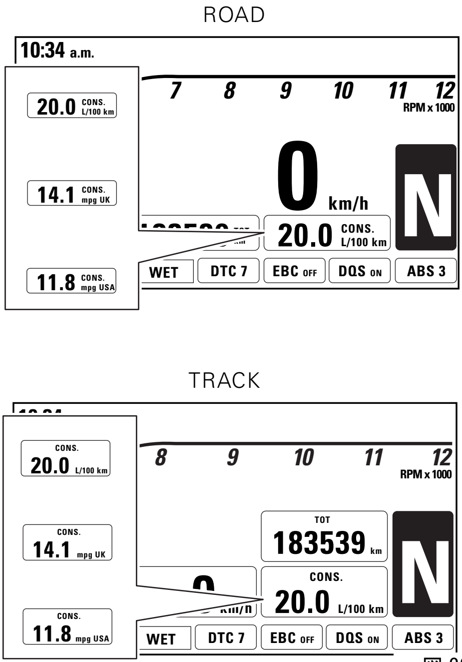


図 32

メニュー 2 の機能： 平均燃費

インストルメントパネルは車両の平均燃費、設定単位、及び CONS. AVG の文字を表示します。
使用燃料の量及び TRIP1 の最後のリセット以降の走行距離から計算されます。TRIP 1 がリセットされると、データがリセットされ、最初のデータはリセットから 10 秒後に表示されます。数値がディスプレイされない最初の 10 秒間は "– –.–" が 平均燃費として固定点灯します。
データは設定された単位（ リットル /100 km、mpg UK、又は mpg USA）で表示されます。
車両が停止していてもエンジンが作動中であれば計算されます（エンジン停止中のギアの中断は考慮されません）。

参考

燃費の単位をL/100からkm/Lに設定メニューのUNITS 機能から変更することができます（平均燃費、瞬間燃費同時に）（ 95 ページ参照）。

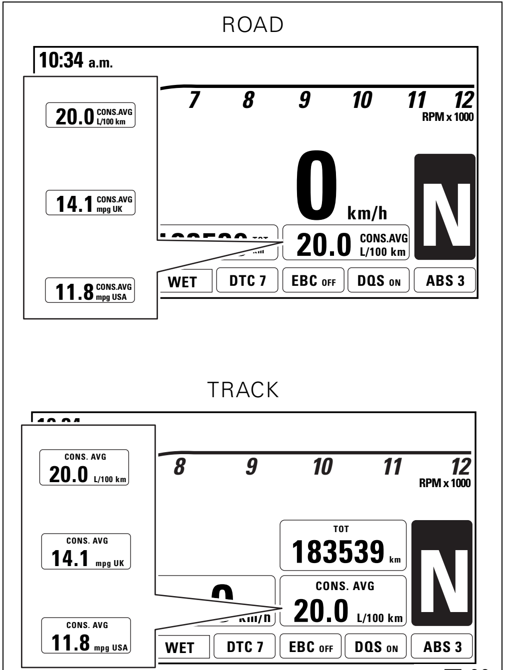


図 33

メニュー 2 の機能： 平均スピード

インストルメントパネルは車両の平均スピード、設定単位、及び SPEED AVG の文字を表示します。
TRIP 1 の最後のリセット以降の走行距離及び時間から計算されます TRIP 1 がリセットされると、データがリセットされ、最初のデータはリセットから 10 秒後に表示されます。数値がディスプレイされない最初の 10 秒間は "– – –" が平均スピードとして固定点灯します。
車体停止、エンジン作動中も計算されます（エンジン停止中のギアの中断は考慮されません）。
平均スピードは車両スピードの表示と合わせるため実スピードに 5% 上乗せした値が表示されます。

参考

設定メニューの UNITS SETTING 機能で km/h（及び km）から mph（及びマイル）にスピード（及び走行距離を同時に）の単位を変更することができます（ 95 ページ参照）。

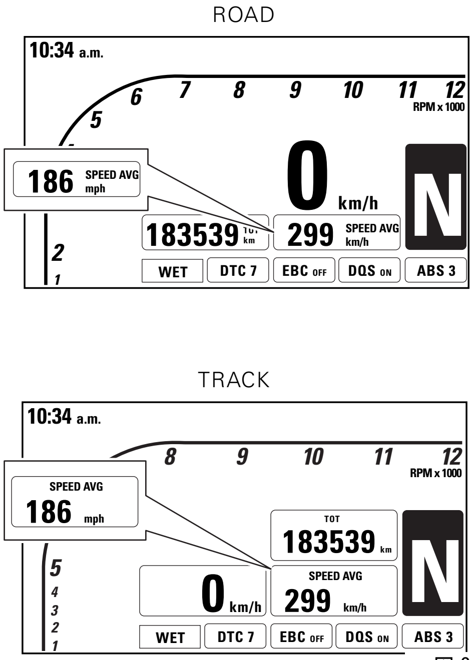


図 34

メニュー 2 の機能： 走行時間

インストルメントパネルは走行時間を hhh:mm の形式で算出し、TRIP TIME の文字と共に表示します。
TRIP 1 の最後のリセット以降の走行時間から計算されます TRIP1 がリセットされると、データもリセットされます。
車両が停止していてもエンジンが作動中であれば計算されます（エンジン停止中のギアの中断で、時間は自動的に止まり、計算が始まると自動的に時間測定も始まります。）
表示時間が 720:00（720 時間 00 分）を超えると、カウンターは自動的にリセットされ、再度ゼロからカウントされます。

参考

スピード（及び距離）及び燃費に関する値の単位が変更された場合、走行時間のデータは自動的にリセットされます。

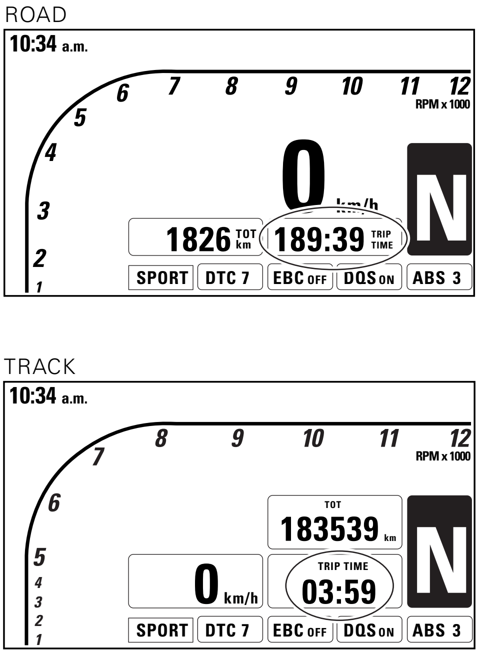


図 35

メニュー 2 の機能： 外気温

インストルメントパネルは設定された単位（° C 又は ° F）に換算された外気温、単位、AIR の文字、温度計のシンボルを表示します。
温度データは -39 ° C ～ +124 ° C（ 又は -38 ° F ～ +255 ° F）の場合に表示されます。それ以外の温度（-39 ° C 未満又は +124 ° C を超える場合 ）では "- - -" 及び単位が表示されます。
気温センサーエラーの場合、インストルメントパネルは単位と共に温度として "- - -" が点滅し、EOBD ランプが点灯します。そして、ディスプレイ上に AIR SENSOR エラーが表示されます。
インストルメントパネルが気温のデータを受信しない場合、単位と共に "- - -" が固定表示されます。

参考
エンジン熱は停止車両の温度表示に影響を与えます。

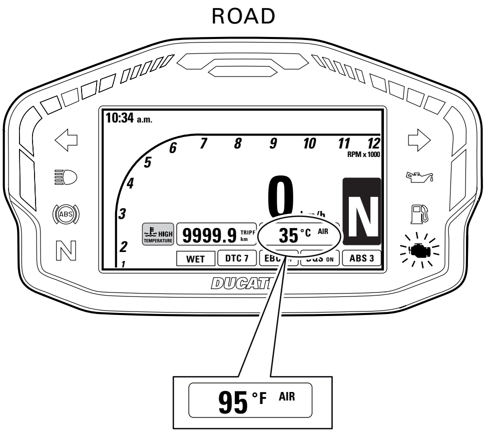


図 36

サブ機能

DDA

車両に DDA 装置が搭載されている場合のみインストルメントパネルは DDA に関する情報を表示します。
DDA の文字が表示される場合、DDA 装置が起動しており、記録が行われています。
DDA の文字が表示されない場合、DDA 装置は起動していません。

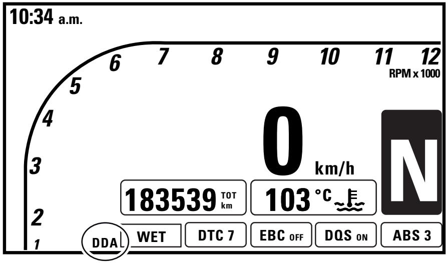


図 37

時計 (CLOCK)

インストルメントパネルは時間に関する情報を表示します。時間はディスプレイの左上の角に表示されます。
インストルメントパネルは時間を以下のように表示します。
hh（時間）: mm（分）
文字
a.m. （午前 0:00 から午前 11:59 まで） 又は
p.m. （午後 12:00 から午後 12:59 まで及び午後 1:00 から午後 11:59 まで）。

インストルメントパネルが正しい時間データを受信しない場合、"－ － ： － － a.m." が固定点灯します。

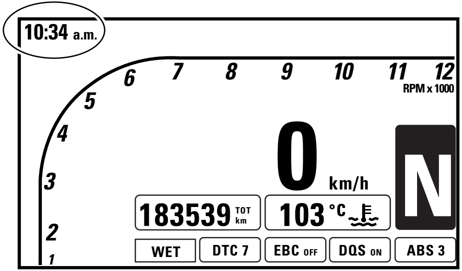


図 38

メンテナンス表示 (SERVICE)

これはユーザーに Ducati オフィシャルサービスセンターにて車両のメンテナンス（定期点検）の必要性を表示します。
メンテナンス表示のリセットは、メンテナンスを行う Ducati オフィシャルサービスセンターのみが行うことができます。
アイコンの表示は、警告 / アラームを表示するための手順に従います（" 警告 / アラーム " の章参照）。

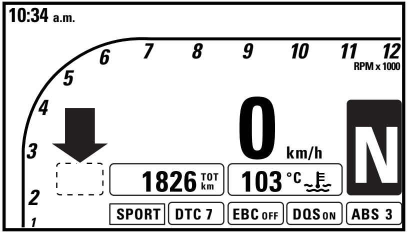


図 39

OIL SERVICE ゼロ表示（図 40）

メンテナンスの最初の表示はOIL SERVICE ゼロで､オドメーターが最初の 1000km（600 マイル）に達すると起動します。
Key-On の度に 5 秒間 " 大きく " 表示され、その後 Ducati オフィシャルサービスセンターがメンテナンスで " リセット " を行うまで常に小さく表示されます。
アイコンの表示は、警告 / アラームを表示するための手順に従います（" 警告 / アラーム " の章参照）。

図 40

OIL SERVICE 又は DESMO SERVICE カウントダウン表示（図 41）

(1000km) の OIL SERVICE ゼロ表示の最初のリセットが行われた後、インストルメントパネルは次の定期点検 (OIL SERVICE 又は DESMO SERVICE) までの残りのキロ数（マイル数）をカウントし始めます。Key-On の度に緑色の表示が 2 秒間 ″ 大きく ″ 表示され、定期点検までの走行距離が 1000km を切ると表示は黄色になり、Key-On 毎に 5 秒間表示されます。
アイコンの表示は、警告 / アラームを表示するための手順に従います（″ 警告 / アラーム ″ の章参照）。

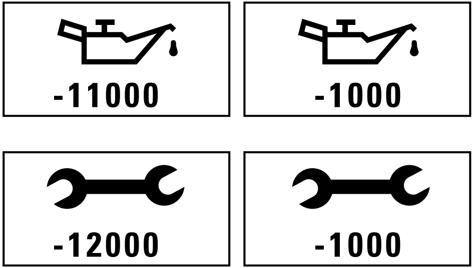


図 41

OIL SERVICE又はDESMO SERVICE表示（図42）

メンテナンスを行う走行距離に達すると、必要なメンテナンスのタイプ（OIL SERVICE 又は DESMO SERVICE）の表示が表れます。
Key-On の度に 5 秒間行うべきメンテナンスの種類が〝大きく〟表示され、その後 Ducati オフィシャルサービスセンターがメンテナンスで〝リセット〟を行うまで常に小さく表示されます。
アイコンの表示は、警告 / アラームを表示するための手順に従います（〝警告 / アラーム〟の章参照）。

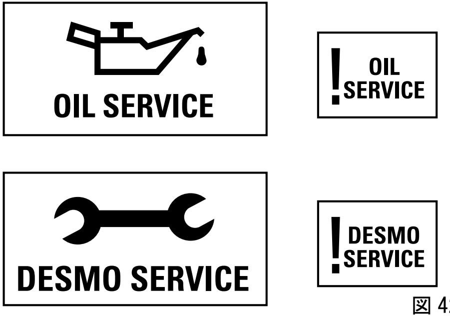


図 42

警告 / アラーム

インストルメントパネルは車両の使用中にユーザーに有用な情報を供給するため一連の警告 / アラームを管理します。車両の Key-On 時、警告がある場合、インストルメントパネルは警告をディスプレイに表示します。車両が通常に機能している間、警告を受信するとインストルメントパネルは自動的に警告があることを表示します。警告を受信すると、最初の 5 秒間よく見える形（大きなアイコン）で表示され、その後小さなアイコンに代わります。
複数の警告を受信した場合、各警告のアイコンが順番に表示されます。それぞれのアイコンは 3 秒間表示されます。警告が表示されても警告ランプは点灯しません。

エンジンクーラント温度高 (High temperature) (図 43)

エンジンクーラント温度が 121° C (250° F) に達すると通知します。

参考

この場合 Ducati 社は、速やかに車両を停止させ、エンジンを切ることを推奨します。ファンが機能していることを確認してください。

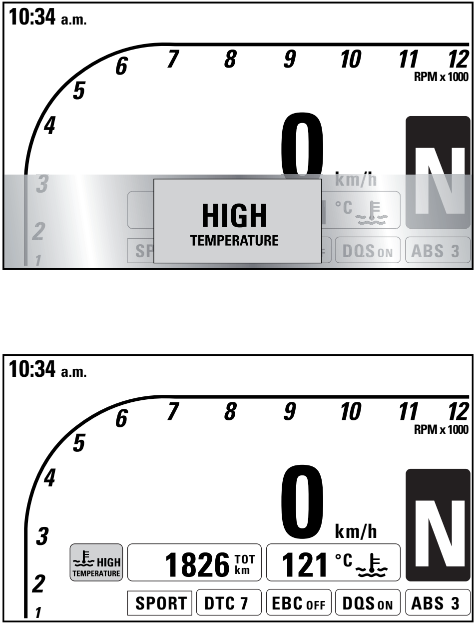


図 43

DDA メモリーフル（DDA full）

DDA のメモリーがいっぱいで、これ以上トリップデータをメモリーできない場合に通知します。

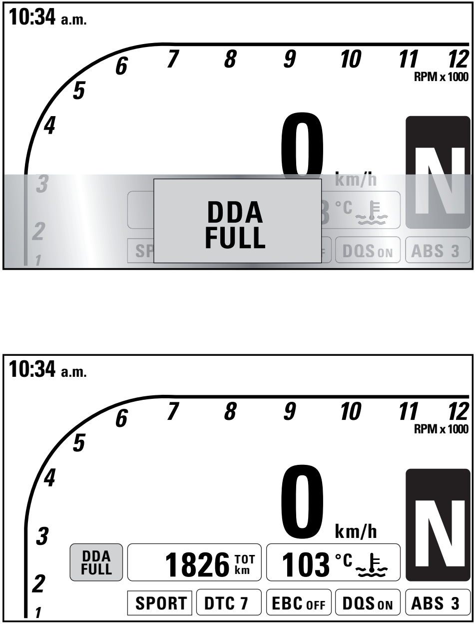


図 44

Ice

外気温が低く道路が氷結している危険を通知します。
温度が下がり 4° C (39° F) に達すると起動し、温度が上がり 6° C (43° F) に達すると解除されます。

参考

気温が4° C (39° F) 以上でも道路が氷結している可能性があります。外気温が ″ 低い ″ 場合は、特に日陰や橋の上では細心の注意を払って運転してください。

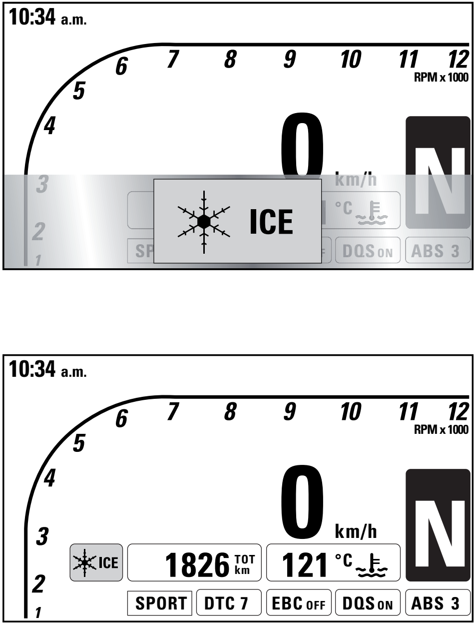


図 45

エラー表示

インストルメントパネルは車両の不具合をリアルタイムに識別するためにエラー信号を管理します。
車両の Key-On 時、エラーがある場合、インストルメントパネルはエラーをディスプレイに表示し、EOBD ランプが点灯します。車両が通常に機能している間エラーが検出されると、インストルメントパネルは自動的にエラーをディスプレイに表示し、EOBD ランプが点灯します。
エラーを受信すると、最初の 5 秒間よく見える形（大きなアイコン）で表示され、その後小さなアイコンに代わります。
複数のエラーを受信した場合、各エラーのアイコンが順番に表示されます。それぞれのアイコンは 3 秒間表示されます。
エラーを受信すると同時に EOBD ランプが点灯します。

参考

ひとつ又はそれ以上のエラーが表示された場合には、Ducati オフィシャルディーラーにお問い合わせください。

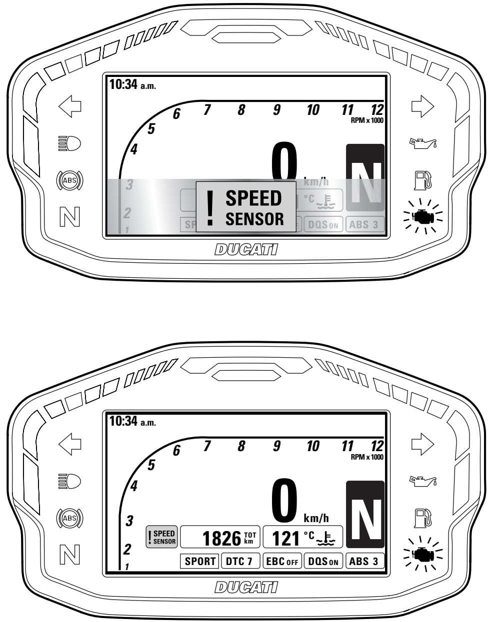


図 46

エラー表示の説明

エラー表示	説明
CAN LINE	CAN LINE BUS Off
UNKNOWN DEVICE	コントロールユニットがシステムに認識されません – SW エラー
ABS	ABS コントロールユニットが伝達を行いません / 正常に機能していません
BBS	BBS コントロールユニットが伝達を行いません / 正常に機能していません
	BBS コントロールユニット機能の一般不具合
	エキゾーストバルブモーター機能の不具合
DSB	DSB コントロールユニットが伝達を行いません / 正常に機能していません
E-LOCK	E-LOCK コントロールユニットが伝達を行いません / 正常に機能していません
	E-LOCK コントロールユニット機能の一般不具合
	アンテナキー（イモビライザー）機能の不具合
ENGINE	ECU コントロールユニットが伝達を行いません / 正常に機能していません
	ECU コントロールユニット機能の一般不具合
	スロットルポジションセンサー不具合
	ガスグリップポジションセンサー不具合
	リレー又はスロットルサブエンジン不具合
	圧力センサー不具合
	エンジンクーラント温度センサー不具合
	インテークダクト温度センサー不具合
	インジェクションリレー不具合

エラー表示	説明
ENGINE	イグニションコイル不具合
	インジェクター不具合
	エンジン回転センサー不具合
	ラムダセンサー又はラムダセンサーヒーター不具合
	車両スターターリレー不具合
	クイックシフトスイッチ不具合
	セカンダリエアセンサー不具合
GEAR SENSOR	ギアセンサー機能の不具合
FUEL SENSOR	NTC リザーブセンサー機能の不具合
SPEED SENSOR	フロント及び / 又はリアスピードセンサー機能の不具合
BATTERY	バッテリー電圧が高すぎる、又は、低すぎる
STOP LIGHT	ストップライトが機能していない
FAN	エレクトリッククーリングファンの不具合
SIDE STAND	サイドスタンドセンサーの不具合

エラーアイコン表

ランプ	エラーメッセージ	エラー
	ABS	ABS コントロールユニット
	BBS	ブラックボックスコントロールユニット
	DSB	インストルメントパネルコントロールユニット
	E-LOCK	E-LOCK コントロールユニット
	CAN LINE	Can Bus OFF
	UNKNOW DEVICE	ソフトウェアの互換性
	FUEL SENSOR	リザーブフューエルセンサー
	GEAR SENSOR	ギアセンサー
	SIDE STAND	サイドスタンドセンサー

ランプ	エラーメッセージ	エラー
	STOP LIGHT	リアストップライト
	BATTERY	バッテリー電圧
	ENGINE	エンジンコントロールユニット
	SPEEDSENSOR	スピードセンサー
	FAN	クーリングファン

サイドスタンドステータスの表示

インストルメントパネルはサイドスタンドのステータスに関するデータを受信し、サイドスタンドエクステンド/オープンの場合､赤い背景に"SIDE STAND"の文字がディスプレイに表示されます。

サイドスタンドセンサーエラーがある場合、インストルメントパネルはサイドスタンドエクステンド / オープンの信号を表示し､EOBD ランプが点灯します。ディスプレイには "Side stand sensor" を表示します。

インストルメントパネルがサイドスタンドのステータスのデータを受信しない場合、サイドスタンドエクステンド/オープンの"SIDE STAND"表示が点滅し、ステータスが明確でないことを通知します。

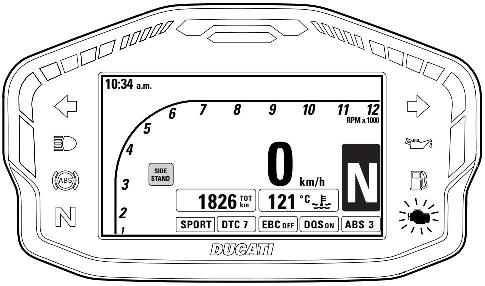


図 47

設定メニュー

このメニューはいくつかの車両機能をON/OFF及び設定することができます。
設定メニューに入るにはKey-On及び車両実スピードが≤20km/h（以下）の状態でボタン（2）を3秒間押します。このメニューを表示中は他の機能を見ることはできません。
設定メニューには以下の機能が表示されます
- RIDING MODE
- RPM
- BATTERY
- DDA
- PIN CODE
- CLOCK
- DATE
- BACK LIGHT
- UNITS
- LAP（"TRACK"タイプのディスプレイ表示でのみ起動）

重要
安全性の理由からこのメニューは車両が停止している状態で使用してください。

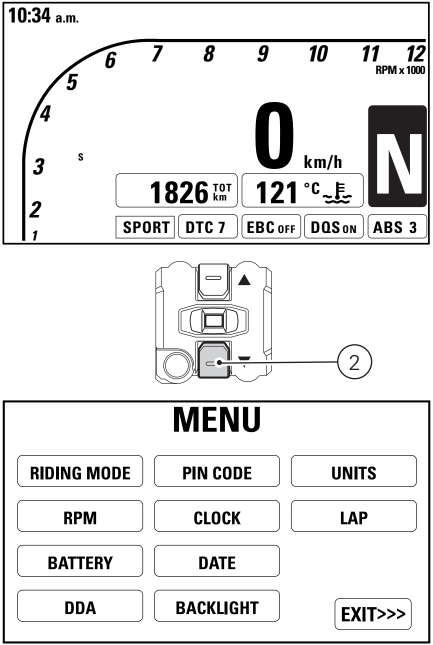


図 48

ボタン（1）及び（2）を押すとパーソナライズ可能なパラメーターを一つずつ強調表示することができます。ボタン（1）を押すと次のパラメーターが、ボタン（2）を押すと前のパラメーターが強調表示されます。
希望のパラメーターを強調表示した後、ボタン（4）を押すと選択したパラメーターに対応するメニューページが開きます。
機能が搭載されていない場合や一時的に解除されている場合は、メニューページにアクセスできません。
設定メニューから出るには、"EXIT" を強調表示し、メニュー決定ボタン（4）を押します。

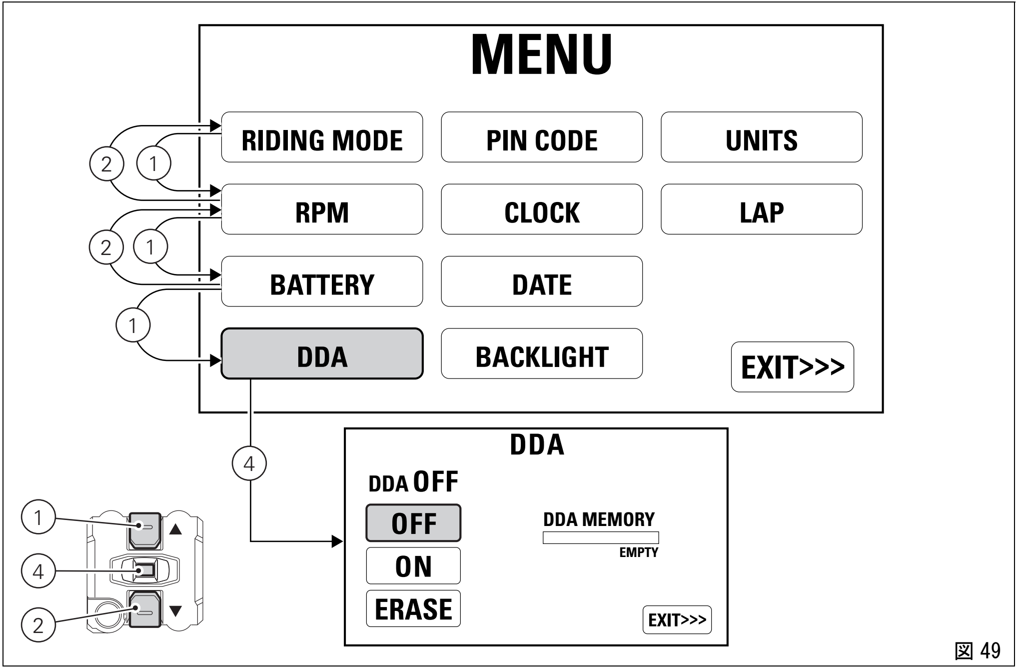

MENU
RIDING MODE
PIN CODE
UNITS
RPM
CLOCK
LAP
BATTERY
DATE
DDA
BACKLIGHT
EXIT>>>
2
1
2
1
1
4
DDA
DDA OFF
OFF
ON
ERASE
DDA MEMORY
EMPTY
EXIT>>>
1
4
2

図 49

ライディングモード のパーソナライズ (Riding Mode)

各ライディングモードのそれぞれの設定をパーソナライズすることができます。
設定メニューに入ります。
ボタン (1) 又は (2) を押して "RIDING MODE" の文字を選択します。
機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。

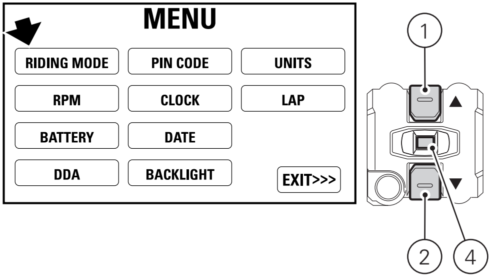


図 50

"RIDING MODE" メニューに入ります。
ボタン (1) または (2) を押して、希望のライディングモード (RACE、SPORT、又は WET) を選択します。
希望のライディングモードが強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。
選択したライディングモードのパーソナライズメニューに入ります。
"EXIT" の文字が強調表示され、ボタン (4) を押すと、サブメニューを終了し前の表示に戻ります。

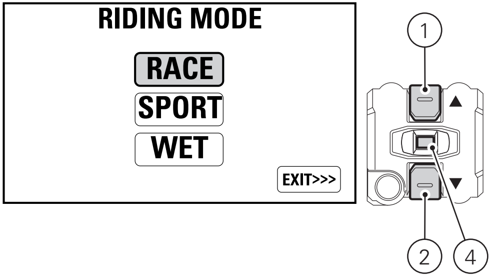


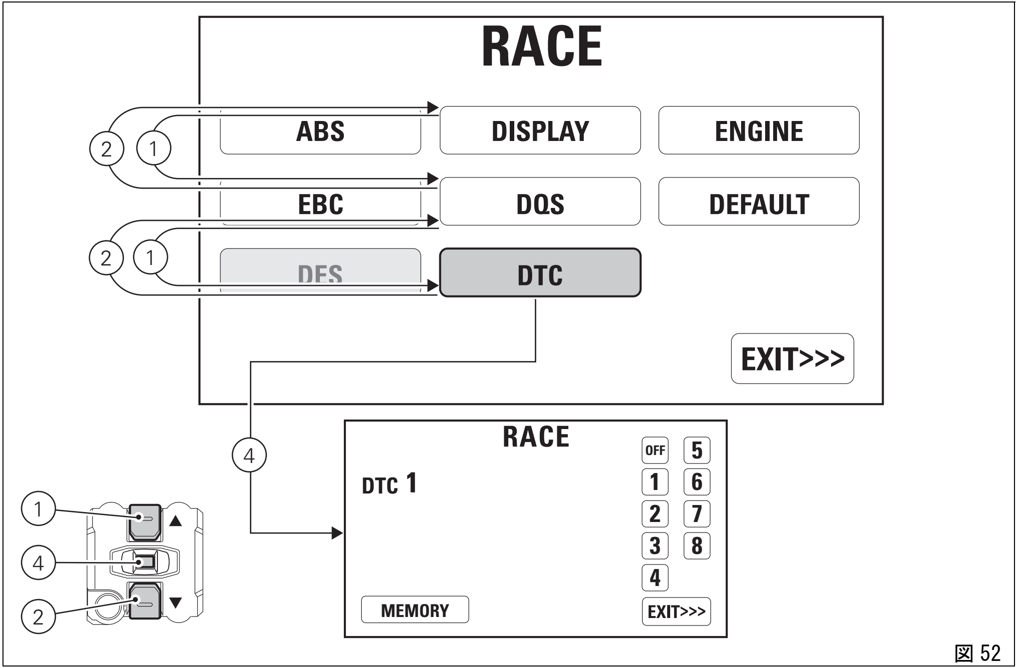
図 51

各ライディングモードについて以下のパラメーターをパーソナライズすることができます。
- ABS（ABS バージョンのみ可能）
- EBC
- DISPLAY
- DQS（DQS 搭載車両のみ可能）
- DTC
- ENGINE
- DEFAULT

ボタン（1）及び（2）を押すとパーソナライズ可能なパラメーターを一つずつ強調表示することができます。ボタン（1）を押すと次のパラメーターが、ボタン（2）を押すと前のパラメーターが強調表示されます。
希望のパラメーターを強調表示した後、ボタン（4）を押すと選択したパラメーターに対応するメニューページが開きます。
更新事項は Battery-Off 後もメモリー消去されません。
それぞれのライディングスタイルをDucati の初期設定に戻すには、DEFAULT 機能を使用します。
"EXIT" の文字が強調表示され、ボタン（4）を押すと、サブメニューを終了し前の表示に戻ります。

参考
これらの更新は、車両のセットアップに充分慣れている方のみにお勧めします。想定外の更新になった場合、DEFAULT で、パラメーターそのものの修復をお勧めします。

重要
DES のパラメーターはこの車両のバージョンでは起動していません。



RACE
ABS
DISPLAY
ENGINE
EBC
DQS
DEFAULT
DES
DTC
EXIT>>>
1
2
4
RACE
DTC 1
OFF
5
1
6
2
7
3
8
4
MEMORY
EXIT>>>

図 52

ライディングモードのパーソナライズ：ABS の調整（ABS バージョン）

ABSのパーソナライズ用ページはABSシステムを搭載している車両のみ表示することができます。ここではーつのライディングモードについて ABS システムの干渉レベルの設定、又は ABS システムを解除することができます。設定メニューに入ります。
ボタン（1）又は（2）を押して "RIDING MODE" の文字を選択します。
機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン（4）を押します。
"RIDING MODE" メニューに入ります。ボタン（1）または（2）を押して、希望のライディングモード（RACE、SPORT、又はWET）を選択します。
希望のライディングモードが強調表示されたら、メニュー決定ボタン（4）を押します。選択したライディングモードのパーソナライズメニューに入ります。
ボタン（1）又は（2）を押して、パーソナライズするパラメーター（ABS）を選択します。希望のパラメーターが強調表示されたら、メニュー決定ボタン（4）を押します。

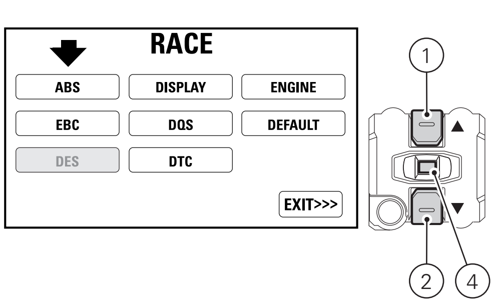


図 53

左側の機能の入口に現在の ABS のレベル又は状態が表示されます（例：ABS 1）。
右側にパーソナライズ可能なレベル 1 から 3、又は OFF がリストアップされます。
ボタン（1）及び（2）を押すと希望の干渉レベルを一つずつ強調表示することができます。ボタン（1）を押すと次のレベルが、ボタン（2）を押すと前のレベルが強調表示されます。
希望のレベルを選択したらメニュー決定ボタン（4）を押し、MEMORY の文字を強調表示します。

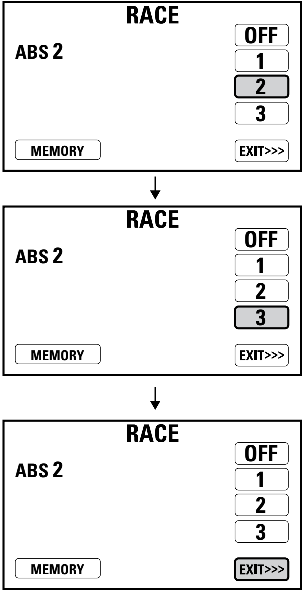


図 54

新しい設定をメモリーするにはオレンジ色に強調表示された MEMORY の文字と共にボタン (4) を 3 秒押します。メモリーが完了すると、MEMORIZED の文字が 1 秒間緑色に強調表示され、レベル数又は設定ステータスが更新されます（更新内容は緑色で表示されます）。その後 EXIT の文字が緑色に強調表示されます。メニューを終了して前の表示に戻るには、EXIT の文字を強調表示し、ボタン (4) を押します。

参考

この機能で ABS システムを起動又は解除する場合、すなわちシステム解除の状態から起動の状態又はその反対に変更する場合、ABS システムの起動又は解除の手続きが取られます。ABS コントロールユニットのステータスの変更はすぐに行われるものでなく、約 6 秒かかります。

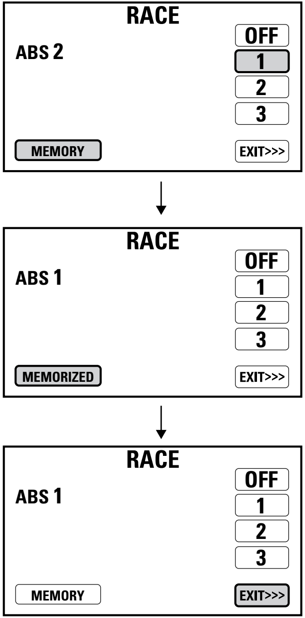


図 55

ライディングモードのパーソナライズ：ディスプレイの設定

ここでは各ライディングモードに連動したメインスクリーンのレイアウトのタイプを選択することができます。設定メニューに入ります。
ボタン (1) 又は (2) を押して "RIDING MODE" の文字を選択します。機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。"RIDING MODE" メニューに入ります。
ボタン (1) または (2) を押して、希望のライディングモード (RACE、SPORT、又は WET) を選択します。
希望のライディングモードが強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。
選択したライディングモードのパーソナライズメニューに入ります。
ボタン (1) 又は (2) を押して、パーソナライズするパラメーター (DISPLAY) を選択します。
希望のパラメーターが強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。

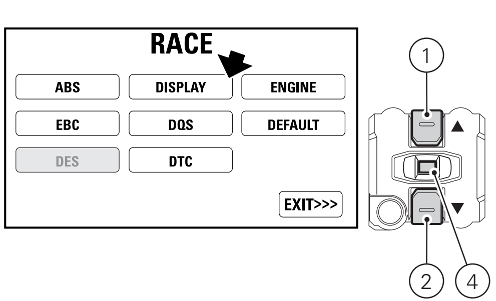


図 56

左側の機能の入口に現在設定されたメインスクリーンのタイプが表示されます。
右側にパーソナライズ可能なタイプ ROAD 又は TRACK がリストアップされます。
ボタン (1) 及び (2) を押すと希望のメインスクリーンのタイプを一つずつ強調表示することができます。ボタン (1) を押すと次のレベルが、ボタン (2) を押すと前のレベルが強調表示されます。
希望のメインスクリーンのタイプを選択したらメニュー決定ボタン (4) を押し、MEMORY の文字を強調表示します。
新しい設定をメモリーするにはオレンジ色に強調表示された MEMORY の文字と共にボタン (4) を 3 秒押します。メモリーが完了すると、MEMORIZED の文字が 1 秒間緑色に強調表示され、設定されたスクリーンのレイアウトが更新されます（更新内容は緑色で表示されます)。その後 EXIT の文字が緑色に強調表示されます。
メニューを終了して前の表示に戻るには、EXIT の文字を強調表示し、ボタン (4) を押します。

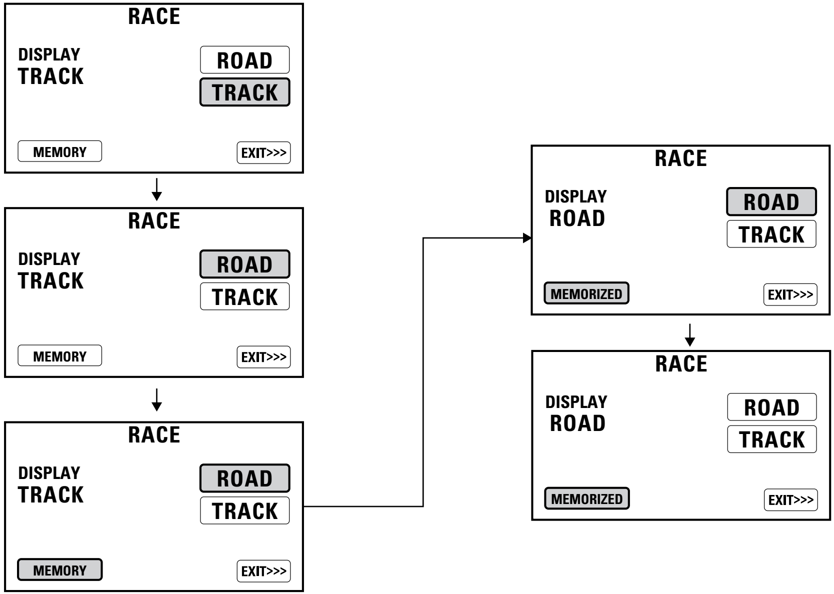

RACE
DISPLAY
TRACK
ROAD
TRACK
MEMORY
EXIT>>>
RACE
DISPLAY
TRACK
ROAD
TRACK
MEMORY
EXIT>>>
RACE
DISPLAY
TRACK
ROAD
TRACK
MEMORY
EXIT>>>
RACE
DISPLAY
ROAD
ROAD
TRACK
MEMORIZED
EXIT>>>
RACE
DISPLAY
ROAD
ROAD
TRACK
MEMORIZED
EXIT>>>

図 57

ライディングモードのパーソナライズ：DQS の起動 / 解除

DQSのパーソナライズ用ページはDQS装置を搭載している車両のみ表示することができます。ここでは各ライディングモードに連動した DQS 装置の起動又は解除を行うことができます。設定メニューに入ります。
ボタン（1）又は（2）を押して "RIDING MODE" の文字を選択します。機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン（4）を押します。"RIDING MODE" メニューに入ります。
ボタン（1）または（2）を押して、希望のライディングモード（RACE、SPORT、又は WET）を選択します。
希望のライディングモードが強調表示されたら、メニュー決定ボタン（4）を押します。
選択したライディングモードのパーソナライズメニューに入ります。ボタン（1）又は（2）を押して、パーソナライズするパラメーター（DQS）を選択します。希望のパラメーターが強調表示されたら、メニュー決定ボタン（4）を押します。
左側の機能の入口に現在の DQS 状態が表示されます（例：DQS ON）。
右側にパーソナライズ可能な状態 ON 又は OFF がリストアップされます。
ボタン（1）及び（2）を押すと希望の状態を一つずつ強調表示することができます。ボタン（1）を押すと次のレベルが、ボタン（2）を押すと前のレベルが強調表示されます。

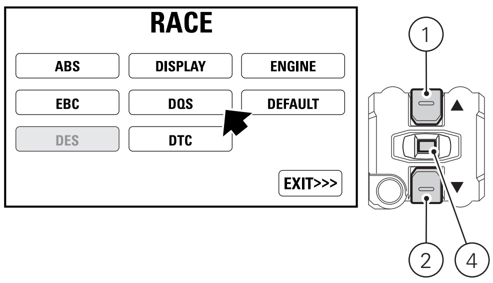


図 58

希望の状態を選択したらメニュー決定ボタン（4）を押し、MEMORY の文字を強調表示します。
新しい設定をメモリーするにはオレンジ色に強調表示された MEMORY の文字と共にボタン（4）を 3 秒押します。メモリーが完了すると、MEMORIZED の文字が 1 秒間緑色に強調表示され、設定された状態が更新されます（更新内容は緑色で表示されます）。その後 EXIT の文字が緑色に強調表示されます。
メニューを終了して前の表示に戻るには、EXIT の文字を強調表示し、ボタン（4）を押します。

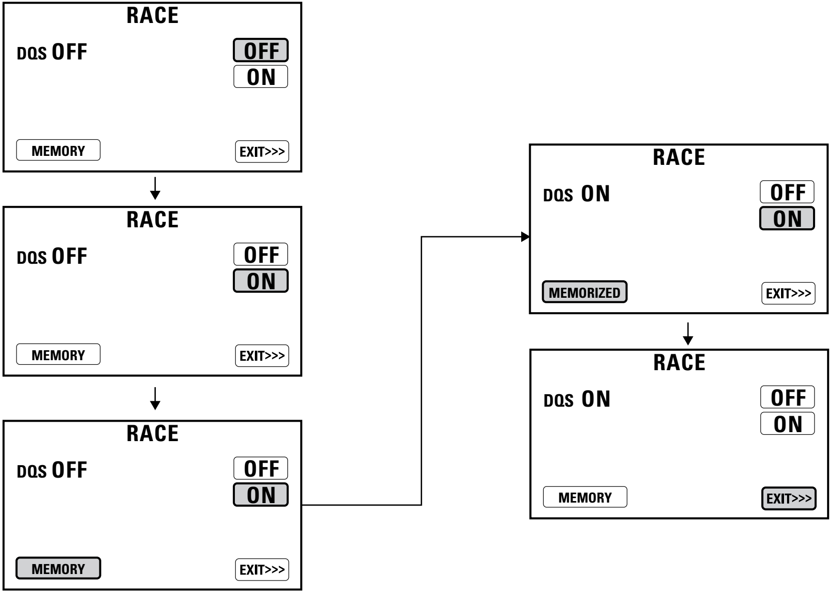

RACE
DQS OFF
OFF
ON
MEMORY
EXIT>>>
RACE
DQS OFF
OFF
ON
MEMORY
EXIT>>>
RACE
DQS OFF
OFF
ON
MEMORY
EXIT>>>
RACE
DQS ON
OFF
ON
MEMORIZED
EXIT>>>
RACE
DQS ON
OFF
ON
MEMORY
EXIT>>>

図 59

ライディングモードのパーソナライズ：DTC レベルの設定

ここでは各ライディングモードに連動したDC干渉レベルの設定又は解除を行うことができます。
設定メニューに入ります。
ボタン（1）又は（2）を押して "RIDING MODE" の文字を選択します。
機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン（4）を押します。
"RIDING MODE" メニューに入ります。
ボタン（1）または（2）を押して、希望のライディングモード（RACE、SPORT、又は WET）を選択します。
希望のライディングモードが強調表示されたら、メニュー決定ボタン（4）を押します。
選択したライディングモードのパーソナライズメニューに入ります。
左側の機能の入口に現在の DTC のレベル又は状態が表示されます（例：DTC 3）。
右側にパーソナライズ可能なレベルレベル 1 から 8、又は OFF がリストアップされます。

ボタン（1）又は（2）を押して、パーソナライズするパラメーター（DTC）を選択します。
希望のパラメーターが強調表示されたら、メニュー決定ボタン（4）を押します。

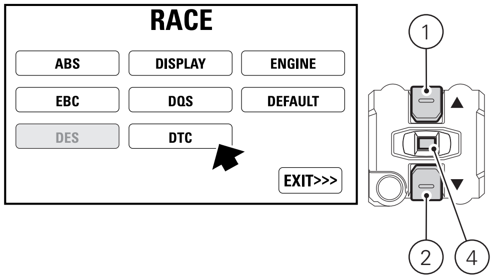


図 60

新しい設定をメモリーするにはオレンジ色に強調表示された MEMORY の文字と共にボタン（4）を 3 秒押します。メモリーが完了すると、MEMORIZED の文字が 1 秒間緑色に強調表示され、レベル数又は設定ステータスが更新されます（更新内容は緑色で表示されます）。その後 EXIT の文字が緑色に強調表示されます。
メニューを終了して前の表示に戻るには、EXIT の文字を強調表示し、ボタン（4）を押します。

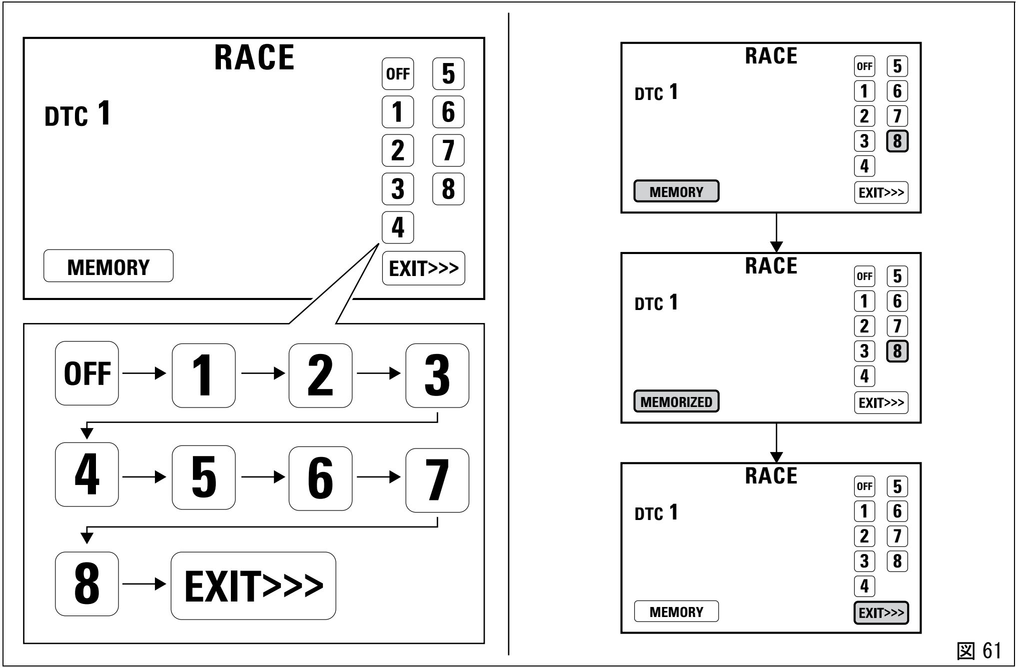

RACE
DTC 1
OFF 5
1 6
2 7
3 8
4
MEMORY
EXIT>>>
OFF → 1 → 2 → 3
4 → 5 → 6 → 7
8 → EXIT>>>
MEMORIZED

図 61

ライディングモードのパーソナライズ：エンジンの調整

ここでは各ライディングモードに連動したエンジン出力を設定することができます。
設定メニューに入ります。
ボタン（1）又は（2）を押して"RIDING MODE"の文字を選択します。
機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン（4）を押します。
"RIDING MODE"メニューに入ります。
ボタン（1）または（2）を押して、希望のライディングモード（RACE、SPORT、又はWET）を選択します。
希望のライディングモードが強調表示されたら、メニュー決定ボタン（4）を押します。
選択したライディングモードのパーソナライズメニューに入ります。
ボタン（1）又は（2）を押して、パーソナライズするパラメーター（ENGINE）を選択します。
希望のパラメーターが強調表示されたら、メニュー決定ボタン（4）を押します。
左側の機能の入口に現在のエンジン出力が表示されます（例：ENGINE 195Hi）。

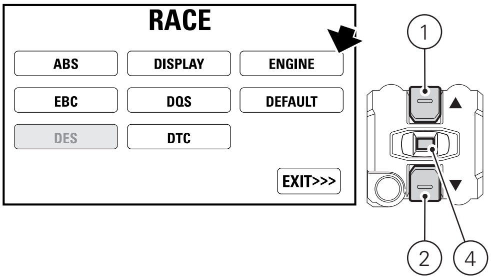


図 62

右側にパーソナライズ可能な出力が以下のようにリストアップされます。
- 195Hi、195Lo、120（ヨーロッパ、UK、USA、カナダ、ブラジル、台湾、中国バージョン）

または：
- HIGH、MID、LOW（フランス、日本バージョン）

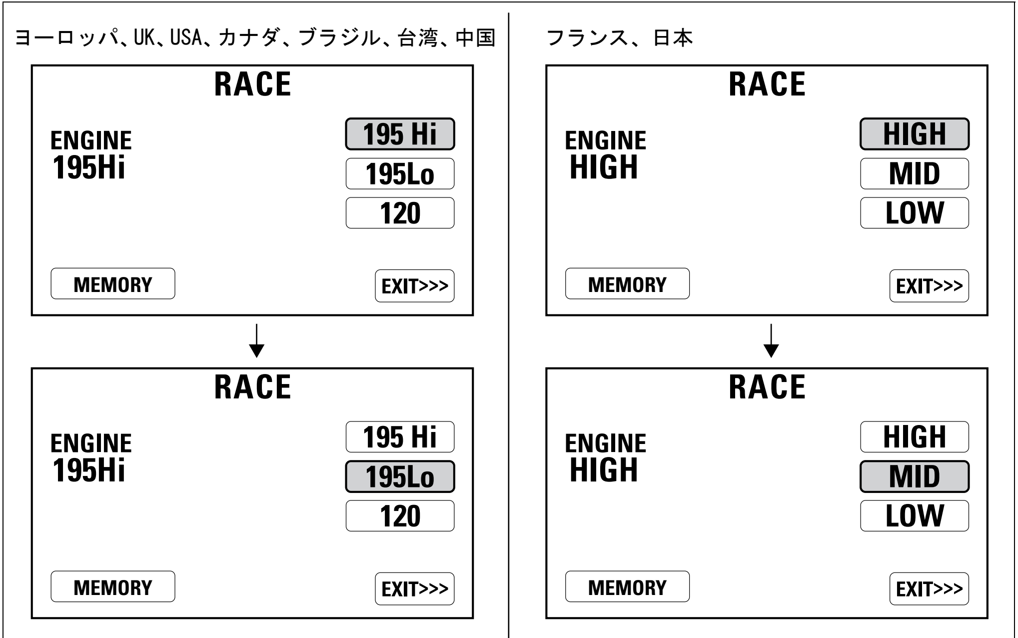

ヨーロッパ、UK、USA、カナダ、ブラジル、台湾、中国
RACE
ENGINE
195Hi
195 Hi
195Lo
120
MEMORY
EXIT>>>
RACE
ENGINE
195Hi
195 Hi
195Lo
120
MEMORY
EXIT>>>
フランス、日本
RACE
ENGINE
HIGH
HIGH
MID
LOW
MEMORY
EXIT>>>
RACE
ENGINE
HIGH
HIGH
MID
LOW
MEMORY
EXIT>>>

図 63

ボタン（1）及び（2）を押すと希望のエンジン出力を一つずつ強調表示することができます。ボタン（1）を押すと次のレベルが、ボタン（2）を押すと前のレベルが強調表示されます。
希望の出力を選択したらメニュー決定ボタン（4）を押し、MEMORY の文字を強調表示します。
新しい設定をメモリーするにはオレンジ色に強調表示された MEMORY の文字と共にボタン（4）を 3 秒押します。メモリーが完了すると、MEMORIZED の文字が 1 秒間緑色に強調表示され、設定されたエンジン出力が更新されます（更新内容は緑色で表示されます）。
その後 EXIT の文字が緑色に強調表示されます。
メニューを終了して前の表示に戻るには、EXIT の文字を強調表示し、ボタン（4）を押します。

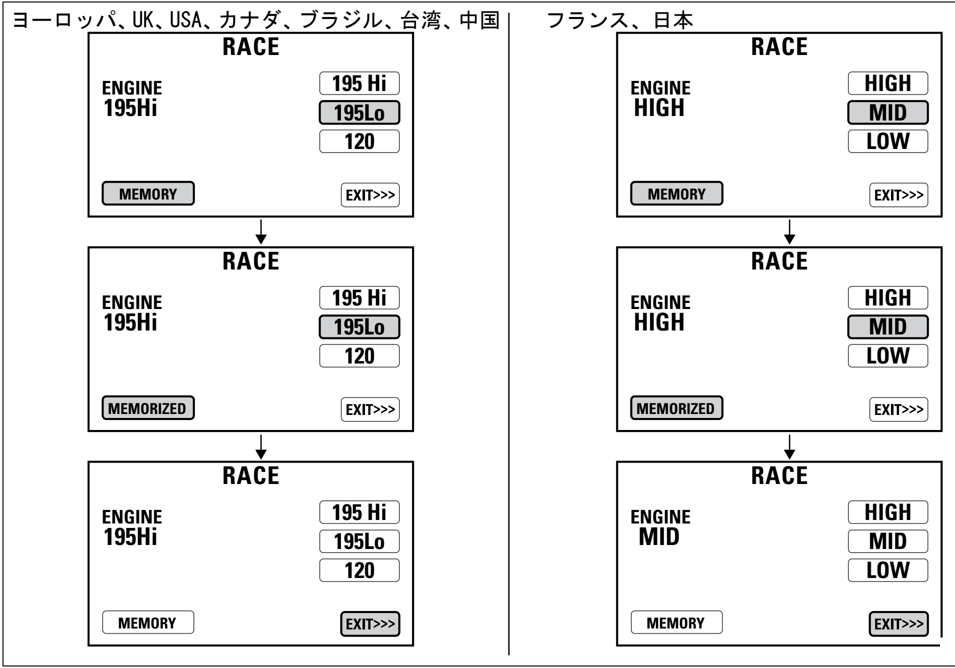

ヨーロッパ、UK、USA、カナダ、ブラジル、台湾、中国
RACE
ENGINE
195Hi
195 Hi
195Lo
120
MEMORY
EXIT>>>
RACE
ENGINE
195Hi
195 Hi
195Lo
120
MEMORIZED
EXIT>>>
RACE
ENGINE
195Hi
195 Hi
195Lo
120
MEMORY
EXIT>>>
フランス、日本
RACE
ENGINE
HIGH
HIGH
MID
LOW
MEMORY
EXIT>>>
RACE
ENGINE
HIGH
HIGH
MID
LOW
MEMORIZED
EXIT>>>
RACE
ENGINE
MID
HIGH
MID
LOW
MEMORY
EXIT>>>

図 64

ライディングモードのパーソナライズ：EBC レベルの設定

ここでは各ライディングモードに連動したリアホイールのアンチブレーキシステム（EBC）の干渉レベル又は解除を設定することができます。設定メニューに入ります。
ボタン（1）又は（2）を押して "RIDING MODE" の文字を選択します。
機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン（4）を押します。
"RIDING MODE" メニューに入ります。
ボタン（1）または（2）を押して、希望のライディングモード（RACE、SPORT、又は WET）を選択します。
希望のライディングモードが強調表示されたら、メニュー決定ボタン（4）を押します。
選択したライディングモードのパーソナライズメニューに入ります。ボタン（1）又は（2）を押して、パーソナライズするパラメーター（EBC）を選択します。希望のパラメーターが強調表示されたら、メニュー決定ボタン（4）を押します。
左側の機能の入口に現在の EBC のレベル又は状態が表示されます（例：EBC 1）。右側にパーソナライズ可能なレベル 1 から 3、又は OFF がリストアップされます。
ボタン（1）及び（2）を押すと希望の干渉レベルを一つずつ強調表示することができます。ボタン（1）を押すと次のレベルが、ボタン（2）を押すと前のレベルが強調表示されます。

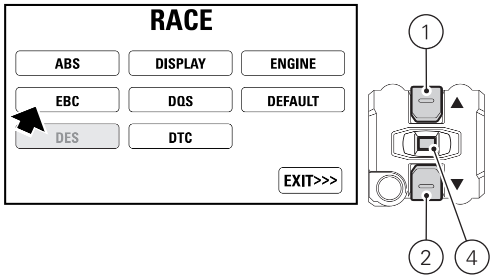


図 65

希望のレベルを選択したらメニュー決定ボタン（4）を押し、MEMORY の文字を強調表示します。
新しい設定をメモリーするにはオレンジ色に強調表示された MEMORY の文字と共にボタン（4）を 3 秒押します。メモリーが完了すると、MEMORIZED の文字が 1 秒間緑色に強調表示され、レベル数又は設定ステータスが更新されます（更新内容は緑色で表示されます）。その後 EXIT の文字が緑色に強調表示されます。
メニューを終了して前の表示に戻るには、EXIT の文字を強調表示し、ボタン（4）を押します。

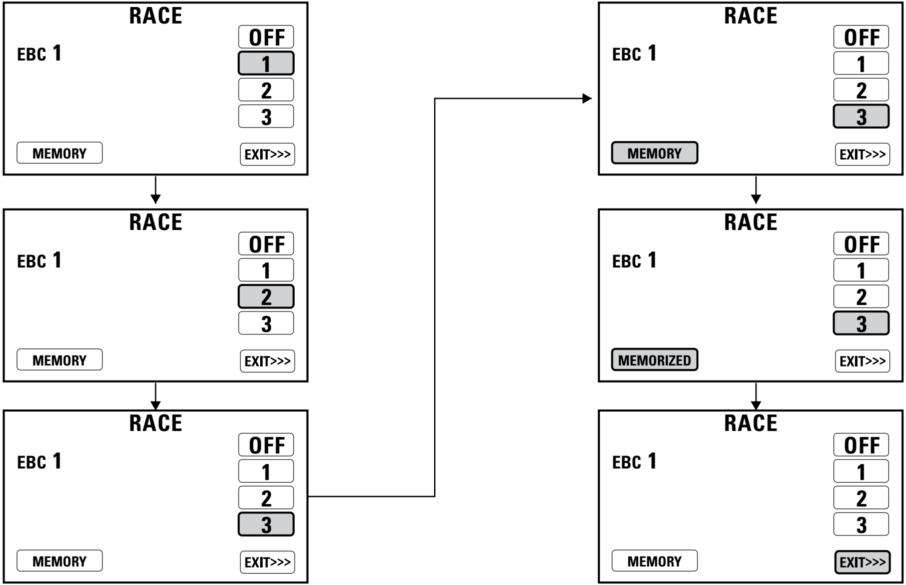

RACE
EBC 1
OFF
1
2
3
MEMORY
EXIT>>>
RACE
EBC 1
OFF
1
2
3
MEMORY
EXIT>>>
RACE
EBC 1
OFF
1
2
3
MEMORY
EXIT>>>
RACE
EBC 1
OFF
1
2
3
MEMORY
EXIT>>>
RACE
EBC 1
OFF
1
2
3
MEMORIZED
EXIT>>>
RACE
EBC 1
OFF
1
2
3
MEMORY
EXIT>>>

図 66

ライディングモードのパーソナライズ：デフォルト設定の回復

ここではそれぞれのライディングモードに連動したパラメーターをドゥカティが設定したデフォルトの値に回復させることができます。設定メニューに入ります。
ボタン（1）又は（2）を押して"RIDING MODE"の文字を選択します。機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン（4）を押します。"RIDING MODE"メニューに入ります。ボタン（1）または（2）を押して、希望のライディングモード（RACE、SPORT、又はWET）を選択します。希望のライディングモードが強調表示されたら、メニュー決定ボタン（4）を押します。選択したライディングモードのパーソナライズメニューに入ります。ボタン（1）又は（2）を押して、パーソナライズするパラメーター（DEFAULT）を選択します。希望のパラメーターが強調表示されたら、メニュー決定ボタン（4）を押します。パラメーターの回復には、ディスプレイにPLEASE WAIT... と3秒間表示されます。ディスプレイでの手続きが終了すると、パラメーターの回復が正常に行われたことを表すDEFAULT OK が2秒間表示されます。その後、自動的にEXIT の強調表示された文字と共にライディングモードのパーソナライズメニューの最初のページに戻ります。メニューを終了して設定メニューの最初のページに戻るには、EXIT の文字を強調表示し、ボタン（4）を押します。

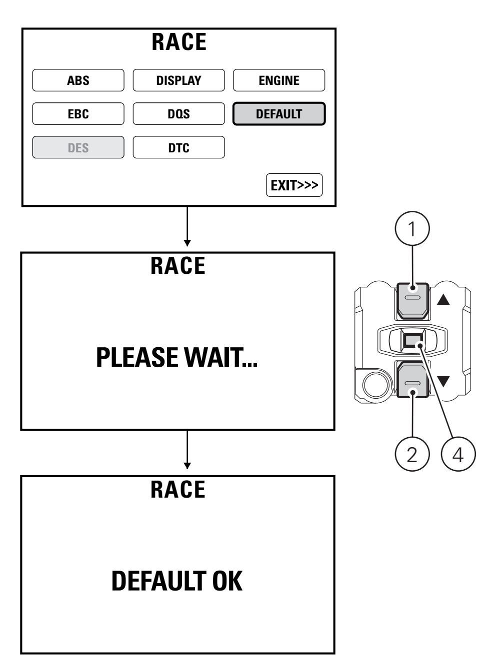


図 67

エンジン回転数のデジタル表示（RPM）

この機能はエンジン回転数（RPM）をデジタル表示します（より正確な値を得るため、アイドリング中に行うことを推奨します）。
設定メニューに入ります。
ボタン（1）又は（2）を押して "RPM" の文字を選択します。
機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン（4）を押します。
"RPM" メニューに入ります。
ディスプレイにはエンジン回転情報が 50 rpm から正確に表示されます。
インストルメントパネルが回転数のデータを受信しない場合、5 本のハイフン "– – – – –" を固定表示し、値が表示できないことを示します。
メニューを終了して設定メニューの最初のページに戻るには、EXIT の文字を強調表示し、ボタン（4）を押します。

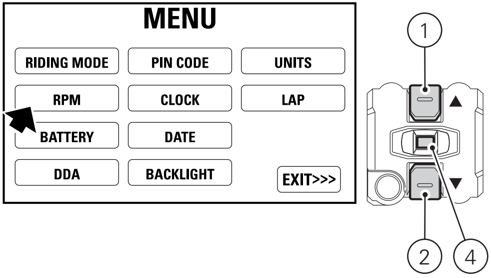


図 68

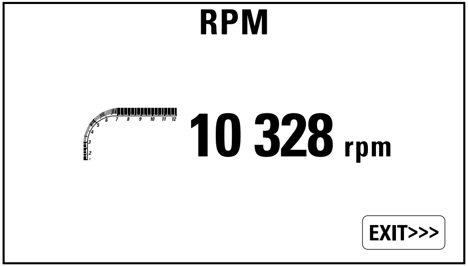


図 69

バッテリー電圧

ここでは車両のバッテリー電圧のレベルを確認することができます。
設定メニューに入ります。
ボタン (1) 又は (2) を押して "BATTERY" の文字を選択します。
機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。
"BATTERY" メニューに入ります。
ディスプレイ上には以下の項目が表示されます。

- バッテリー電圧が 11.0V 未満の場合、赤の背景に LOW の文字が点滅し、バッテリーアイコンが表示されます。
- バッテリー電圧が 11.0V から 11.7V の場合、赤の背景にデータが点滅し、バッテリーアイコンが表示されます。
- バッテリー電圧が 11.8V から 14.9V の場合、スタンダードの背景にデータ及びバッテリーアイコンが表示されます。
- バッテリー電圧が 15.0V から 16.0V の場合、赤の背景にデータが点滅し、バッテリーアイコンが表示されます。
- バッテリー電圧が 15.0V を超える場合、赤の背景に HIGH の文字が点滅し、バッテリーアイコンが表示されます。

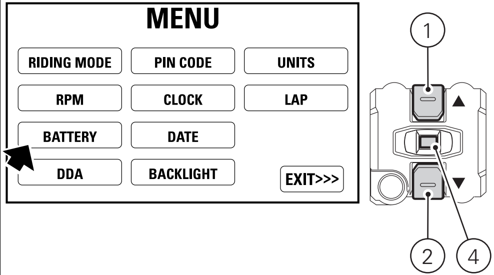


図 70

バッテリー電圧エラーの場合、インストルメントパネルは単位と共に電圧として "- - -" が点滅し、EOBD ランプが点灯します。そして、ディスプレイ上に BATTERY エラーが表示されます。
インストルメントパネルがバッテリー電圧の値を受信しない場合、3 本のハイフン "- - -" 及び単位が表示されます。
メニューを終了して設定メニューの最初のページに戻るには、EXIT の文字を強調表示し、ボタン (4) を押します。

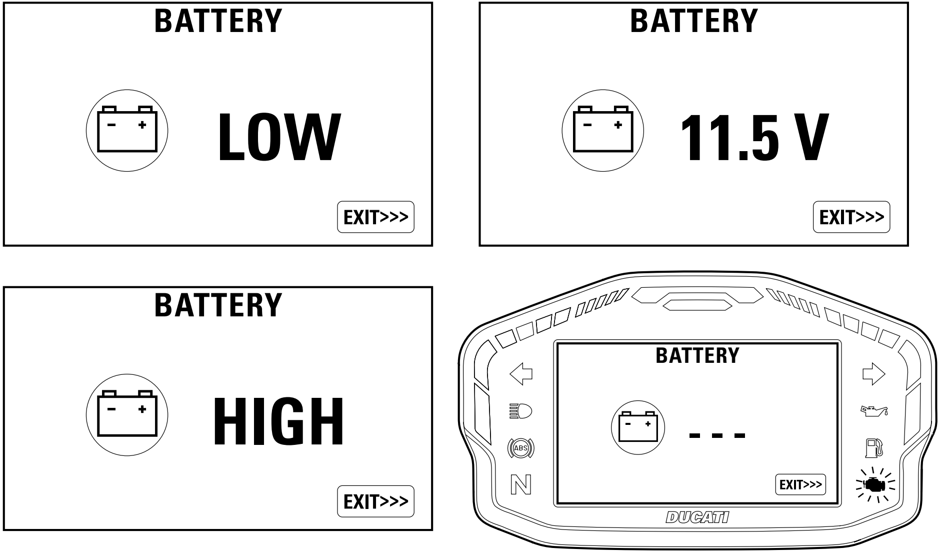

BATTERY
LOW
EXIT>>>
BATTERY
11.5 V
EXIT>>>
BATTERY
HIGH
EXIT>>>
BATTERY
- - -
EXIT>>>
ABS
N
DUCATI

図 71

DDA

ここでは DDA 装置の起動及び解除、占有メモリーの割合の表示、そして装置のメモリーの削除を行うことができます。
DDA に関するページは車体に装置が搭載されている場合のみ使用することができます。

設定メニューに入ります。
ボタン (1) 又は (2) を押して "DDA" の文字を選択します。
機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。
"DDA" メニューに入ります。

DDA の起動 / 解除

左側の機能の入口に現在の DDA 状態が表示されます (例 : DDA ON)。
この表示の下にパーソナライズ可能な状態 ON 又は OFF がリストアップされます。
ボタン (1) 及び (2) を押すと希望の状態を一つずつ強調表示することができます。ボタン (1) を押すと次のレベルが、ボタン (2) を押すと前のレベルが強調表示されます。
希望の状態を選択したらメニュー決定ボタン (4) を押し、レベルを決定します。
新しく設定した値が更新されます (更新内容は緑色で表示されます)。

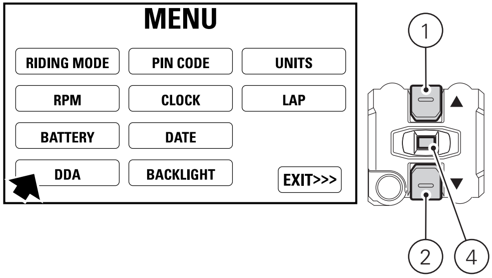


図 72

メニューを終了して前の表示に戻るには、EXIT の文字を強調表示し、ボタン (15、図 4) を押します。

参考
key-off する度に DDA システムはインストルメントパネルにより自動的に解除されます。

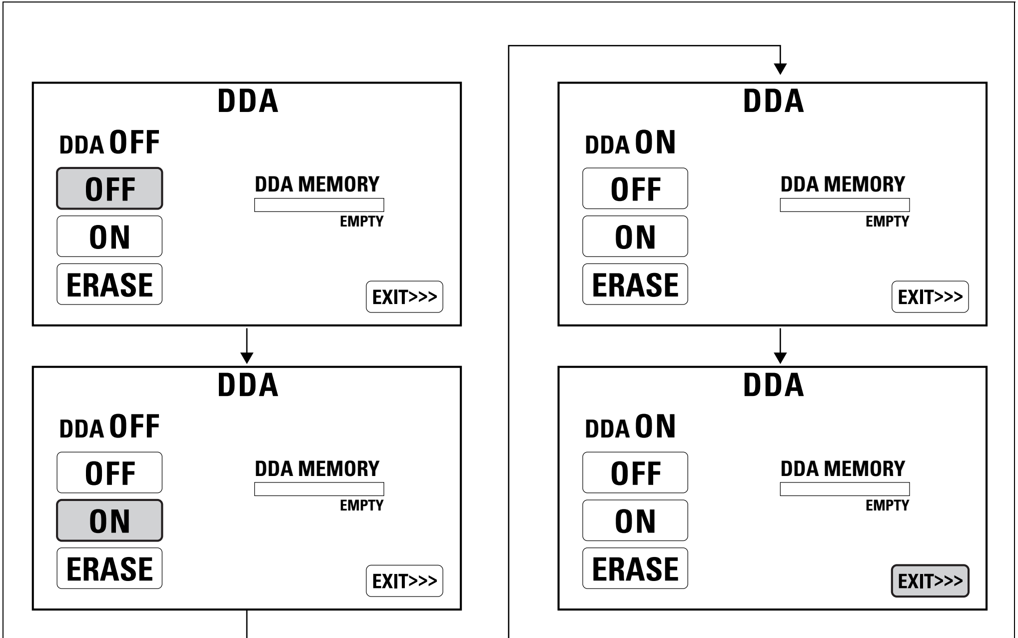

DDA
DDA OFF
OFF
ON
ERASE
DDA MEMORY
EMPTY
EXIT>>>
DDA
DDA OFF
OFF
ON
ERASE
DDA MEMORY
EMPTY
EXIT>>>
DDA
DDA ON
OFF
ON
ERASE
DDA MEMORY
EMPTY
EXIT>>>
DDA
DDA ON
OFF
ON
ERASE
DDA MEMORY
EMPTY
EXIT>>>

図 73

DDA メモリーの表示 / 削除

右側のこの機能の入口に DDA メモリーの占有率が表示されます。

- 空のバー及び EMPTY の文字は DDA メモリーが空であることを示します。
- 一部に色が付いているバー及び割合は DDA メモリーが表示された割合だけ占有されていることを示します。
- 全て色が付いているバー及び FULL の文字は DDA メモリーがいっぱいであることを示します。

DDA
が OFF の場合、メモリーを削除することができます。
ボタン (1) 又は (2) を押して "ERASE" の文字を選択します。
決定ボタン (4) を 3 秒間押して決定します。
3 秒後、インストルメントパネルは削除が完了するまで "PLEASE WAIT... と表示します。その時間は削除するデータの量によって異なります。削除が正常に行われると、インストルメントパネルは 2 秒間 ERASE OK と表示し、ディスプレイ上のメモリーステータスの表示を更新します。
削除に失敗した場合、インストルメントパネルはメモリー占有率の表示に戻ります。
メニューを終了して前の表示に戻るには、"EXIT" の文字を強調表示し、ボタン (4) を押します。

参考

DDA 装置が ON の場合、削除及び ERASE キーの選択はできません。

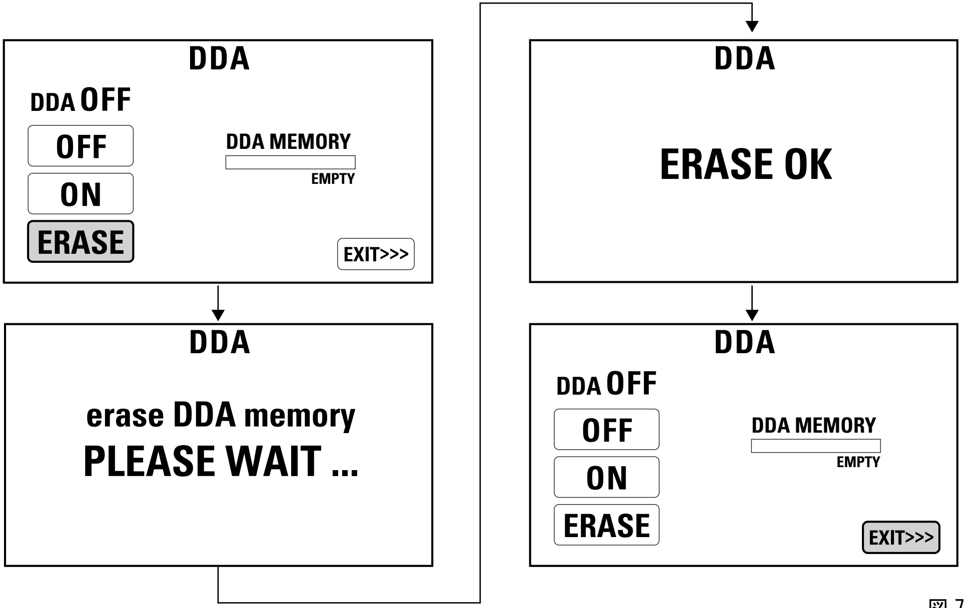

DDA
DDA OFF
OFF
ON
ERASE
DDA MEMORY
EMPTY
EXIT>>>
DDA
erase DDA memory
PLEASE WAIT ...
DDA
ERASE OK
DDA
DDA OFF
OFF
ON
ERASE
DDA MEMORY
EMPTY
EXIT>>>

図 74

Pin Code

この機能で E-Lock システムの不具合が生じた場合（ステアリングブロックが解除されており、E-Lock システムに問題がある場合）、車両を″一時的に″起動させることができます。
PIN CODE は最初車両に登録されていませんが、ユーザーが 4 桁の PIN をインストルパネルに入力します。これを行わないと、不具合が生じた場合に一時起動をすることができません。
起動するには″PIN CODE の入力″の手順に従います。
PIN を変更するには″PIN CODE の変更″の手順に従います。
E-Lock システムに不具合が生じた際に車両を一時的に起動するには、車両のブロック解除の手順に従います。

参考
PIN CODE は車両の所有者が設定（登録）しなければなりません。PIN がすでに設定されている場合には、ドゥカティオフィシャルディーラーにて機能の″リセット″を依頼してください。設定解除をする場合、Ducati ディーラーは車両所有者確認をさせていただくことがあります。

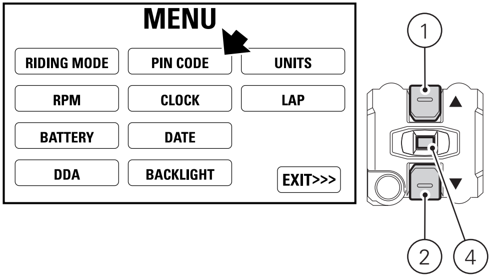


図 75

PIN CODE の入力

PIN CODE 機能を有効にし、PIN CODE を入力するには、設定メニューに入ります。
ボタン (1) 又は (2) を押して″PIN CODE″の文字を選択します。
機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。
″PIN CODE″メニューに入ります。

機能の入口でディスプレイに”INSERT NEW PIN CODE”の表示が表れ、その下に緑色の点線”- - - -”が表示されます。
コードの入力：
1) ボタン(4)を押します。
2) ”0”で表示される1桁のみが緑色に強調表示されます。
3) ボタン(2)を押す度に数字が1から9までひとつずつ大きくなり、その後”0”に戻ります。
4) ボタン(1)を押す度に数字が1までひとつずつ小さくなり、その後”0”に戻ります。
5) ボタン(4)を押して数字を決定します。
6) 2) - 5)の手順を繰り返し、PIN CODEの全ての4ケタの数字を決定します。

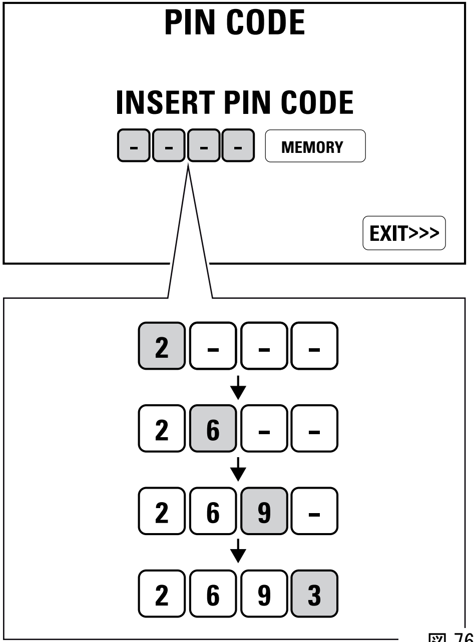


図 76

ボタン（4）を押して最後の数字を決定すると、インストルメントパネルはMEMORYの文字を強調表示します。新しい設定をメモリーするにはオレンジ色に強調表示されたMEMORYの文字と共にボタン（4）を3秒押します。メモリーが完了すると、MEMORIZEDの文字が1秒間緑色に強調表示され、その後EXITの文字が緑色に強調表示されます。
最初のPIN CODEのメモリー後、メニューのこのページに入ることができなくなり、PIN CODE の変更のページになります。
PIN CODE機能がリセットされた場合（ドゥカティオフィシャルディーラーのみ行うことが可能）に限り、最初の PIN CODE の登録のページが有効になりメニューから入ることができるようになります。

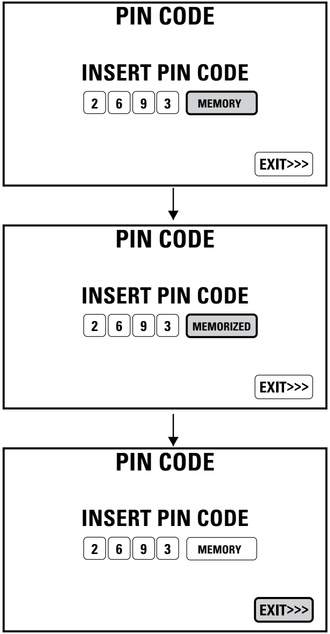


図 77

PIN CODE の変更

すでに登録されている PIN を変更し、新しい PIN を有効にするには、設定メニューに入ります。
ボタン (1) 又は (2) を押して "PIN CODE" の文字を選択します。
機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。
"PIN CODE" メニューに入ります。126 ページの手順を参照。
機能の入口でディスプレイに "OLD CODE" の表示が表れ、その隣に緑色の点線 "– – – –" が、下には NEW CODE の表示が表れます。
古いコードの入力：

1) ボタン (4) を押します。
2) "0" で表示される 1 桁のみが緑色に強調表示されます。
3) ボタン (2) を押す度に数字が 1 から 9 までひとつずつ大きくなり、その後 "0" に戻ります。
4) ボタン (1) を押す度に数字が 1 までひとつずつ小さくなり、その後 "0" に戻ります。
5) ボタン (4) を押して数字を決定します。
6) 2) – 5) の手順を繰り返し、PIN CODE の全ての 4 ケタの数字を決定します。

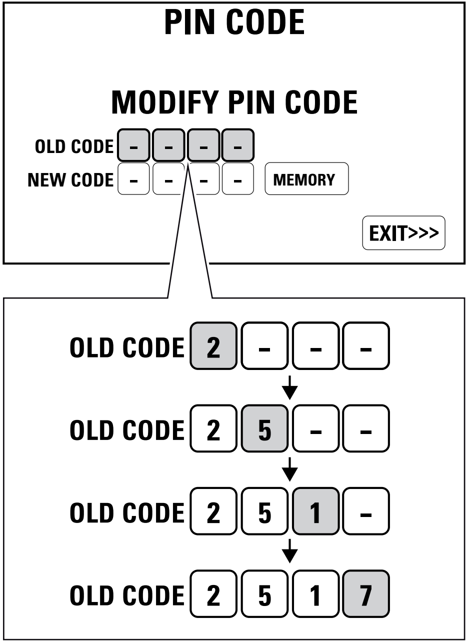


図 78

ボタン (4) を押して 4 ケタすべての数字を決定した際、

- PIN CODE が正しくないい場合、インストルメントパネルは 3 秒間 WRONG の文字を表示し､その後 OLD PIN について点線 ″- - - -″ を強調します。もう一度 PIN CODE を入力してください。
- PIN CODE の確認中に問題が発生した場合、インストルメントパネルは ERROR を 3 秒間表示し、その後 EXIT の文字を強調表示します。
- PIN CODE が正しい場合、インストルメントパネルは CORRECT を 3 秒間表示し、NEW PIN を入力するための点線 ″- - - -″ を強調表示します。

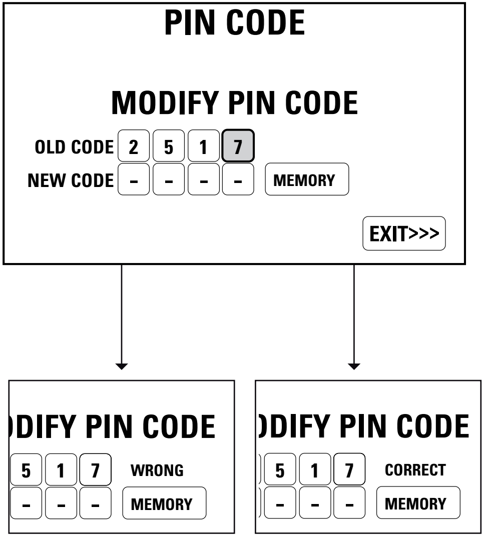


図 79

新しいコードの入力：
1）ボタン（4）を押します。
2）"0" で表示される1桁のみが緑色に強調表示されます。
3）ボタン（2）を押す度に数字が1から9までひとつずつ大きくなり、その後 "0" に戻ります。
4）ボタン（1）を押す度に数字が1までひとつずつ小さくなり、その後 "0" に戻ります。
5）ボタン（4）を押して数字を決定します。
6）2）– 5）の手順を繰り返し、PIN CODE の全ての4ケタの数字を決定します。

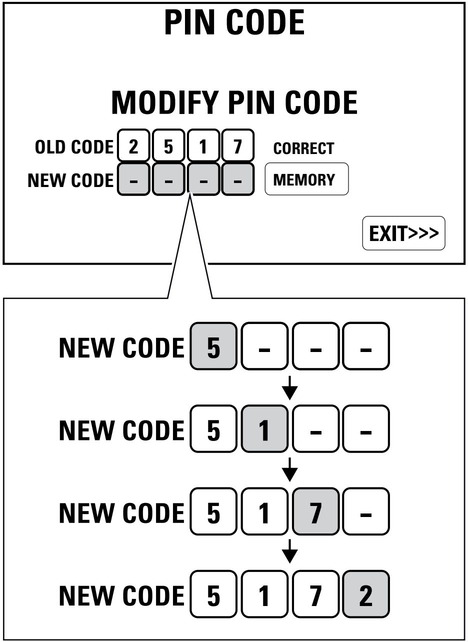


図 80

ボタン (4) を押して最後の数字を決定すると、インストルメントパネルはMEMORYの文字を強調表示します。新しい設定をメモリーするにはオレンジ色に強調表示されたMEMORYの文字と共にボタン (4) を3秒押します。メモリーが完了すると、MEMORIZEDの文字が1秒間緑色に強調表示され、その後EXITの文字が緑色に強調表示されます。

メモリーに失敗した場合、インストルメントパネルはNEW PINについて点線"– – – –"を強調表示します。もう一度新しいPIN CODEを入力してください。

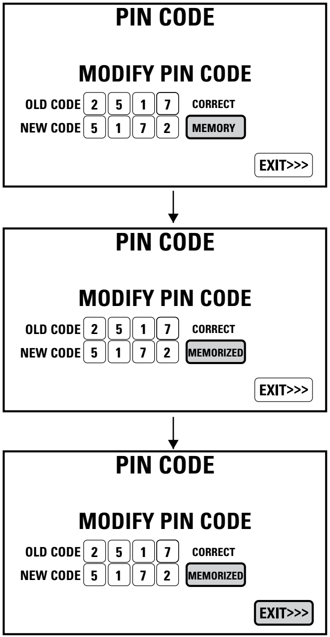


図 81

時計の調整

この機能は時計の調整 / 設定をします。
設定メニューに入ります。
ボタン (1) 又は (2) を押して "CLOCK" の文字を選択します。
機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。
"CLOCK SETTING" メニューに入ります。
左側の入口に調整可能な HOUR、MINUTE、AM / PM がリストアップされます。一方右側には現在の時刻が表示されます（例： 10 ： 30 a.m.）。

時間の調整

ボタン (1) 又は (2) を押して "HOUR" の文字を選択します。
強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。
時間に相当するデータが点滅し始めます。
ボタン (1) を押すと時間がひとつずつ小さくなります。AM は 0、11、.... 1、0、PM は 12、11、.... 1、12 と表示されます。
ボタン (2) を押すと時間がひとつずつ大きくなります。AM は 11、0、1.... 11、PM は 12、1、.... 12 と表示されます。
希望の値に達したら、メニュー決定ボタン (4) を押します。設定された時間は固定表示に代わります。

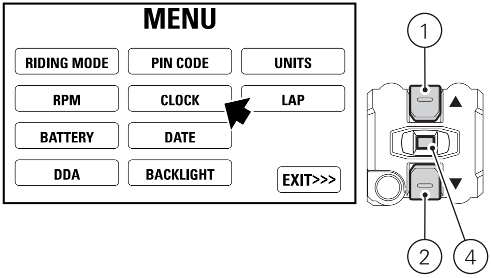


図 82

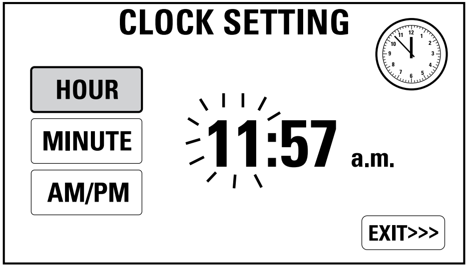


図 83

分の調整
ボタン (1) 又は (2) を押して"MINUTE"の文字を選択します。
強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。
分に相当するデータが点滅し始めます。
ボタン (1) を押すと分がひとつずつ小さくなります。59、58、.... 00、59 と表示されます。
ボタン (2) を押すと分がひとつずつ大きくなります。00、01、.... 59、00 と表示されます。
希望の値に達したら、メニュー決定ボタン (4) を押します。設定された分は固定表示に代わります。

am/pm の調整
ボタン (1) 又は (2) を押して"AM/PM"の文字を選択します。
強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。
データが点滅し始めます。
AM を選択するにはボタン (1) を、PM を選択するにはボタン (2) を押します。
希望の値に達したら、メニュー決定ボタン (4) を押します。設定されたデータは固定表示に代わります。

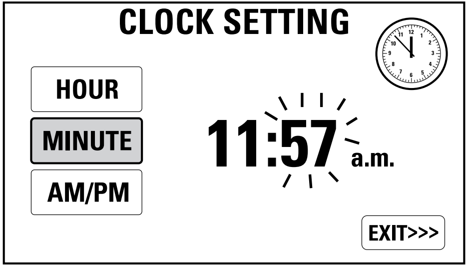


図 84

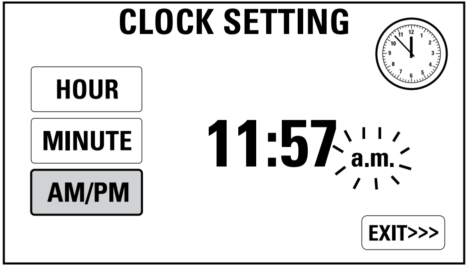


図 85

メニューを終了して前の表示に戻るには、EXIT の文字を強調表示し、ボタン (4) を押します。

参考
バッテリーが切断される度に時計の情報はリセットされ、ユーザーは再度設定しなければなりません。

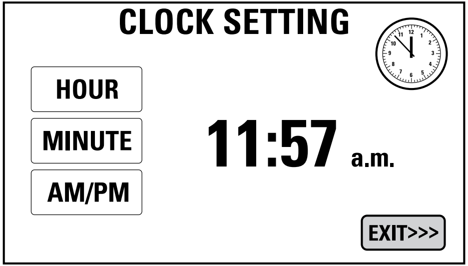


図 86

日付の調整

この機能で日付の表示、設定 / 調整することができます。
設定メニューに入ります。
ボタン (1) 又は (2) を押して"DATE"の文字を選択します。
機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。
"DATE SETTING" メニューに入ります。
左側の入口に調整可能な YEAR、MONTH、DAY がリストアップされます。一方右側には現在の日付が表示されます (例 : 2012/01/27)。

年の調整

ボタン (1) 又は (2) を押して"YEAR"の文字を選択します。
強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。
年に相当するデータが点滅し始めます。
ボタン (1) を押すと年がひとつずつ小さくなります。
2250、2249、.... 2000、2250 と表示されます。
ボタン (2) を押すと年がひとつずつ大きくなります。
2000、2001、.... 2250、2000 と表示されます。
希望の値に達したら、メニュー決定ボタン (4) を押します。設定された年は固定表示に代わります。

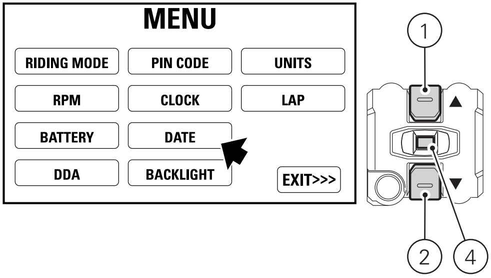


図 87

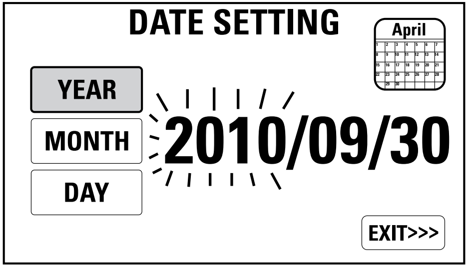


図 88

月の調整

ボタン（1）又は（2）を押して"MONTH"の文字を選択します。
強調表示されたら、メニュー決定ボタン（4）を押します。
月に相当するデータが点滅し始めます。
ボタン(1)を押すと月がひとつずつ小さくなります。
12、11、.... 01、12と表示されます。
ボタン(2)を押すと月がひとつずつ大きくなります。
01、02、.... 12、01と表示されます。
希望の値に達したら、メニュー決定ボタン（4）を押します。設定された月は固定表示に代わります。

日の調整

ボタン（1）又は（2）を押して"DAY"の文字を選択します。
強調表示されたら、メニュー決定ボタン（4）を押します。
日に相当するデータが点滅し始めます。
ボタン(1)を押すと日がひとつずつ小さくなります。
31、30、.... 01、31と表示されます。
ボタン(2)を押すと日がひとつずつ大きくなります。
01、02、.... 31、01と表示されます。
希望の値に達したら、メニュー決定ボタン（4）を押します。設定された日は固定表示に代わります。

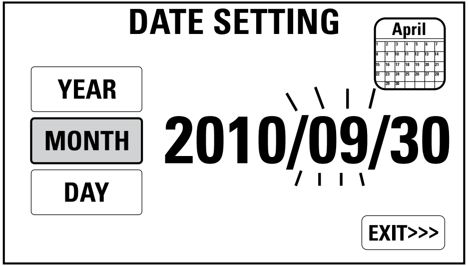


図 89

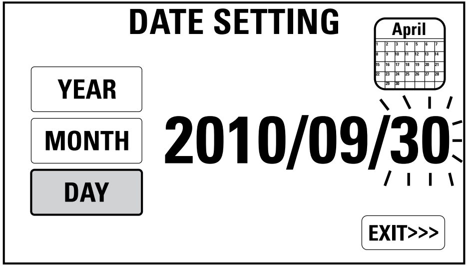


図 90

メニューを終了して前の表示に戻るには、EXIT の文字を強調表示し、ボタン (4) を押します。

参考
バッテリーが切断される度に日付の情報はリセットされ、ユーザーは再度設定しなければなりません。

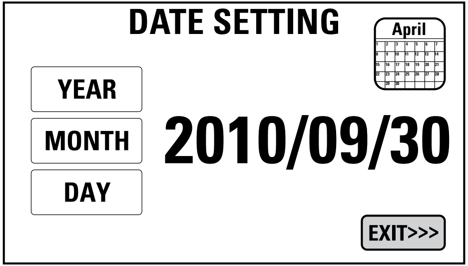


図 91

ディスプレイの背景の調整

この機能でユーザーはインストルメントパネルの ″背景″を選択することができます。
設定メニューに入ります。
ボタン(1)又は(2)を押して″BACKLIGHT″の文字を選択します。
機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン(4)を押します。
″BACKLIGHT″メニューに入ります。
左側の機能の入口に背景の設定可能なDAY, NIGHT, AUTOがリストアップされ、現在使用中のモードが強調表示されます。
ボタン(1)及び(2)を押すと希望のインストルメントパネルの背景のタイプを一つずつ強調表示することができます。ボタン(1)を押すと次のレベルが、ボタン(2)を押すと前のレベルが強調表示されます。
希望の背景のタイプを選択したらメニュー決定ボタン(4)を押し、決定します。
インストルメントはすぐにユーザーが選択した背景を有効にし、対応する文字を強調表示します。
DAY設定(日中のモード)を選択すると、ディスプレイの背景がよく見える″白″に代わります。外の光が強い時に推奨します。

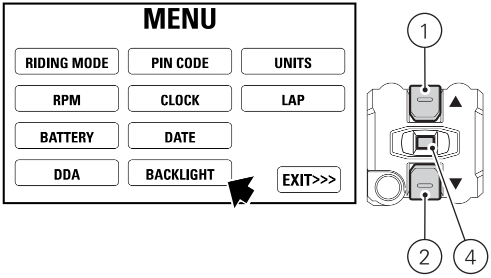


図 92

NIGHT 設定（夜のモード）を選択すると、ディスプレイの背景が和らげられた〝黒〟に代わります。外の光が弱い時又は暗い時に推奨します。
AUTO 設定（自動モード）を選択すると、ディスプレイの背景は外に光の強さに合わせて自動的に調整されます（センサーにより感知）。外の光が強い場合はディスプレイの背景は白になり、弱い場合は背景は黒になります。
メニューを終了して前の表示に戻るには、EXIT の文字を強調表示し、ボタン (4) を押します。

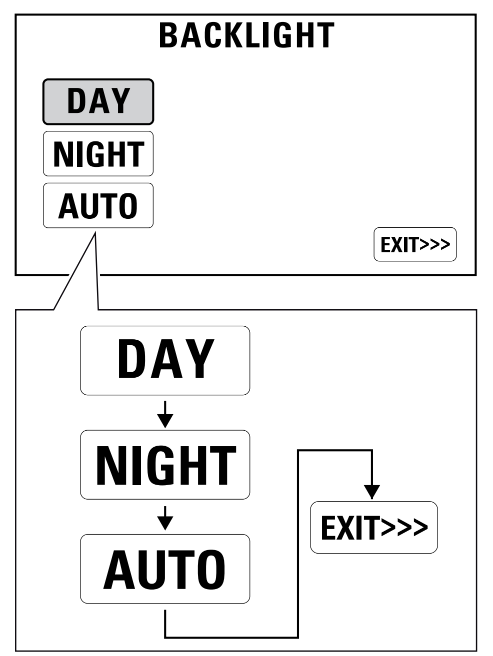


図 93

LAP

"LAP 登録 " メニューで前もってメモリーされた LAP（ 72 ページ、MENU 1 の機能参照）はディスプレイ上に表示することができます。表示可能な情報はラップタイム、最大回転数（rpm）、最高スピードです。さらに、メモリーされている LAP を削除することができます。

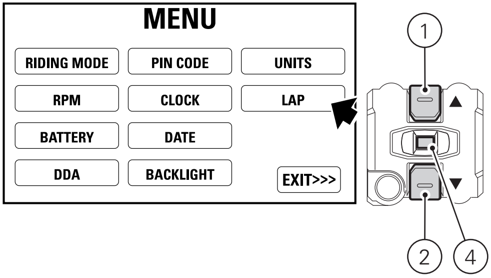


図 94

メモリーされている LAP の表示

メモリーされている LAP を表示するには設定メニューに入ります。
ボタン (1) 又は (2) を押して "LAP" の文字を選択します。
機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。
"LAP DATA" メニューに入ります。
機能の最初に以下の内容が表示されます。

- LAP の文字の後、LAP 数(例 : LAP 01)
- TIME の文字の後、記録されたラップタイム
- SPEEDMAX の文字の後、ラップ中に記録された最高スピード
- RPMMAX の文字の後、ラップ中に記録された最大 RPM

ボタン (1) 及び (2) を押すとメモリーされた LAP をひとつずつ強調表示することができます。特に以下のように表示されます。
ボタン (2) を押すと、次のラップが表示されます(LAP 01 ... LAP 02 ... LAP 03 ..... LAP 30 のようにラップを昇順で表示)。その後 EXIT の文字が表示されます。
ボタン (1) を押すと、前のラップが表示されます(LAP 30 ... LAP 29 ... LAP 28 ..... LAP 01 のようにラップを降順で表示)。その後 EXIT の文字が表示されます。
メニューを終了して前の表示に戻るには、EXIT の文字を強調表示し、ボタン (4) を押します。

参考
記録最高速度はディスプレイに表示されます (5% 増大させたもの)。

参考
メモリーにデータが記録されていない場合、ストップウォッチ "-.--.--"、最大回転数 MAX = ------、最高スピード MAX = ----- が表示されます。

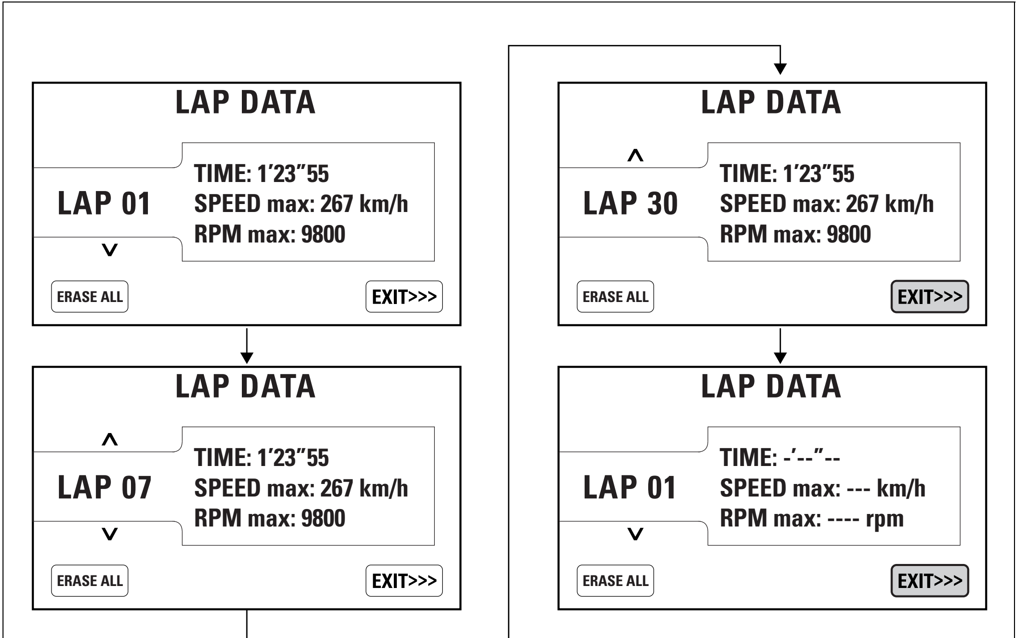

LAP DATA
LAP 01
TIME: 1’23”55
SPEED max: 267 km/h
RPM max: 9800
ERASE ALL
EXIT>>>
LAP DATA
LAP 07
TIME: 1’23”55
SPEED max: 267 km/h
RPM max: 9800
ERASE ALL
EXIT>>>
LAP DATA
LAP 30
TIME: 1’23”55
SPEED max: 267 km/h
RPM max: 9800
ERASE ALL
EXIT>>>
LAP DATA
LAP 01
TIME: -’--”--
SPEED max: --- km/h
RPM max: ---- rpm
ERASE ALL
EXIT>>>

図 95

メモリーされているLAPの削除

メモリーされている LAP を削除するには設定メニューに入ります。

ボタン (1) 又は (2) を押して "LAP" の文字を選択します。

機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。

メモリーされているLAPが表示される"LAP DATA" メニューに入ります。

ボタン (4) を押してERASE ALL強調表示します。

ボタン (4) を3秒間押して削除を決定します。3秒後インストルメントパネルはディスプレイに以下を表示します。

- 3秒間、erase LAP PLEASE WAIT... の文字。
- 2秒間、ERASE OK の文字。削除の結果を表示します。

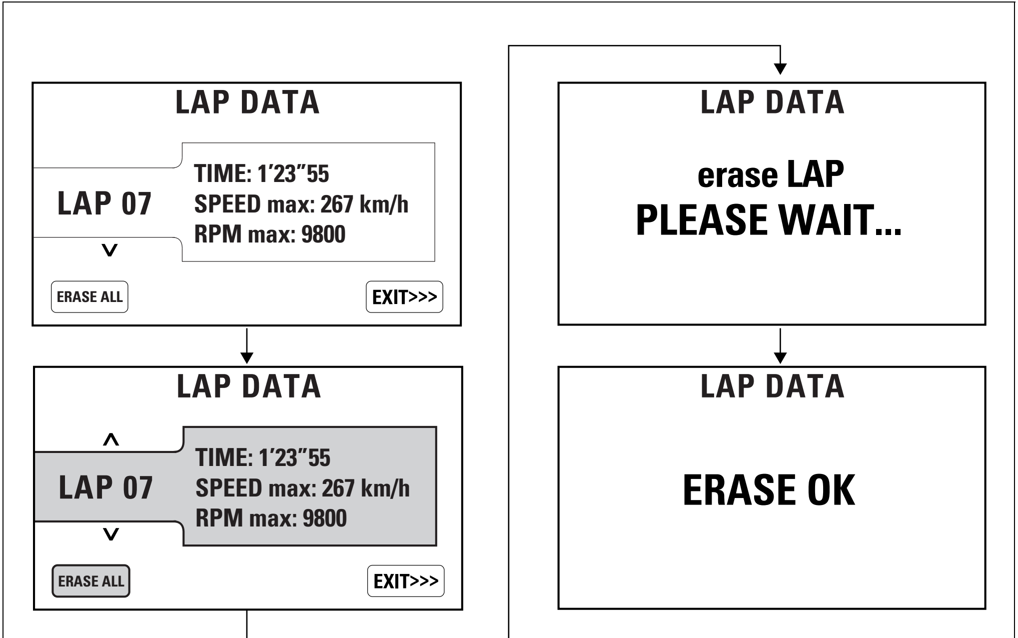

LAP DATA
LAP 07
TIME: 1'23"55
SPEED max: 267 km/h
RPM max: 9800
ERASE ALL
EXIT>>>
LAP DATA
LAP 07
TIME: 1'23"55
SPEED max: 267 km/h
RPM max: 9800
ERASE ALL
EXIT>>>
LAP DATA
erase LAP
PLEASE WAIT...
LAP DATA
ERASE OK

図 96

全てのメモリーされているラップが一度に削除されます。削除終了後、ラップの 01 から 30 のパラメーターは全て空白表示 ″–″ されます (ラップタイム = –’ – –’’ – – 、回転数 = – – – – – – 、スピード = – – –)。

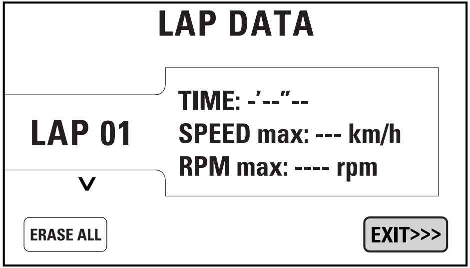


図 97

参考
メニューを終了して前の表示に戻るには、EXIT の文字を強調表示し、ボタン (4) を押します。

単位の設定

ここでは使用する国にかかわらず、表示される単位を変更することができます。
手動で単位の設定行うには、設定メニューに入ります。
ボタン (1) 又は (2) を押して "UNITS" の文字を選択します。
機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン (4) を押します。
"UNITS SETTING" メニューに入ります。
左側の機能の入口に設定可能な単位がリストアップされます
- スピード (SPEED)
- 温度 (TEMPERATURE)
- 燃費 (CONSUMPTION)
- 自動設定回復 (DEFAULT)

メニューを終了して前の表示に戻るには、EXIT の文字を強調表示し、ボタン (4) を押します。

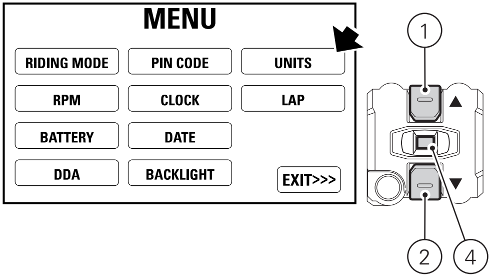


図 98

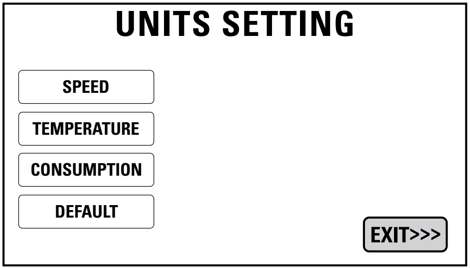


図 99

単位の設定：スピード

この機能はスピードの単位を変更することができます（従って走行距離の単位も変更します。）
前のページに書かれている通り"UNITS SETTING" メニューに入ります（"単位の設定"参照）。
ボタン（1）又は（2）を押して"SPEED" の文字を選択します。
機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン（4）を押します。
"SPEED" メニューに入ります。
機能の最初に現在使用している単位が表示され、その後使用可能な単位 km/h、mph がリストアップされます。
ボタン（1）及び（2）を押すと希望の単位を強調表示することができます。ボタン（1）を押すと次の単位が、ボタン（2）を押すと前の単位が強調表示されます。
希望の単位を選択した後メニュー決定ボタン（4）を押して決定します。選択した単位はメモリーされ、自動的に EXIT の文字が強調表示されます。
選択した単位はインストルメントパネルで以下の測定に使用されます。

- 車両スピード及び平均スピード（km/h 又は mph）
- オドメーター、Trip1、Trip2、Trip Fuel（km 又は mi）

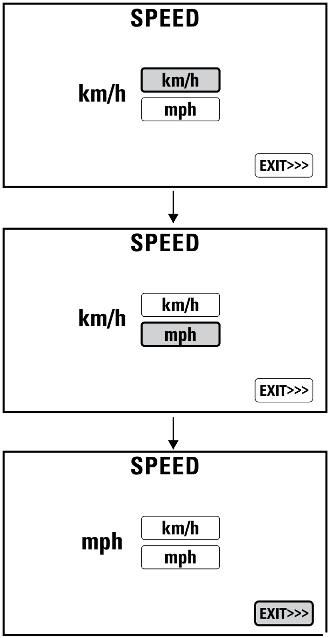


図 100

単位の設定：温度

この機能では温度の単位の変更が可能です。
前のページに書かれている通り ″UNITS SETTING″ メニューに入ります（″単位の設定″参照)。
ボタン（1）又は（2）を押して ″TEMPERATURE″ の文字を選択します。
機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン（4）を押します。
″TEMPERATURE″ メニューに入ります。
機能の最初に現在使用している単位が表示され、その後使用可能な単位° C 、° F がリストアップされます。
ボタン（1）及び（2）を押すと希望の単位を強調表示することができます。ボタン（1）を押すと次の単位が、ボタン（2）を押すと前の単位が強調表示されます。
希望の単位を選択した後メニュー決定ボタン（4）を押して決定します。選択した単位はメモリーされ、自動的に EXIT の文字が強調表示されます。
選択した単位はインストルメントパネルで以下の測定に使用されます。
- エンジンクーラント温度及び外気温。

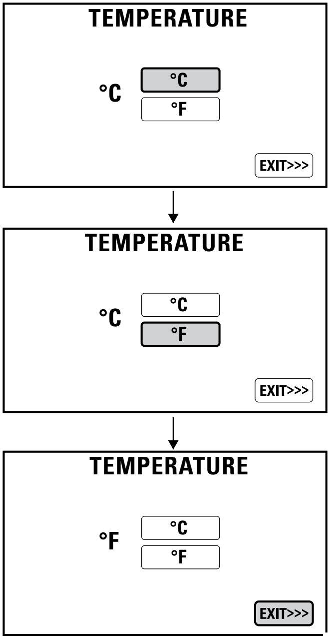


図 101

単位の設定：燃費

この機能では燃費の単位の変更が可能です。
前のページに書かれている通り "UNITS SETTING" メニューに入ります（" 単位の設定 " 参照）。
ボタン（1）又は（2）を押して "CONSUMPTION" の文字を選択します。
機能が強調表示されたら、メニュー決定ボタン（4）を押します。
"CONSUMPTION" メニューに入ります。
機能の最初に現在使用している単位が表示され、その後使用可能な単位 L / 100km、km / L、mpg（UK）、mpg（USA）がリストアップされます。
ボタン（1）及び（2）を押すと希望の単位を強調表示することができます。ボタン（1）を押すと次の単位が、ボタン（2）を押すと前の単位が強調表示されます。
希望の単位を選択した後メニュー決定ボタン（4）を押して決定します。選択した単位はメモリーされ、自動的に EXIT の文字が強調表示されます。
選択した単位はインストルメントパネルで以下の測定に使用されます。
- 瞬間燃費及び平均燃費。

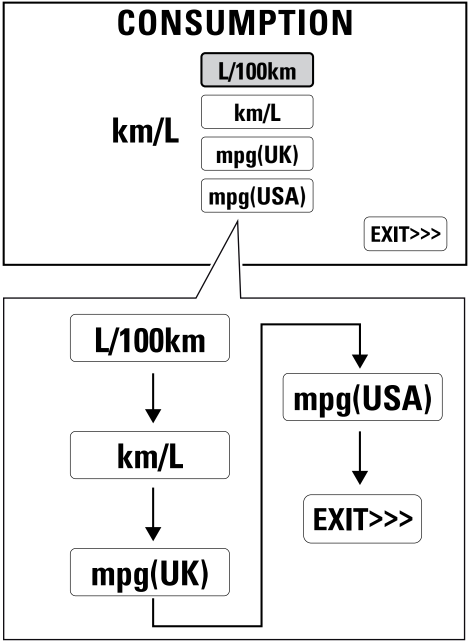


図 102

単位の設定：自動設定回復

この機能では、インストルメントパネルに表示される全ての測定値の単位の自動設定を回復することができます。
前のページに書かれている通り″UNITS SETTING″メニューに入ります（″単位の設定″参照）。
ボタン(1)又は(2)を押して″DEFAULT″の文字を選択します。
機能が強調表示されたら、3 秒間メニュー決定ボタン(4)を押します。
ディスプレイに 3 秒間 PLEASE WAIT... と表示され、その後 2 秒間 DEFAULT OK と表示されます。最後に EXIT の文字が強調表示され設定メニューのページが表示されます。メニューを終了して前の表示に戻るには、EXIT の文字を強調表示し、ボタン(4)を押します。

単位表

	オドメーター（TOT） トリップメーター１（TRIP1） トリップメーター２（TRIP2） 燃料リザーブトリップメーター（TRIP FUEL）	スピード 平均スピード	エンジン温度（T_ENGINE） 外気温（T_AIR）	瞬間燃費 平均燃費
ヨーロッパ	km	km/h	° C	l/100km
UK	mi （マイル）	mph	° C	mpg UK
USA	mi （マイル）	mph	° F	mgp USA
カナダ	km	km/h	° C	l/100km
フランス	km	km/h	° C	l/100km
日本	km	km/h	° C	l/100km
ブラジル	km	km/h	° C	l/100km
台湾	km	km/h	° C	l/100km
中国	km	km/h	° C	l/100km

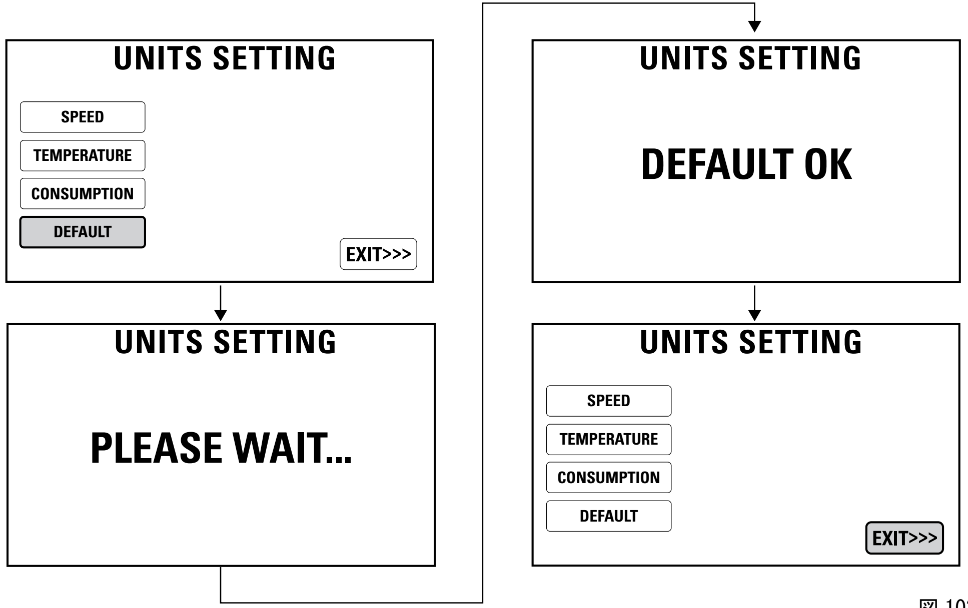

UNITS SETTING
SPEED
TEMPERATURE
CONSUMPTION
DEFAULT
EXIT>>>
UNITS SETTING
PLEASE WAIT...
UNITS SETTING
DEFAULT OK
UNITS SETTING
SPEED
TEMPERATURE
CONSUMPTION
DEFAULT
EXIT>>>

図 103

その他の機能

UP-MAP

この機能は Performance エキゾーストキット（部品番号：96450211B） 及び Performance サイレンサーキット（部品番号：96450311B）を取り付ける際、UP-MAP 装置（キー）からエンジンコントロールユニットに Performance 設定のダウンロード中にインターフェースとして使用します。

参考
Performance エキゾーストキット（ 部品番号 96450211B） - Performance サイレンサーキット（部品番号 96450311B）はディーラー又は Ducati サービスセンターでお求めいただけます。

警告
Performance エキゾーストキット（ 部品番号 96450211B） - Performance サイレンサーキット（部品番号 96450311B） の取り付けはディーラー又は Ducati サービスセンターに依頼してください。

装置は Key-ON 及びエンジン停止の状態で使用することができます。UP-MAP 装置が車両に接続されると、上記の状態であるか確認し、全て確認されると UP-MAP、エンジンコントロールユニット及びインストルメントパネル間の交信が始まります。

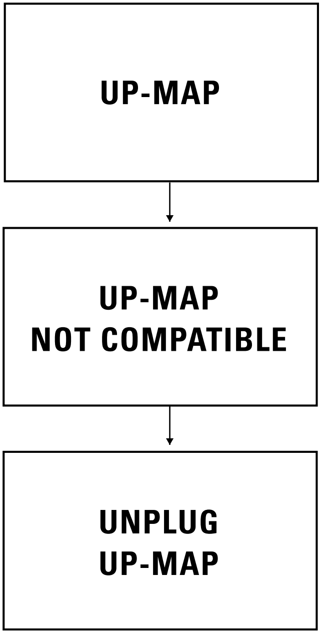


図 104

システムにUP-MAP装置が搭載されていると、ディスプレイに"UP-MAP"の文字が表示されます。

装置の認証に失敗するとUP-MAP NOT COMPATIBLEの文字が3秒間表示され、その後UNPLUG UP-MAPの表示が表れます。車両から装置の接続を切り離してください。

ダウンロードが可能な場合は、RACING の文字(Performance サイレンサーキットを取り付ける場合）又はRACING EVOの文字（Performanceエキゾーストユニットキットを取り付ける場合）が表示されます。
その後、DOWNLOADの表示が表れ、最後にOKボタンが表示されます。
ボタン（4）を押して表示された設定のダウンロードを許可します。

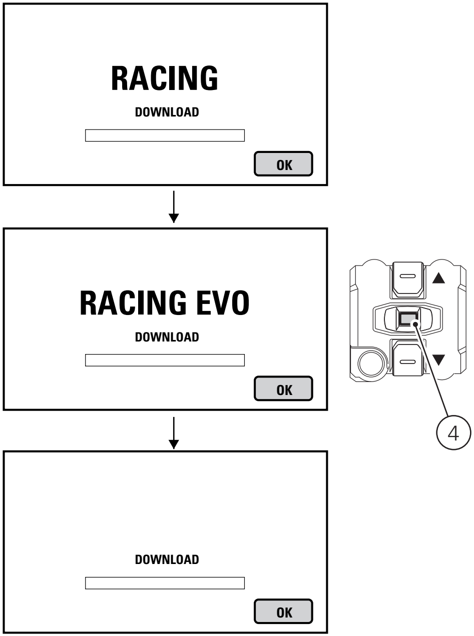


図 105

ダウンロードができずダウンロードしようとしている設定がすでにコントロールユニットに登録されている場合、MAP ALREADY PRESENT の文字及び EXIT ボタンが表示されます。ボタン（4）を押して終了します。ボタン（4）を押した後、又はボタン（4）を押さずに 10 秒たつと、UNPLUG UP-MAP の表示が表れます。車両から装置の接続を切り離してください。

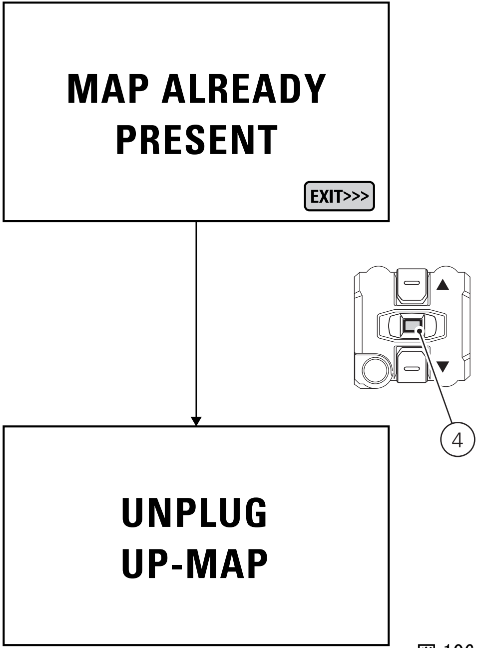


図 106

ダウロード中、ディスプレイに RACING の文字(Performance サイレンサーキットの設定）又はRACING EVOの文字(Performanceエキゾーストユニットキットの設定)、及びDOWNLOAD IN PROGRESS、ダウンロードの進行状況を示すバーが表示されます（およそ5秒かかります)。

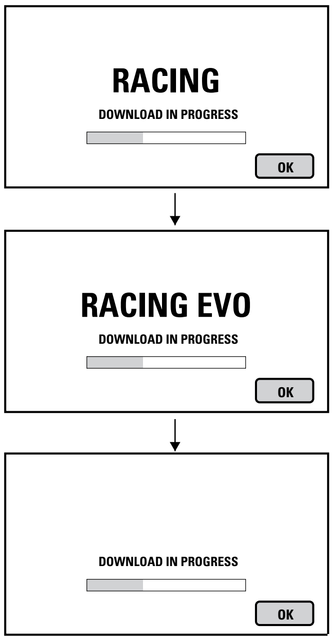


図 107

ダウンロードが終了すると、RACING　　の文字(Performance　サイレンサーキットの設定）又はRACING EVOの文字(Performanceエキゾーストユニットキットの設定)、及びCOMPLETED、ダウンロードが終了したことを示すバーが3秒間表示されます。

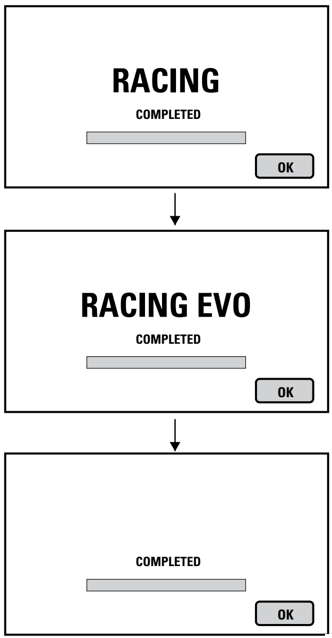


図 108

3 秒後すべて正常に終了すると、ディスプレイ上にUNPLUG UP-MAP の表示が表れます。車両から装置の接続を切り離してください。
UNPLUG UP-MAP の表示は車両から UP-MAP 装置の接続が切り離されるまで消えません。UP-MAP 装置の接続が車両から切り離されると、ディスプレイ上にPLEASE WAIT ... の文字が 3 秒間表示され、その後 " スタンダードスクリーン " が表れます。

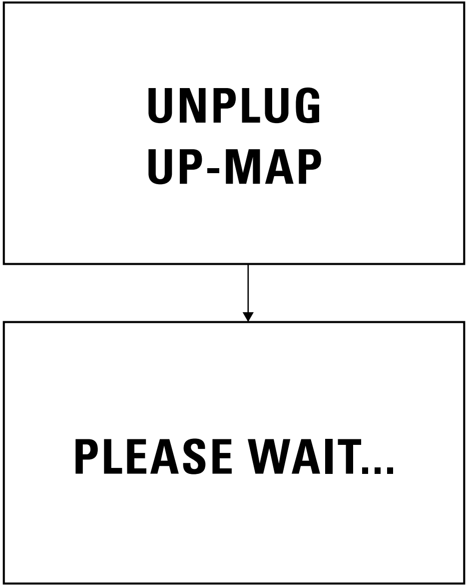


図 109

UP-MAP 装置の不具合が検出されたりダウンロードが正常に行われなかったりすると、インストルメントパネルはディスプレイに DOWNLOAD ABORTED の文字を 3 秒間表示し、その後 UNPLUG UP-MAP の表示が表れます。

参考
設定ダウンロードの作業が終了する前に車両が key-off されたり、UP-MAP 装置の接続が切り離された場合、ダウンロードは無効になります。

参考
車両にUP-MAP装置が接続している状態では車両は起動できません。UP-MAP が接続している状態で車両を使用することができません。

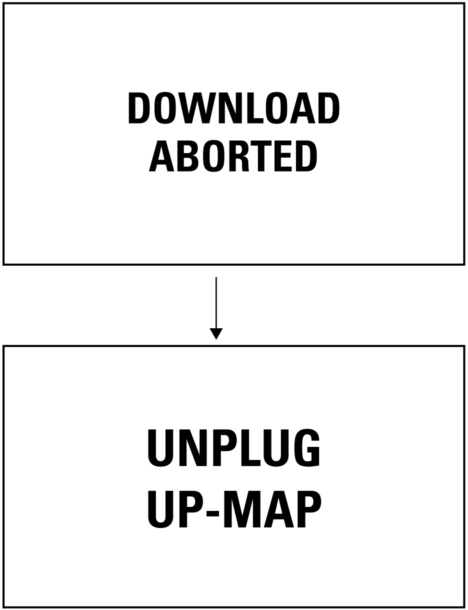


図 110

ディスプレイの背景色

インストルメントパネルは外の光の強さによってディスプレイの背景色を自動的に調整することができます。
BACKLIGHT – AUTO機能が起動している場合、センサーが "弱い光"（夜）を検出するとインストルメントパネルは背景を黒（NIGHT）にし、反対に "強い" 光（昼）を検出すると背景を白（DAY）にします。

設定メニューからこの機能をパーソナライズすることができます。"BACKLIGHT"機能を選択し、"BACKLIGHT"メニューに入ります。
- 常にNIGHT又はDAYモードのうち一つに設定するか
- 自動表示モード AUTO に設定します。

（" ディスプレイの背景の設定 "）の章を参照してください。

参考

電力が 16 V を超えるとバックライトが解除され、8 V 未満の場合はバックライトの電源が消えます。

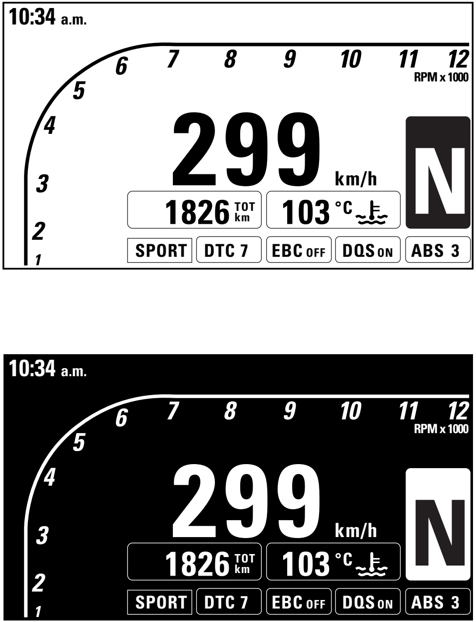


図 111

ランプコントロール

ロービーム / ハイビームランプ

ヘッドランプの点灯及び消灯を調整し、バッテリーの消費量を抑えます。

key-on 時、ロービーム及びハイビームランプは消灯 (off) のままで、ポジションランプのみが点灯します。
エンジンを起動するとロービームランプが起動します。エンジンが起動している状態でランプの標準的な機能が回復します。ポジション A のボタン 1(図 112) 又はポジション B のボタン 1(図 112) でフラッシュすることによりロービームからハイビーム又はその逆に切り替えることができます。

key-on 時エンジンが起動されない場合でも左のスイッチのポジション A のボタン 1(図 112) を押すことでロービーム / ハイビームランプを起動することができます。ボタンを 1 回押すとまずロービームランプが起動し、その後 1 回押すごとにロービームランプとハイビームランプが交互に切り替わります。最初にボタンを押してから 60 秒以内にエンジンを起動しないと、ロービーム及びハイビームランプは再度停止します (off)。

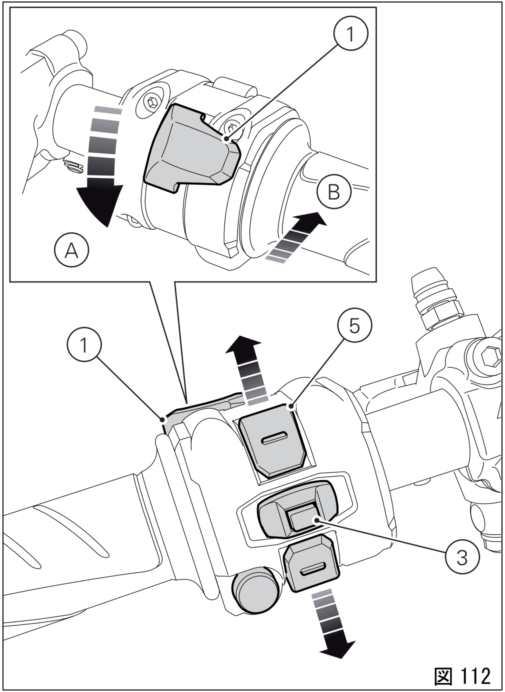


図 112

エンジンを起動する前に（上記の方法で）ロービーム又はハイビームランプを点灯させた場合、エンジンを起動する際ヘッドランプが自動的に消灯し、エンジンが完全に起動してから再点灯します。

ターンインジケーター

インストルメントパネルはターンインジケーターの自動リターンを行います。
2つのうち、どちらかのターンインジケーターを点けた後、左側スイッチにあるボタン（3、図112）で解除することができます。
ターンインジケーターコマンドの手動リセットが行われなかった場合、起動されてから500 m（0.3マイル）走行すると インストルメントパネルは自動的にターンインジケーターを停止します。自動解除の際、走行距離のカウントは80 km/h（50 mph）以下でのみ行なわれます。
走行距離カウントは自動解除が完了した後、80 km/h（50 mph）以上で可能です。また、前述の速度を下回った場合、カウントは解除され、再開します。

パーキング機能

パーキング機能で 車両停止の際、駐車が目立つように、フロント / リアパーキングランプを点灯することができます。
車両停止後 (key-off 後)60 秒以内に、ボタン (5、図 112) を 3 秒間押すと設定が可能です。
機能起動後、PARKING のアイコンがディスプレイ上に 3 秒間表示され、バッテリー電圧が 11.7 V≥(以上) になるまで点灯したままになります。バッテリー電圧が >11.7 V (以上) になると省エネのためランプは自動的に消灯します 。

機能を中止するには、車両を起動 (key-on) 及び停止 (key-off) する必要があります。

参考
機能作動中に突然バッテリーが無くなるなどの理由で電源が遮断された場合、電源をリセットするため、インストルメントパネルは機能を停止します。

参考
この機能を頻繁に使うことで、バッテリーの消耗が著しくなります。ドゥカティ社は必要な場合のみこの機能を使用することを推奨します

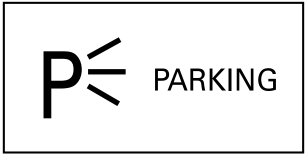


図 113

イモビライザーシステム

この車両には電子制御でエンジンをブロックする盗難防止システム（イモビライザー）が搭載されています。イモビライザーは、毎回エンジンを停止する度に自動的に作動します。
各キーのボディにはトランスポンダーが内蔵されています。トランスポンダーからの信号は、イグニッションスイッチ部に組み込まれたアンテナを介してコントロールユニットに送られます。この信号はパスワードの役割を果たし、イグニッションキーがスイッチに差し込まれる度に変更し、CPU がその〝パスワード〟によってキーを認識した時にのみエンジンが始動します。

キー（図 114）

バイクは 2 本のキーと一緒に納品されます。
キーには〝イモビライザーシステムコード〟が内蔵されています。
キー（B）は通常のイグニッションキーで、以下の場合に使用されます：
- エンジンの始動
- フューエルプラグの開閉
- シートロックの解除

警告

通常は 2 本のキーの内の 1 本のみを使用するようにしてください。

作業

イグニッションキーをONからOFFの位置に回す度に、システムはエンジンブロックを作動します。この方法でもまだブロックが解除されない場合は、Ducati サービスセンターに御連絡下さい。

警告

キーに強い衝撃を与えると内蔵された電子部品が破損しますので注意してください。
作業中は常に同じキーの内のみを使用してください。違うキーを使用すると、システムのコード承認の妨げになる場合があります。

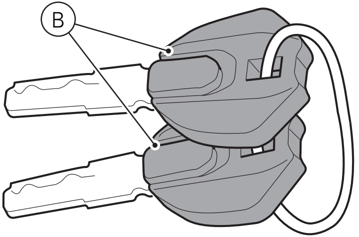


図 114

キーの複製

追加のキーが必要な場合は、お持ちのキー全てを持って Ducati サービスセンターにご依頼下さい。
Ducati サービスセンターは新しいキー、およびお手持ちのキーを再プログラミングします。
Ducati アシスタントサービスは、お客様が車両のオーナーである証明の提示を求めることがありますので、必要書類をご持参下さい。
この作業時に再メモリーされなかったキーのメモリーは削除されて無効となるため、エンジンを始動する為に使用することはできません。

参考

オーナー変更の際、全てのキーを新しいオーナーに譲り渡されなければなりません。

PIN CODE による車両ブロックの解除

キー認識システムの不具合、又は、キーの不具合の場合、車両ブロックの一時解除のため PIN コードの入力ができるようになります。PIN CODE 機能が有効でない場合、インストルメントパネルにブロック解除コード入力ページが開かれず、スタンダードスクリーンを表示し、E-Lock エラーでキー読み取り / 識別エラーがあることをユーザーに知らせ、設定メニューに入ることができなくなります。
次の key-off まで E-Lock エラーが表示されます。

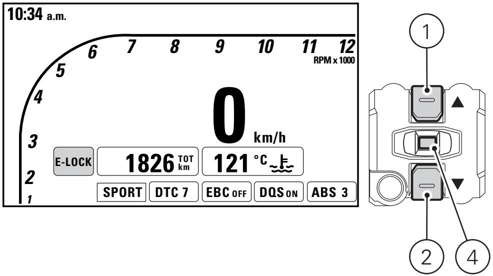


図 115

PIN CODE 機能が起動している場合、インストルメントパネルはブロック解除のコード入力ページを表示し、INSERT PIN CODE の文字、その下に緑色で強調表示された 4 本のハイフン "– – – –" が表示されます。

コードの入力：
1) ボタン (4) を押します。
2) "0" で表示される 1 桁のみが緑色に強調表示されます。
3) ボタン (2) を押す度に数字が 1 から 9 までひとつずつ大きくなり、その後 "0" に戻ります。
4) ボタン A (1) を押す度に数字が 1 までひとつずつ小さくなり、その後 "0" に戻ります。
5) ボタン (4) を押して数字を決定します。
6) 2) – 5) の手順を繰り返し、PIN CODE の全ての 4 ケタの数字を決定します。

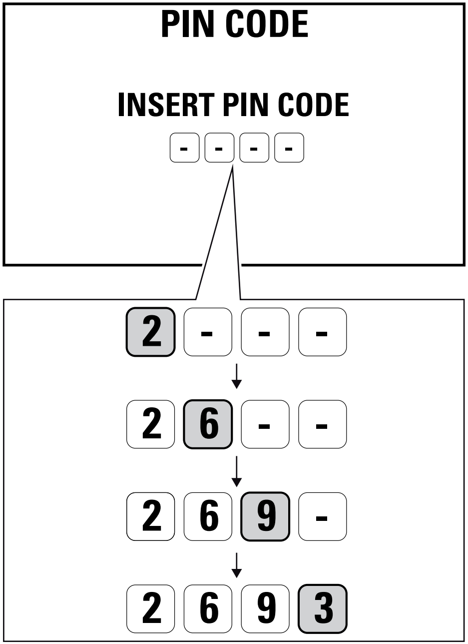


図 116

ボタン (4) を押して 4 ケタすべての数字を決定した後、
- PIN CODE が正しくないい場合、インストルメントパネルは 3 秒間 WRONG の文字を表示し、再度点線 ″- - - -″ を強調します。もう一度 PIN CODE を入力してください。入力可能時間は 2 分間に設定してあります。この時間を過ぎるとインストルメントパネルはスタンダードスクリーンに代わり、E-Lock エラーを起動し、設定メニューに入ることができなくなります。
- PIN CODE の確認に問題が発生した場合、インストルメントパネルは 3 秒間 ERROR を表示し、WRONG の場合と同様に作動します。
- PIN コードが正しい場合、インストルメントパネルは 3 秒間 CORRECT を表示し、その後 ″スタンダードスクリーン″ に代わり、E-Lock エラーを起動し、ユーザーにキーの読み取り / 識別に問題があることを通知します。

参考
起動のため、上記のプロセスをふまなければならないときは、早めに Ducati サービスセンターまでお問い合わせ下さい。

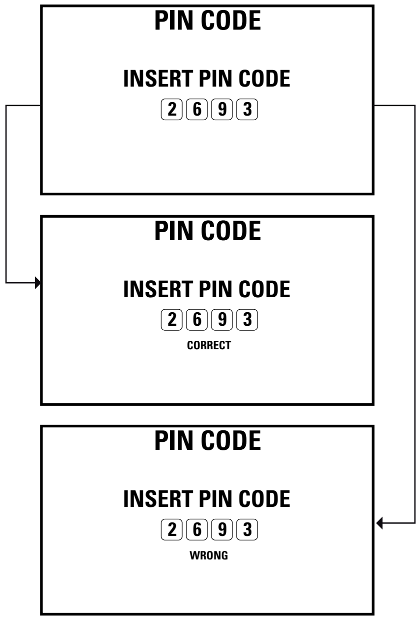


図 117

運転時に必要なコマンド

警告
この章では車両を運転する上で必要な全てのコマンド機能と配置を詳しく説明しています。コマンドを使用する前によくお読み下さい。

コマンド類の配置（図 118)

1) インストルメントパネル
2) 左側スイッチ
3) クラッチコントロールレバー
4) リアブレーキペダル
5) 右側スイッチ
6) スロットルグリップ
7) フロントブレーキレバー
8) ギアチェンジペダル

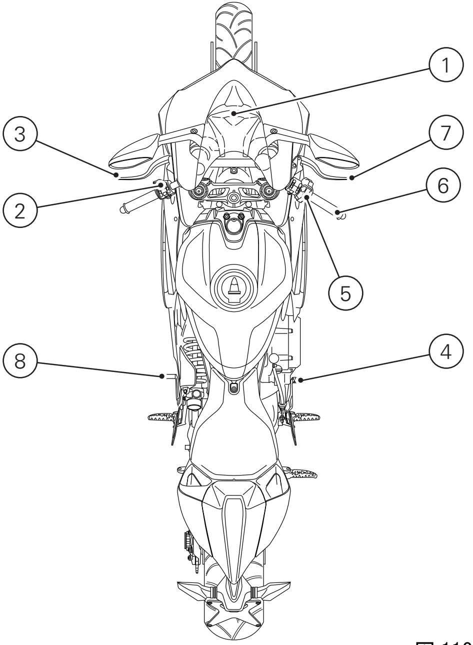


図 118

イグニッションスイッチ / ステアリングロック（図 119）

燃料タンクの前にあり、4 つのポジションがあります：

A） ON：エンジンおよびランプを ON にする
B） OFF：エンジンおよびランプを OFF にする
C） LOCK：ステアリングロック状態
D） P：パーキングランプ点灯、ステアリングロック状態

参考

キーを最後の2つのポジションにするには、キーを押してから回して下さい。(B)、(C)、(D) の位置ではキーを引き抜くことができます。

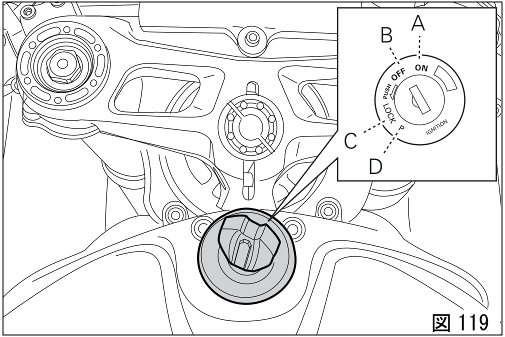


図 119

左側スイッチ （図 120）

1) ディマースイッチ、ビームの選択、2 ポジション（図 120） (A) 下方向に押すたびにロービームライト点灯 ≣D からロービームライト及びハイビームライト点灯 ≣D への信号が伝わります。(B) 水平に押した場合 ≣D = ハイビーム点滅(FLASH)、"Start-Stop lap" 表示。

2) ボタン ⇦⇨ = ターンインジケーター、3 ポジション（図 120）中央 ＝ OFF
ポジション ⇦ = 左折
ポジション ⇨ = 右折

3) ターンインジケーター停止ボタン、Riding mode 起動とメニュー操作

4) ボタン＝ 警告ホーン

5) メニュー操作ボタン、ディスプレイスクロールと TRIP1 と TRIP2 機能のリセット。

6) メニュー操作ボタン、ディスプレイスクロール。

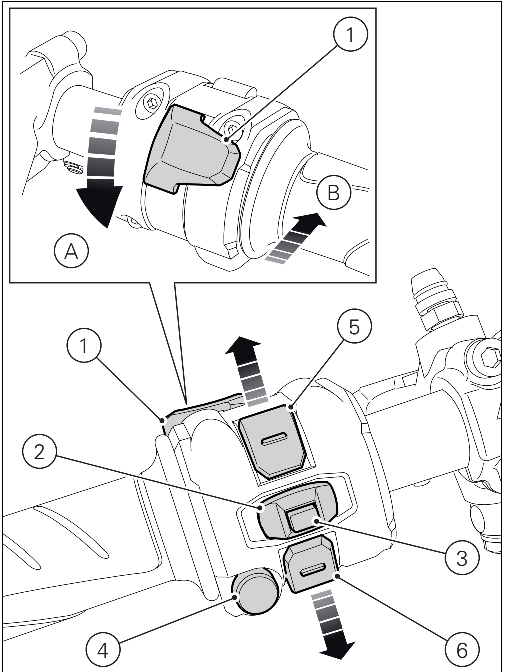


図 120

クラッチレバー（図 121）

レバー (1) でクラッチの接続を操作します。
この機種にはアジャスター(2) がついており、レバーとハンドルバー上のハンドル間の調整が可能です。
レバーの間隔はアジャスター(2) の 10 クリックで調整できます。時計回りに回すとレバーはスロットルグリップから離れます。アジャスターを反時計回りに回すと近づきます。
レバー (1) を操作すると、エンジンの回転がトランスミッションおよび駆動輪に伝わらなくなります。
クラッチの適切な操作は、スムーズなライディング、特に発進時に重要です。

警告

クラッチ及びブレーキレバーの調整は、停車時に行います。

重要

クラッチレバーを正しく操作することで、トランスミッションの損傷を避け、車両の寿命を延ばすことができます。

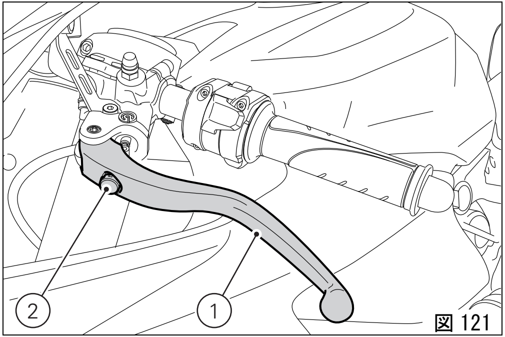


図 121

参考

サイドスタンドを下ろし、ギアがニュートラルの状態でエンジンを始動させることができます。また、ギアが入った状態で始動する時は、クラッチレバーを引いて下さい（ この場合サイドスタンドは下ろしません）。

右側スイッチ（図 123）

1）赤スイッチ　ON/OFF
2）黒ボタン　エンジン始動

スイッチ（1）は 3 ポジションあります。

A）中央：RUN OFF このポジションではエンジンの起動は不可、全てのエレクトリックデバイスは停止します。
B）下部に押した場合　：起動 / 停止 このポジションでシステムの起動（key-on）と停止（key-off）が可能です。
C）上部に押した場合：RUN ON このポジションのみで、黒ボタン（2）を押しながら、エンジンの起動が可能です。

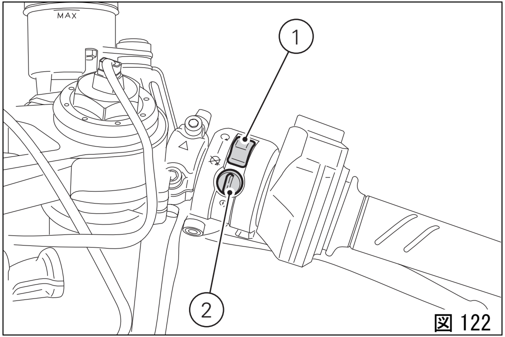


図 122

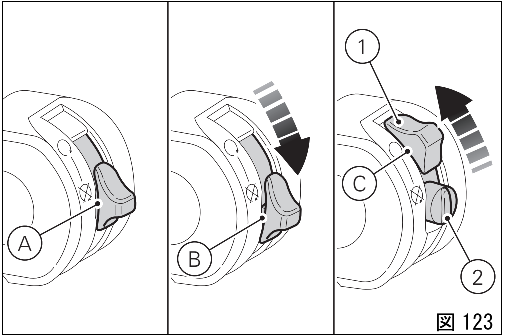


図 123

スロットルグリップ（図 124)

ハンドルバー右側のスロットルグリップ（1、図 124）は、スロットルボディの開閉を操作します。グリップを緩めると、自動的に元の位置（ アイドリング状態 ）に戻ります。

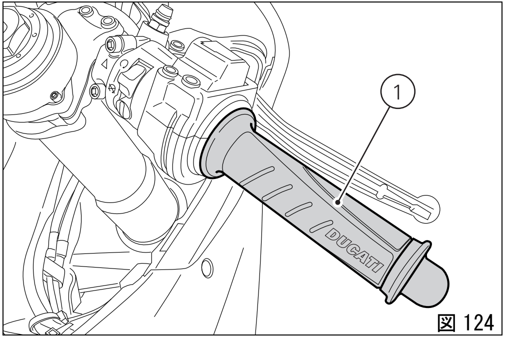


図 124

フロントブレーキレバー（図 125)

レバー（1、図 125）をスロットルグリップの方向へ引くと、フロントブレーキがかかります。このレバーは油圧で作動するため、軽く握るだけで作動します。コントロールレバー（1、図 125）にはつまみ（2、図 125）がついており、レバーとグリップとの間隔が調整できるようになっています。
レバーの間隔はアジャスター（2、図 125）の 10 クリックで調整できます。時計回りに回すとレバーはスロットルグリップから離れます。アジャスターを反時計回りに回すと近づきます。

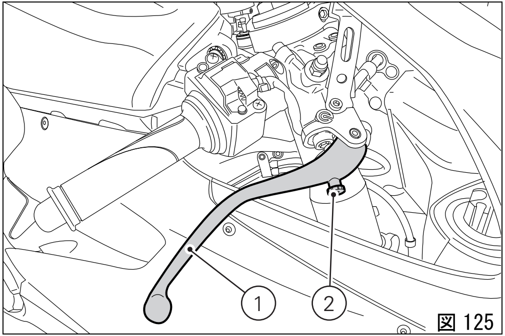


図 125

リアブレーキコントロールペダル（図 126)

ペダル（1、図 126）を下に踏むことで、リアブレーキが機能します。
システムは油圧式で作動します。

ギアチェンジペダル（図 127)

ギアチェンジペダル（1、図 127）は中央のニュートラルのポジション N に自動的に戻ります。ニュートラルポジションであることはインストルメントパネル上の N ランプ (2、図 4) で表示されます。
ペダルは以下のように動かせます：
下へ＝シフトダウンおよび 1 速へのチェンジは、ペダルを下に押します。この時、インストルメントパネルの N ランプが消えます。
上へ＝ペダルを上へ上げることで、2 速から順次 3、4、5、6 速へとチェンジします。
一回の操作が一速分のチェンジに相当します。

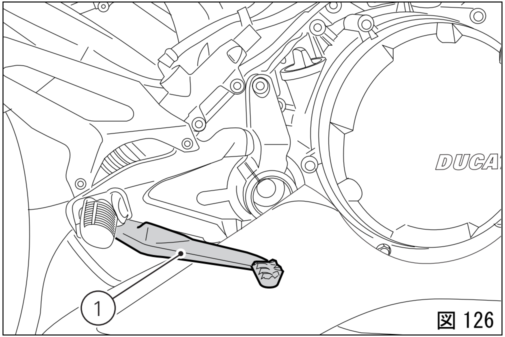


図 126

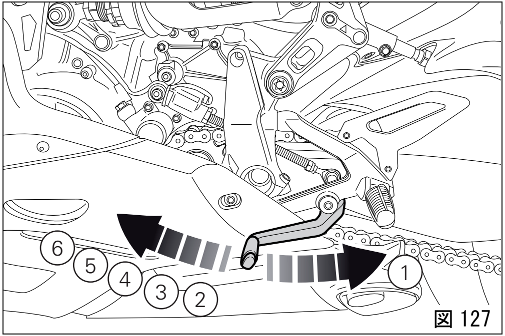


図 127

ギアチェンジペダルとリアブレーキペダルの配置調整

ギアチェンジペダルとリアブレーキペダルのポジションは、ライダーのライディングスタイルとフットペグの位置に合わせて調整することができます。
これらの調整は以下の手順で行ってください：

ギアチェンジペダル

ロッド（1）を固定しながら、ナット（2）と（3）を緩めます。

参考

ナット（2）は、逆ネジになっています。

ギアチェンジペダルを好みの位置に定めながら、レンチでロッド（1）の六角部分を回します。
ロッドに対して両ロックナットを締め付けます。

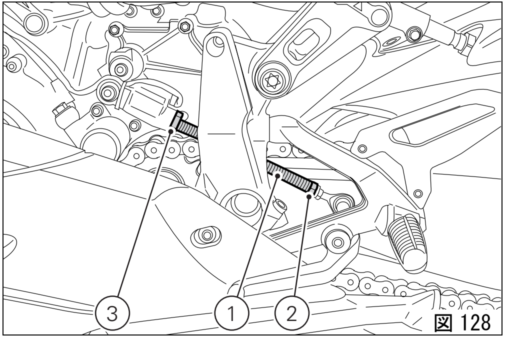


図 128

リアブレーキコントロールペダル（図129）

ナット(7)を緩めます。
ペダルが好みの位置になるまで、調整スクリュー(6)を回します。
ロックナット(7)を締め付けます。
ペダル(8)を手で押しながら、ブレーキがかかり始めるまでに約1.5～2 mmの遊びがあるかを確認します。
上記のような遊びが確認できない場合は、マスターシリンダーのロッドの長さを調整します。

⚠ 警告
ペダルの調整はDucatiディーラーまたはサービスセンターで実施して下さい。

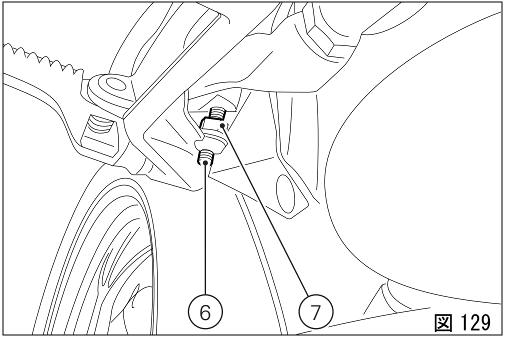


図 129

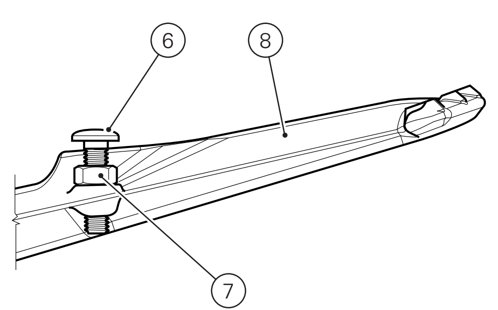


図 130

主要構成部品 / 装備

車両上の配置（図 131）

1) フィラープラグ
2) シートロック
3) サイドスタンド
4) リアビューミラー
5) フロントフォークアジャスター
6) リアショックアブソーバーアジャスター
7) 触媒システム（両側）
8) エキゾーストサイレンサー（両側）(198 ページ "注意事項" 参照）

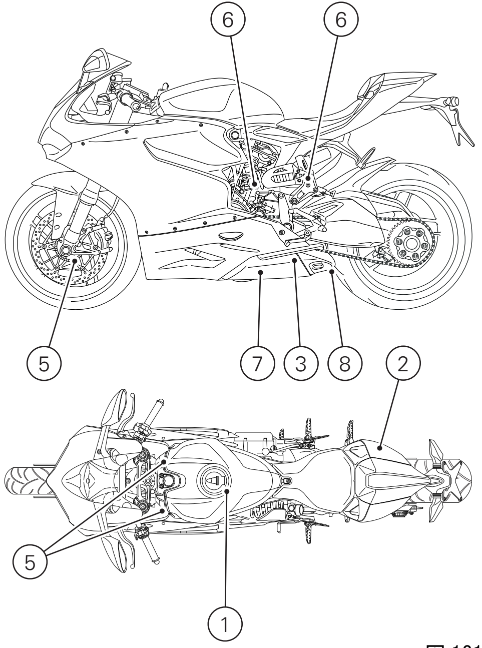


図 131

燃料フィラープラグ

開け方
プラグの保護カバー（1、図 132）を持ち上げ、イグニッションキーを差し込み、キーを時計回りに 1/4 回転してロックを解除します。
プラグ（2、図 133）を起こします。

閉じ方
キーの差し込まれたプラグ（2、図 133）で押しながら閉じてください。キーを抜き取り、プラグの保護カバー（1、図 132）を閉じます。

参考
プラグはキーが差し込まれていないと閉まりません。

警告
燃料補給（199 ページ参照）後は毎回､プラグが正しい位置で確実に閉まっていることを確かめて下さい。

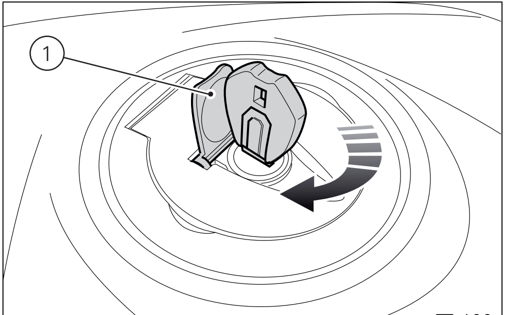


図 132

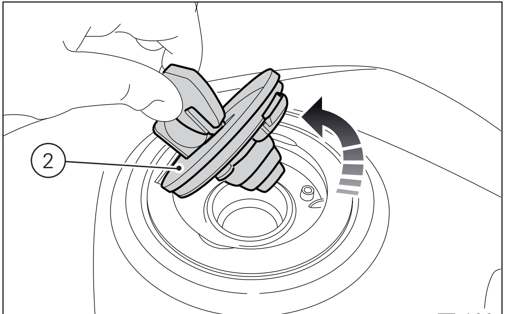


図 133

シートロック

開け方（図 134）

鍵穴（1）にキーを差し込み、クリックと言う音が聞こえるまで回します。
シートカバー（2）を車両の前方に抜き取ります。

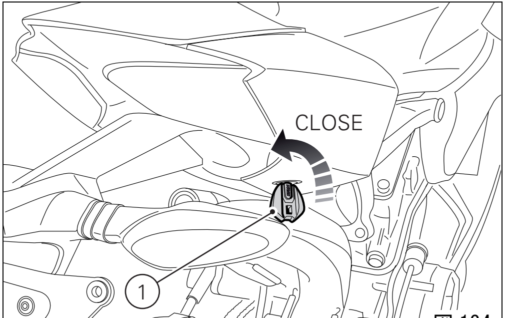


図 134

閉じ方（図 135）

シート側からシートカバー（2）を挿入し、カバーを車両の後方に奥までスライドさせます。

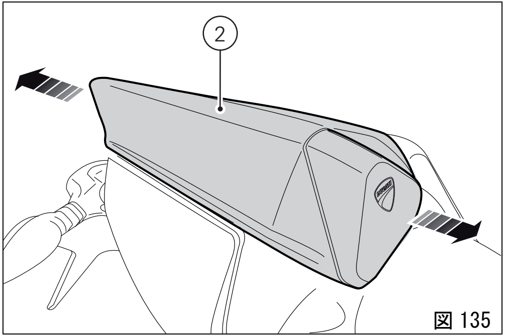


図 135

サイドスタンド（図 136）

重要
サイドスタンドを使用する前に、地面が適しているか、平らであるかを確かめて下さい。

柔らかい地面、砂利、日光で柔らかくなったアスファルト等にパーキングすると、車両転倒の原因となります。
傾斜面に停車する場合は、常にリアホイールが斜面の低い側になるようにして下さい。
サイドスタンドを使用するには、ハンドルバーを両手で掴み、車体を支えながら、スタンドのフック（1）を足でいっぱいに押します。次に、スタンドがしっかりと路面に着くまで、車体を徐々に傾けていきます。

警告
サイドスタンド使用時には、車両にまたがらないで下さい。

サイドスタンドを元の位置（水平位置）に戻すには、車両を右側に傾けながら、足でスタンドのアーム（1）を持ち上げます。

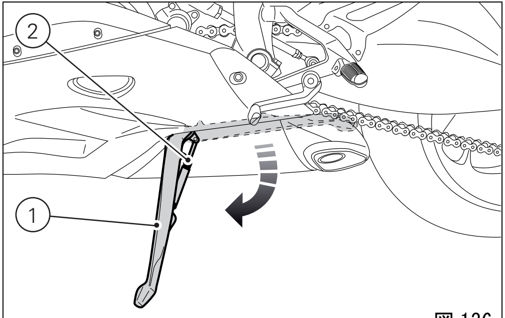


図 136

参考
定期的にスタンド（内側と外側 2 つのスプリングの状態）と安全センサー（2）の作動を点検することをお勧めします。

参考
スタンドが開き、ギアがニュートラルの状態でエンジンを始動させることができます。ギアが入った状態で始動する時は、クラッチレバーを引いて下さい（この際サイドスタンドは閉じていなければなりません）。

ステアリングダンパー (図 137)

燃料タンク前部にあり、フレームとステアリングヘッドに固定されています。
このダンパーのお陰でステアリングはより正確で安定し、あらゆるコンディションでの操縦性がアップしました。。

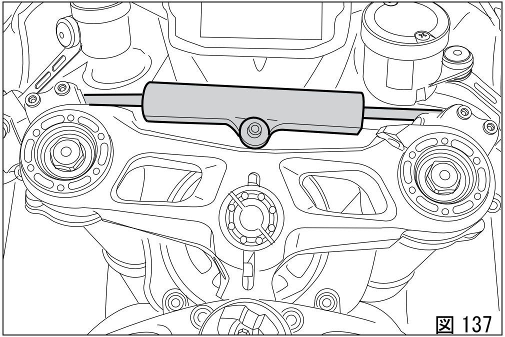


図 137

フロントフォーク調整

車両のフォークは、リバウンド / コンプレッションダンピング、およびスプリングプリロードの調整が可能です。
調整はアジャスターを使用して行います。
1) 油圧ブレーキのリバウンドダンピングの変更 （図 138)
2) 内部スプリングプリロードの変更 (図 138)
3) 油圧ブレーキのコンプレッションダンピングの変更（ 図 139)

車両をサイドスタンドに安定した状態で停車させます。
マイナスドライバーでそれぞれのフォークレッグの先端にあるアジャスター（1、図 138) を
回転させ、油圧ブレーキのリバウンドダンピングを調整します。
マイナスドライバーでそれぞれのレッグのフォークレッグにあるアジャスター（3, 図 139) を
回転させ、油圧ブレーキのコンプレッションダンピングを調整します。
調整スクリュー（1 及び 3）を回転させてダンピングを調整します。ブロックするまで完全に締めると、ダンピングが最大になるポジション"0" になります。この位置から反時計周りに回し回転数を数えることができます。

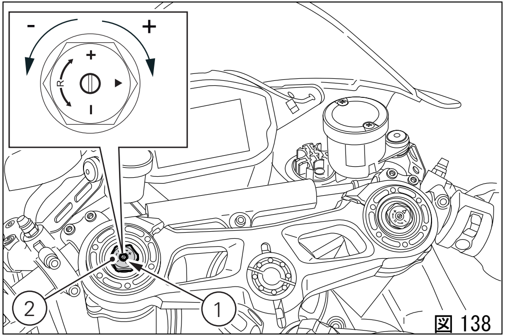


図 138

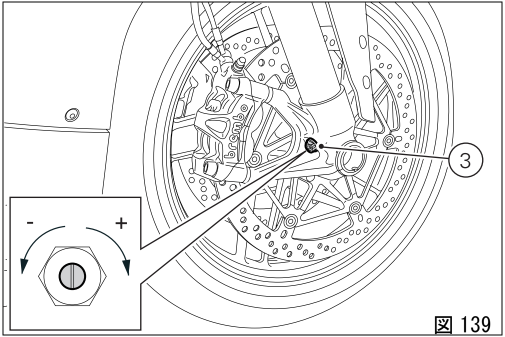


図 139

それぞれのレッグの内部スプリングプリロードを変更調整するには、すべて開いた位置から六角形のアジャスター(2、図 138) を 22mm の六角レンチで回転させます (時計回り)。
すべて閉じた状態からの通常の調整は以下のように行います。
コンプレッションダンピング:
すべて閉じた状態から 10 クリック
リバウンドダンピング:
すべて閉じた状態から 10 クリック
スプリングプリロード:すべて開く(反時計回り)
6 mm

⚠ 重要

同じポジションの両方のレッグのアジャスターを調整します。

リアショックアブソーバー調節

リアショックアブソーバーは荷重に合わせてバランスを調整できるよう外部アジャスターを装備しています。
クランクケースにフロントショックアブソーバーを固定している位置にあるアジャスター (1、図 140) は、油圧ブレーキのリバウンド（リターン）を調整します。
ショックアブソーバーの拡張タンクにあるアジャスター (2) は、油圧ブレーキのコンプレッションダンピングを調整します。

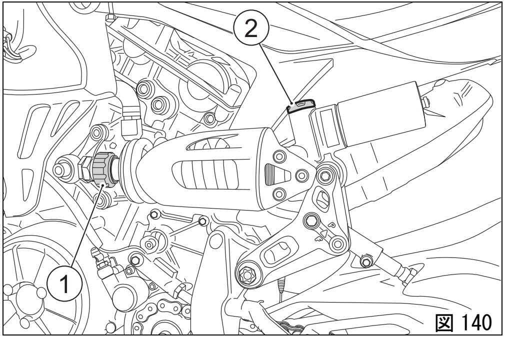


図 140

リングナット（3）はショックアブソーバーの外部スプリングのプリロードを調整します。
スプリングプリロードを変更するには、上部固定リングナットを緩めます。締めたり緩めたりすることで、下部リングナットはプリロードを増大させたり減少させたりします。
希望のプリロードに調整したら、上部固定リングナットを締め付けます。
STANDARD 調整：すべて閉じた状態から（時計回り）
コンプレッションダンピング：すべて閉じた状態から 10 クリック緩めます
リバウンド：すべて閉じた状態から 10 クリック緩めます
スプリングプリロード：12mm

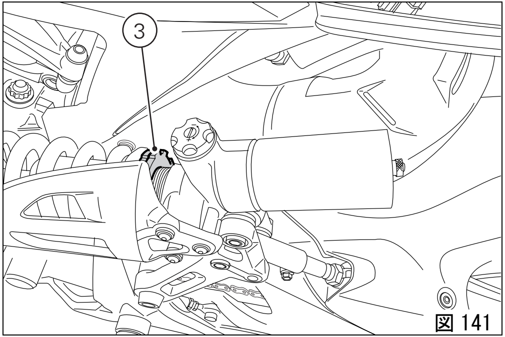


図 141

警告

ショックアブソーバーには高圧のガスが充填されています。未経験者による分解作業は重大な損傷の原因となります。

パッセンジャーと荷物を載せる場合、りショックアブソーバーのスプリングを最大にプリロードし、車両の動的挙動を改善させ、地面の干渉を避けます。この場合には、リバウンドダンピングの再調整が必要になることがあります。

車高の調整（図 142、図 143）

この車両の車高は、Ducati 社の技術者がさまざまな走行状態でテストを行い決定しています。
車高調整は非常にデリケートな作業ですので、不適切な変更作業を行うとライダーの身体に危険をもたらします。

ライダーはアブソーバーのポジションを変更し、自分のライディングスタイルに合わせた車高の変更が可能です。

重要
FLAT(F) ポジションはレースバージョンのように様々な車高に調整することができます
PROGRESSIVE (P) ポジションはパッセンジャーが乗る場合に推奨します。

警告
FLATポジションの状態でパッセンジャーをのせて車両を使用すると、車両の安定性が失われる可能性があります。

警告
車高の調整作業が必要な場合は、ディーラーまたはDucati サービスセンターにご連絡下さい。

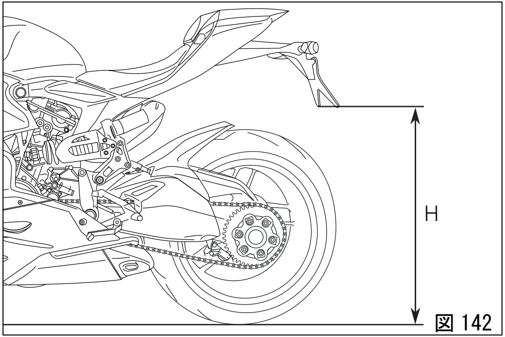


図 142

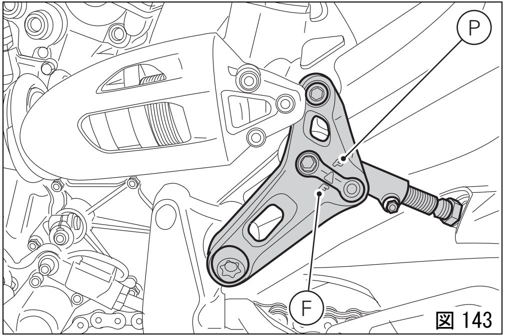


図 143

運転のしかた

慣らし運転の方法

慣らし運転時の最高速度 (図 144)

慣らし運転期間中および通常使用においてのエンジン最大許容回転数 :
1) 1,000 km まで
2) 1,000 ～ 2,500 km まで

1,000 km まで

最初の 1,000 km まではタコメーターに注意し、5,500 ～ 6,000 回転 (rpm) を超えてはいけません。
最初の数時間は、規定回転数の範囲内でエンジンの負荷と回転数を色々変えることをお勧めします。

重要
走行距離が 1000km (慣らし運転) までの期間、すなわちオドメーターの表示が 1000km 以下では、6000rpm に達すると、" オレンジゾーン " (事前警告ゾーン - ディスプレイにオレンジ色の棒グラフ及びそれに相当する数値を表示) が表示されます。慣らし運転期間中は 6000rpm を超えないこと、すなわちインストルメントパネルの棒グラフに " オレンジゾーン " が表示されないことが推奨されます。

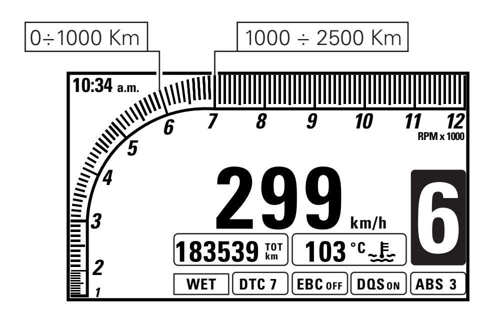


図 144

エンジン、ブレーキ、サスペンションのより効果的な慣らしには、カーブが多く起伏に富んだ場所を走行することが理想的です。
最初の 100 km は、ブレーキディスクに対してパッドの摩擦材を適切に慣らすために、優しくブレーキをかけ、急なブレーキや長い間ブレーキをかけることは避けて下さい。
全ての機械部分を互いに馴染ませるため、また、エンジンの主要部分の寿命に悪影響が出ないよう、急な加速や、特に上り坂での長時間にわたる高速回転は避けて下さい。
定期的にチェーンを点検し、必要であれば潤滑し、調整して下さい。

1000 〜 2500 km まで

この間、エンジンからよりパワーを引き出す事は可能ですが、下記の回転数を決して超えないようにして下さい：
7,000 rpm

重要
慣らし運転期間は、当マニュアルで指定された点検、整備を必ず受けて下さい。順守されなかった結果、エンジンの損傷、および寿命の短縮などについて、Ducati モーターホールディング社はいかなる責任も負いません。

慣らし運転の方法を守ることでエンジンの寿命を延ばし、調整、オーバーホールの回数を抑えることができます。

走行前の点検事項

警告
走行前にこれらの点検を怠った場合、車両に損傷を与え、ライダー、及びパッセンジャーを危険に晒す恐れがあります。

走行前に以下の点検を実施してください：

タンク内の燃料量
タンク内の燃料の残量を確認します。必要であれば給油して下さい (199 ページ)。

エンジン内のオイルレベル
クランクケースの点検窓でオイルのレベルを
確認して下さい。必要であればオイルを補充して下さい (222 ページ)。

ブレーキおよびクラッチフルード
各リザーバー内のフルードレベルを確認して下さい (205 ページ)。

クーラント量
クーラントタンクの液量を確認します。必要であれば補充して下さい (203 ページ)。

タイヤコンディション
空気圧と摩耗度を点検します (220 ページ)。

コマンド機能
ブレーキ、クラッチ、アクセル、トランスミッション等の作動レバーまたはペダルを作動させて機能を確認します。

ランプ類、インジケーター
ランプ、インジケーター、ホーンが適切に機能するかを確認します。電球が切れている場合には交換して下さい (215 ページ)。

ロック類
フィラープラグ (179 ページ) およびシート (180 ページ)。

スタンド
サイドスタンドがスムーズに作動し、適切な位置にあるかをチェックします (181 ページ)。

ABS ランプ (ABS バージョン)

key-on 後、ABS ランプ (9、図 4) は点灯し続けます。走行速度が 5 km/h を越えた時点で、ABS システムの正常な機能を示すため、ランプは消灯します。

警告
不良な点がある場合には､車両の使用を中止し、Ducati オフィシャルディーラーにご連絡下さい。

ABS 装置 (ABS バージョン)

フロントフォニックホイール(1､図145)とリアフォニックホイール(2､図146)をよく清掃してください。

警告
汚れなどが付着して読み取り窓が詰まっていると、システムが正常に機能しない恐れがあります。泥の多い路面を走行する時には ABS システムがうまく機能しない場合がありますのでシステムを OFF にしておくことをおすすめします。

警告
長い後輪立ち走行を行うと、ABS システムが停止してしまうおそれがあります。

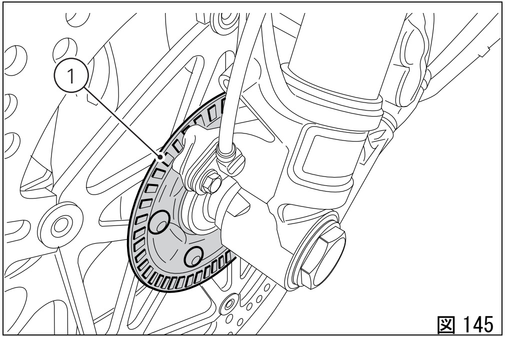


図 145

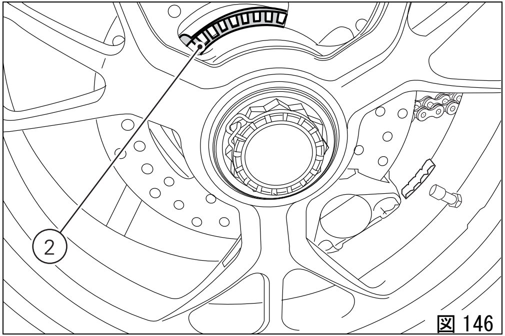


図 146

エンジンの始動

警告
エンジンを始動する前に、運転に必要な操作系の取り扱いに慣れておいて下さい（10 ページ）。

警告
屋内では絶対にエンジンを始動したり、作動させたりしないで下さい。排気ガスは有毒ですので、短時間で意識を失ったり、さらには死に至る危険性があります。

1）イグニッションキーを ONの位置にします（図145）。緑のランプ N （2）と赤のランプ （4）が点灯していることを確認してください。

重要
オイルプレッシャー表示ランプ（4）はエンジン始動後、数秒で消えなければなりません（21 ページ）。

警告
サイドスタンドが完全に上がって（水平）いない場合、安全センサーが作動して始動できません。

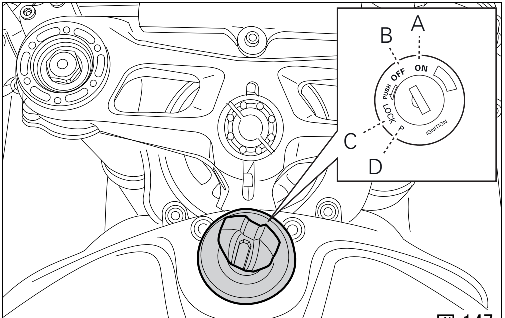


図 147

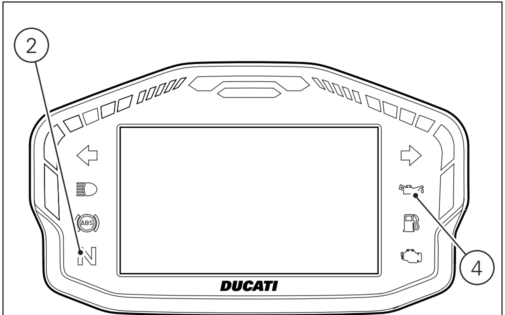


図 148

参考

サイドスタンドを下ろし、ギアがニュートラルの状態でエンジンを始動させることができます。
または、ギアが入った状態で始動する時は、クラッチレバーを引いたままの状態で始動させてください（ この時サイドスタンドは上がっていなければなりません）。

2) エンジンストップスイッチ (2､図 147) が ◯ (RUN) の位置になっていることを確認してから、スタートボタン (3、図 147) を押します。

重要

エンジン冷間時は回転数を上げ過ぎないで下さい。オイルが温まるまで待ちます。

車両の発進

1) クラッチレバーを引いてクラッチを切ります。
2)1 速に変速するためにギアチェンジペダルをつま先でしっかり押し下げます。
3) スロットルグリップを回してエンジンの回転数を上げ、同時にクラッチレバーを徐々につなぐと、車両は発進し始めます。
4) クラッチレバーを完全に放し、エンジンの回転数を上げます。
5) シフトアップするには、エンジン回転数を落とすためにスロットルを戻し､クラッチを切り､ギアチェンジレバーをもち上げ､クラッチレバーを放します。

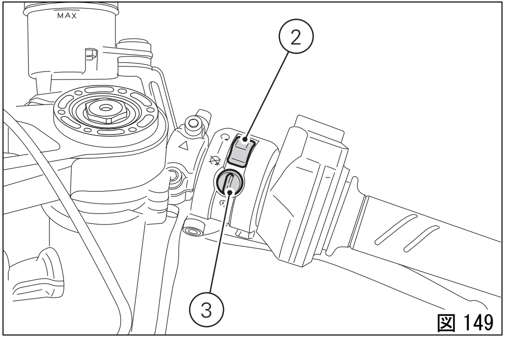


図 149

シフトダウンは以下のように行います。スロットルグリップを放し、クラッチレバーを引いてから、ギアを同調させやすくするためにエンジンを軽くふかしてシフトダウンし、クラッチを放します。
これらの作業は適切に素早く操作しなければなりません。上り坂を走行する際には、車速が落ちてきたらすぐにシフトダウンし、車両への異常なストレスやエンジンのノッキングを避けて下さい。

⚠ 重要

急な加速操作は、オーバーフローやトランスミッションのスナッチを招きますので避けて下さい。ギアを変速した後もクラッチレバーを引いたままでいると、機械部分の過熱や摩擦部分の異常な摩耗を引き起こします。

⚠ 警告 (ABS バージョン)

長い後輪立ち走行を行うと、ABS システムが停止してしまうおそれがあります。

ブレーキ操作

減速するには、最初にスロットルグリップを戻してエンジンブレーキをかけ、それからブレーキングします。エンジンが急に止まるのを防ぐため、車両が停止する前に、クラッチを切ります。

⚠ 警告（非 ABS バージョン）

レバーとペダルの内、片方だけ使用するとブレーキ効力が低下します。
ブレーキ類は急激に力づくで操作すると、ホイールのブロックが生じ、車両のコントロールを失います。雨中を走行する際や、滑りやすい路面上ではブレーキ力が著しく低下します。このようなコンディションでは慎重に優しくブレーキ操作をして下さい。急ブレーキは車両のコントロールを失う危険があります。長く急な下り坂を走行する際にはシフトダウンしてエンジンブレーキを使用します。ブレーキは断続的に短時間だけ使用して下さい。ブレーキの長時間にわたる連続使用は、摩耗材の過熱を招き、ブレーキ能力の著しい低下の原因となります。規定空気圧以外のタイヤはブレーキ能力を低下させるとともに摩耗を早め、また運転の確実性と、カーブでの安定を欠きます。

ABS システム (ABS バージョン)

困難な条件下のブレーキ操作は、非常に慎重に行わなければなりません。ブレーキ操作は二輪車の運転で最も難しく危険な瞬間です。ブレーキ操作中に転んだり事故を起こす可能性が統計的に最も高くなっています。フロントホイールがロックされると、牽引力、安定性が減り、車両のコントロールを失います。

アンチブロックブレーキシステム (ABS) は、緊急のブレーキ時、悪道路、悪天候の下でブレーキの性能を最も効率的に使えるように開発されたものです。

ABS は油圧電子システムです。ホイールがロックされそうになると、ホイールにあるセンサーからコントロールユニットに信号が送られ、ブレーキ回路内のプレッシャーが制御されます。

一時的にプレッシャーが下がることで、タイヤが理想的な接地状態を維持したまま、ホイールは回転を続けます。ブレーキ回路内のプレッシャーはすぐにまた上がり始め、ブレーキが作動するようになります。ロックアップのリスクが完全になくなるまでこのサイクルが繰り返されます。

ブレーキが作動状態に入ると、ブレーキレバーとブレーキペダル上に軽い断続的抵抗が感知されます。

フロントとリアブレーキのコントロールシステムはそれぞれ独立していますので、ABS もフロントとリアブレーキに同時に作動するわけではありません。

このシステムをインストルメントパネルで停止させたい場合は、"ABS 停止機能" を使います。

⚠ 警告

レバーとペダルの内、片方だけ使用するとブレーキ効力が低下します。
ブレーキ類は急激に力づくで操作すると、ホイールのブロックが生じ、車両のコントロールを失います。
雨中を走行する際や、滑りやすい路面上ではブレーキ力が著しく低下します。このようなコンディションでは慎重に優しくブレーキ操作をして下さい。急ブレーキは車両のコントロールを失う危険があります。長く急な下り坂を走行する際にはシフトダウンしてエンジンブレーキを使用します。ブレーキは断続的に短時間だけ使用して下さい。ブレーキの長時間にわたる連続使用は、摩耗材の過熱を招き、ブレーキ能力の著しい低下の原因となります。規定空気圧以外のタイヤはブレーキ能力を低下させるとともに摩耗を早め、また運転の確実性と、カーブでの安定を欠きます。

車両の停止

スロットルグリップを緩めると、車両は 徐々にスピードを落とし始めます。シフトダウンしながらクラッチをつなぎ、最後に 1 速からニュートラルに入れます。ブレーキをかけると、車両を完全に停止することができます。エンジンを停止させるには、キーを OFF にします (170 ページ)。

パーキング

停止させた車両をサイドスタンドを使って駐車します (181 ページ参照)。
盗難防止のため、ハンドルを左に振りきり、キーを LOCK にします。
車両をガレージ、その他の建物内に駐車する際には、換気が充分され、車両の近くに熱源が無いことを確認して下さい。
必要な場合には、車両を認識しやすいようにイグニッションキーを P の位置にするとパーキングランプを点灯しておくことができます。

⚠ 重要

このキーを長時間 P の位置にしておくと、バッテリー切れの原因になります。監視できない場所に停車するときは、キーを付けたままにしないで下さい。

⚠ 警告

エンジン停止後でもエキゾーストユニットは高温の場合があるので、手を触れないよう充分注意し、車両を木材、木の葉などの可燃物のそばに駐車しないようにして下さい。

⚠ 警告

発進を妨げるタイプの盗難防止用ロック（ディスクロック、リアスプロケットロック等）は大変危険で、車両の機能とライダーとパッセンジャーの安全に危害を与えるおそれがあります。

燃料の補給（図 150）

給油の際、入れすぎないように注意してください。燃料はプラグの下縁をこえてはいけません。

警告

ガソリンは無鉛に出来るだけ近いもの、もしくはオクタン価 RON が最低 95 のものを使用してください（232 ページ " 給油 " 参照）。

プラグの上部に燃料が溜まってないことを確認します。

警告

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料（E10）のみ使用することができます。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁止されています この燃料を使用すると車両のエンジン及び部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用すると保証の対象外になります。

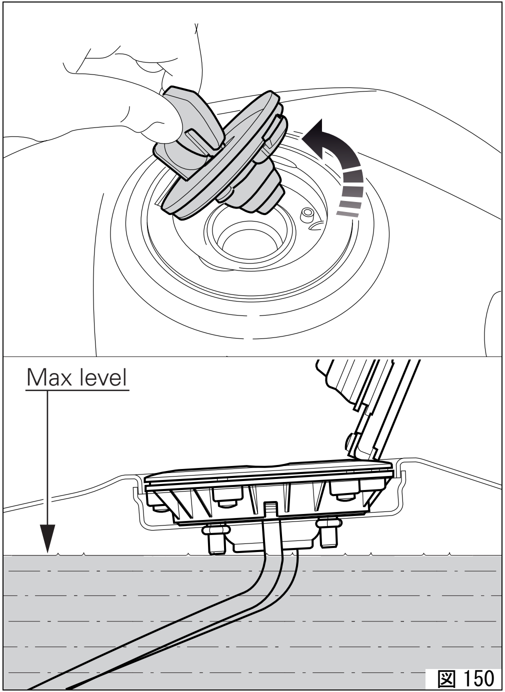


図 150

付属アクセサリー（図 151）

パッセンジャーシート下部に以下のツールキットが装備されています。
- スパークプラグ用六角レンチ
- スパークプラグレンチ用ボルト
- ダブルスクリュードライバー
- フェアリング用アレンレンチ

このスペースの作業をするにはシートを取り外してください（180 ページ参照）。

以下の部品一式の取り付けはオフィシャルディーラーにて行わなければなりません。
- パッセンジャーシート
- 左右リアフットペグ

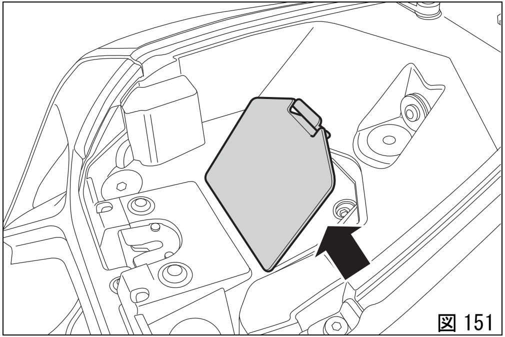


図 151

装飾部品の取り外し

車両を正しく整備、修理するためには、装飾部品の一部を取り外すことが必要です。

警告

取り外したパーツは正確に取り付けて下さい。適切に取り付けられていないと、走行中に部品が脱落し、車両のコントロールを失なう危険があります。

重要

車体の塗装部分、及びスクリーンのプレキシグラスに傷を付けないため、スクリュー再装着の際には常に専用ナイロンワッシャーをお使い下さい。

重要

装飾部品の取り外しが必要な場合は、ディーラー又はDucati サービスセンターにご連絡下さい。

サイドフェアリング

フェアリングを取り外すには、シート下部にあるアレンレンチを使用して下記を緩めます：

フェアリングブラケットに固定している 2 本スクリュー (1)

ヘッドランプフェアリングに固定している 4 本のスクリュー (2)

フレームに固定している 3 本のスクリュー (3)

フェアリング下部にある右側フェアリングを固定している 2 本スクリュー (4)

中央を固定している 2 本のスクリュー (5)

ヘッドランプフェアリングにフロントを固定している 2 本のスクリュー (6、図 153)。

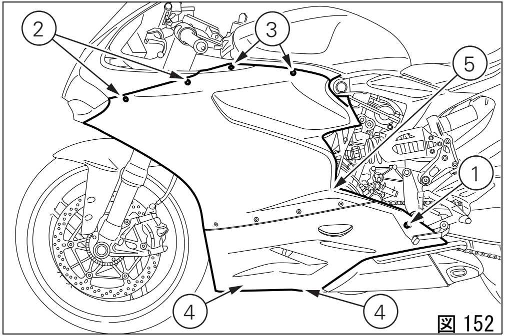


図 152

参考

フェアリングからフリーになっているスプラッシュガードに注意して下さい。

参考

左フェアリングを取りつけるには、サイドスタンドを下ろし、フェアリングをフェアリング本体の開口部に通します。

エアフィルターの交換

重要

エアフィルターのメンテナンス作業が必要な場合は、ディーラーまたはDucati サービスセンターにご連絡下さい。

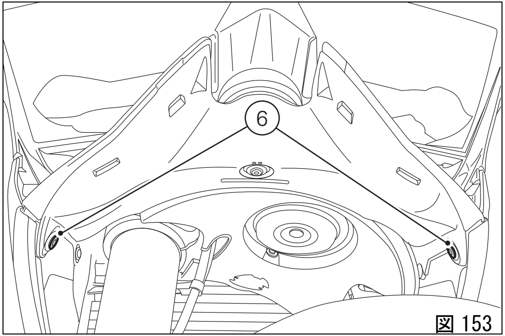


図 153

クーラントレベルの点検および補充

車両右側にある拡張タンク内のクーラントレベルを点検します。
クーラントレベルが拡張タンクの脇にある MIN (1) 及び MAX (2) の目盛の間にあることを確認します。
液体レベルが MIN 以下の場合は補充します。
右側フェアリングを取り外します (201 ページ)。

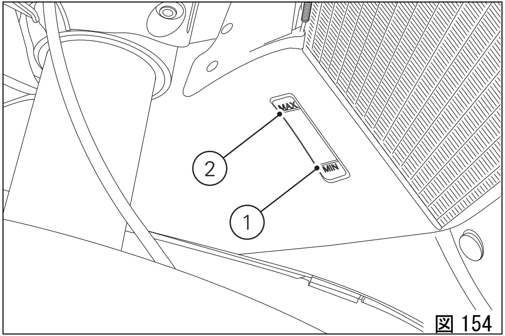


図 154

フィラープラグ (3) をゆるめ、希釈水と不凍液 SHELL Advance Coolant 又は Glycoshell (35 ～ 40%) の混合液を MAX のレベルになるまで補充します。
プラグ (3) をしっかりと閉め、取り外したパーツを元通りに取りつけます。
上記に示された混合液を使用することで最良のコンディションを保つ事が出来ます
(-20° C/-4° F から凍結し始めます)。

クーリングシステムの容量 : 2.3 リットル。

警告
この作業は、エンジン冷間時に車両が完全に垂直で安定した状態で行って下さい。

重要
補充が必要な場合は、ディーラー又は Ducati サービスセンターにご連絡下さい。

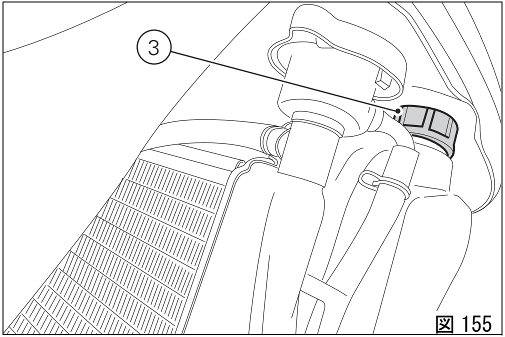


図 155

ブレーキ / クラッチフルードレベルの点検

ブレーキ、クラッチ液のレベルは、絶対に各リザーバータンクのMIN 目盛りより下になってはいけません。
液体レベルが下がりすぎると、回路内に空気が混入し、システム作動に悪影響を及ぼします。
また､定期点検表で指定されているブレーキ/クラッチフルード補充及び交換は、Ducati ディーラーまたはサービスセンターに依頼して下さい。

重要

ブレーキ、クラッチシステムのパイプは 全て4年毎に交換して下さい。

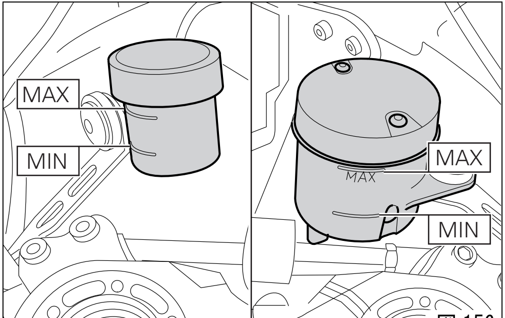


図 156

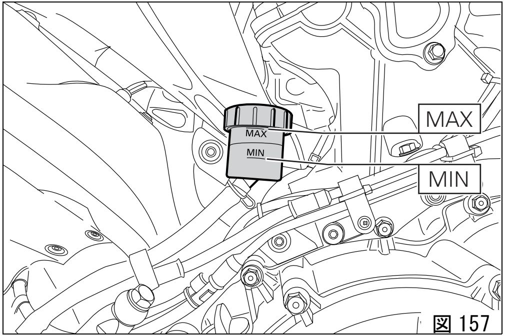


図 157

ブレーキシステム

ブレーキパッドが磨耗していないのに、ブレーキレバー、ブレーキペダルの過度の遊びに気付いた場合には、Ducati ディーラーまたはサービスセンターに連絡し、システムの点検とエア抜きを行って下さい。

警告

ブレーキ / クラッチフルードはプラスチックおよび塗装部分に損傷を与えますので、こぼさないようにして下さい。これらの液体は腐食性ですので傷損害を与える恐れがあります。異なった品質のオイルを混ぜないで下さい。
シールの状態をチェックしてください。

クラッチシステム

クラッチレバーに過度の遊びがあり、ギアチェンジの際クラッチにスナッチやジャダーが出る場合は、システム内にエアが混入している事があります。システムを点検しエアを排出する必要があるため、Ducati ディーラーまたはサービスセンターにご連絡下さい。

警告

クラッチフルードレベルはクラッチディスクの磨耗材の消耗によって上がる傾向があります。規定のレベルを超えないよう注意して下さい（最低レベルの 3 mm 上）。

ブレーキパッドの摩耗点検（図 158 と図 159）

キャリパー間の開口部を通してパッドの摩耗を点検します。
摩耗剤の厚さが一つでもおよそ 1mm ならば、両方のパッドを交換します。

警告

摩耗剤が消耗しすぎると、ブレーキディスクと金属製サポートが接触し、ブレーキの性能、ディスクの完全性、ライダーの安全性を損なう可能性があります。

重要

ブレーキパッドの交換はDucatiディーラーまたはサービスセンターで実施して下さい。

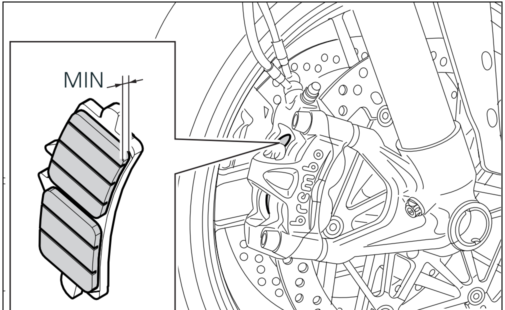


図 158

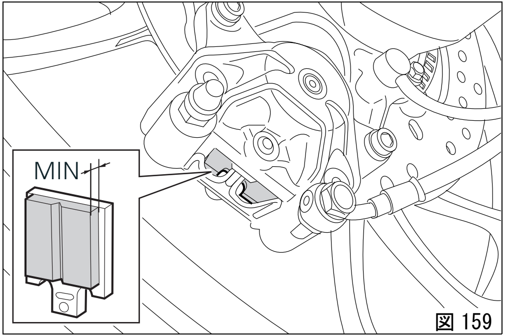


図 159

バッテリーの充電

バッテリーを充電する際、バッテリーを車両から取り外して下さい。
左側フェアリングを取り外します (201 ページ)。
スクリュー（1、図 160）を緩め、バッテリーを固定するカバー（2、図 160）を取り外します。
所定の位置からバッテリー（3、図 161）を抜き取り、陰極端子(-)からスクリュー(4、図 161)を緩めます。
陽極ケーブル（5、図 161)、ABS 陽極ケーブル（6、図 161）を陽極から、陰極から陰極ケーブル（7、図 162）を外します。

警告

バッテリーは爆発性のガスを発生させます。熱源の近くに保管しないで下さい。

警告

バッテリーは幼児の手の届かないところに置いて下さい。

バッテリーは 0.9A で 5 ～ 10 時間充電します。
充電は換気のよい場所で行って下さい。
端子に充電機のコンダクターを接続します。赤い端子はプラス (+)、黒い端子はマイナス (-)。

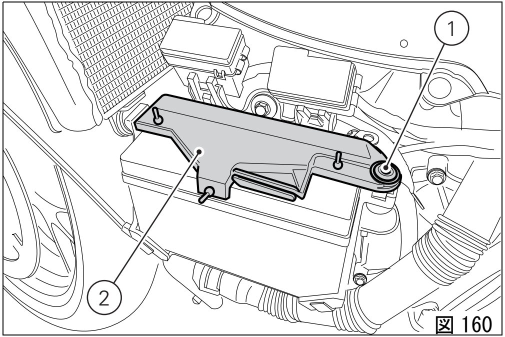


図 160

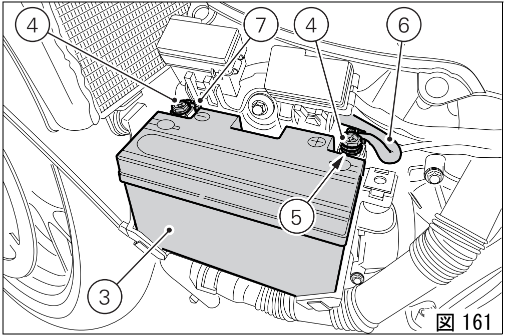


図 161

重要
電源を入れる前にバッテリーを充電機に接続します。電源に接続する際に火花が発生し、セル内の可燃性ガスに引火する危険があります。接続は常に赤のプラス (+) 極から行って下さい。

ABS システムの陽極ケーブル (6、図 162) を陽極ケーブル (5、図 162) の上に置き、スクリュー (4、図 163) をその上に差し込みます。

警告
陽極ケーブル (6) は ABS システムが搭載されているバージョンにのみ取り付けられています。

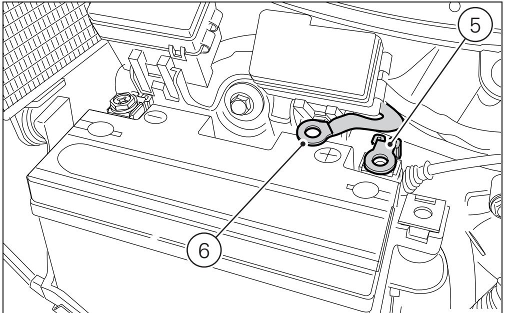


図 162

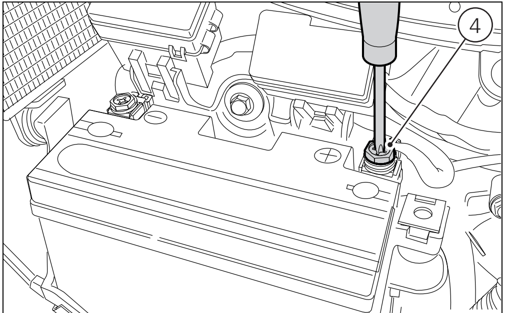


図 163

前もってABSケーブル（6、図164）と組み立てておいた陽極ケーブル（5、図164）をバッテリーの陽極に、陰極ケーブル（7、図164）をバッテリーの陰極に接続し、スクリュー（4、図164）を差し込みます。電極のスクリュー（4、図164）を5Nm ± 10%のトルクで締め付け、酸化を防ぐためにバッテリー電極周辺にグリースを塗布します。
図161に示す方向にケーブル（5、図161）及び（6、図161）を向け、バッテリー（3、図161）をマウントに取り付けます。

バッテリー固定カバー(2、図165)を取り付け、スクリュー（1、図165）を10 Nm ± 10%のトルクで締め付けます。

左側フェアリングを再度取り付けます(201ページ)。

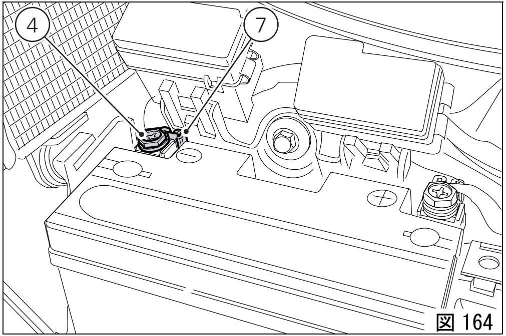


図164

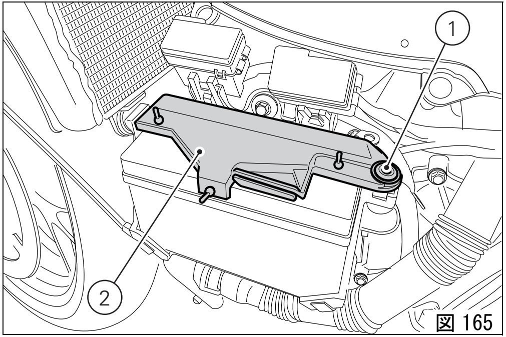


図165

バッテリー充電および冬季の断熱

車両には所定の充電器 (2)(バッテリーメンテナーキット､部品番号 69924601A – 多くの国､バッテリーメンテナーキット、部品番号 69924601AX – 日本、中国、オーストラリアのみ) を接続することができるコネクター(1、図 166) が装備されています。充電機は当社の販売店でお求めできます。

参考

1199 Panigale のエレクトリカルシステムはエンジン停止の状態での消費電力を非常に低く抑えるよう設計されています。いずれにせよ、バッテリーは自然に放電し、それは ″ 使用していない ″ 期間や環境条件によって変化します。

重要

所定のメンテナーを介してバッテリー電力の最低値が維持されないと、不可逆反応でバッテリー自体の性能の低下を招くサルフェーション現象が生じます。

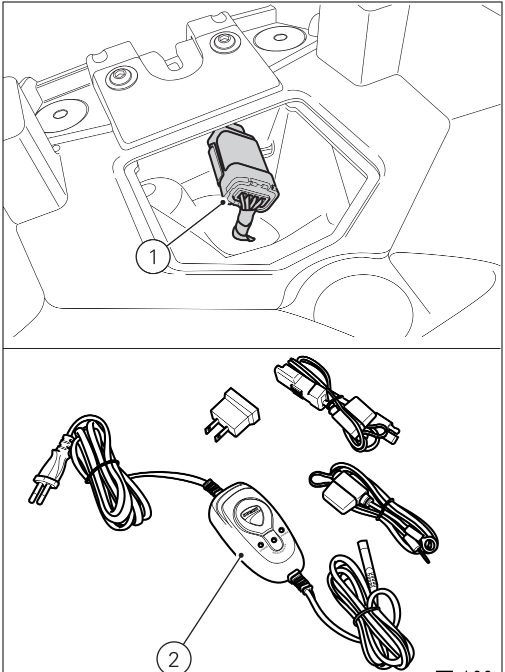


図 166

参考
1199 Panigale を使用しない期間(およそ 30 日以上)、Ducati バッテリーメンテナー(バッテリーメンテナーキット､部品番号 69924601A – 多くの国、バッテリーメンテナーキット、部品番号 69924601AX – 日本、中国、オーストラリアのみ)の使用を推奨します。電力をモニターする内部エレクトロニクスが搭載されており、充電電流は最大 1.5 アンペア /h です。メンテナーを車両のテールにある診断プラグに接続します。

参考
Ducati に認可されていないバッテリーメンテナーを使用すると、車両のエレクトリカルシステムに損傷をきたす恐れがあります。上記の理由で車両が損傷を受けた場合、不適切なメンテナンスとみなし､バッテリーは車両の保険の対象にはなりません。

トランスミッションチェーン張力の点検
(図 167)

重要
チェーン張力の調整は Ducati オフィシャルディーラーまたはサービスセンターに依頼してください。

リアホイールを回転させ、チェーンが最も張る位置を探します。サイドスタンドに車両を駐車します。指の力だけで測定位置でチェーンを下方向に押し、放します。チェーンピンの中央とフォークのアルミニウムの間の距離 (1) を測定します。
その値は A = 50 ~ 52 mm でなければなりません。

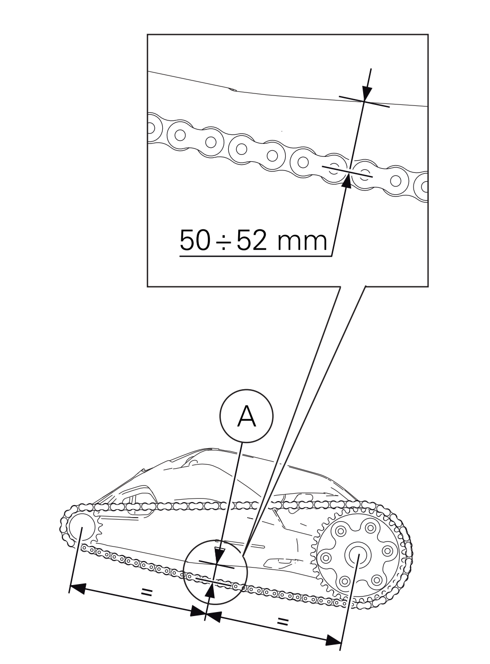


図 167

警告
安全な走行状態を保つにはスクリュー (1、図 168) の正しい締め方がとても重要です。

重要
不適切なチェーンの張りは、トランスミッション部品の磨耗を促進させます。

チェーンの潤滑
この車両には、泥などの侵入を防ぎ、潤滑をより保つ O リングシールの付いたチェーンが装備されています。
チェーンを洗浄する場合には、シールの損傷を防止するため、専用の溶剤を使用して下さい。ウォッシャー等でスチームや圧力のかかった水で洗浄しないで下さい。
洗浄後は、コンプレッションエアーでチェーンを乾かし、SHELL Advance Chain または Advance Teflon Chain で潤滑します。

重要
規定オイル以外を塗布すると、チェーン、フロント / リアスプロケットに損傷を与える可能性があります。

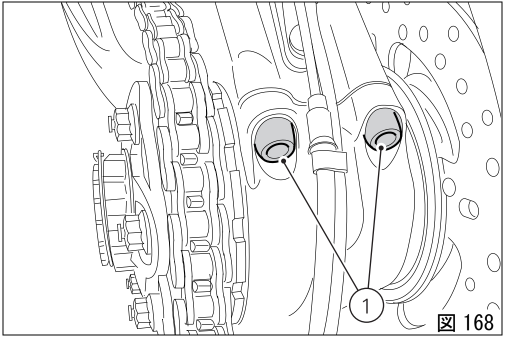


図 168

ハイ / ロービーム電球の交換

切れた電球を交換する前に、新しい電球が 238 ページの " エレクトリカルシステム " の章に記載されている電圧及び電力と同じであることを確認してください。取り外したパーツを再度取り付ける前に、新しく取り付けた電球の機能を点検してください。

図 169 にロービーム電球 (LO)、ハイビーム電球 (HI)、LED ポジションランプ (1) の位置を示しています。

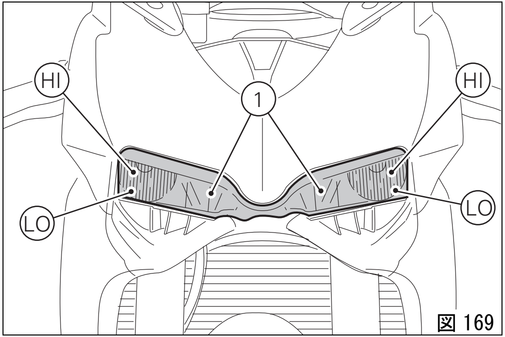


図 169

ヘッドランプ

左の電球を交換します。
ランプ上部のロックナット (3) を反時計回りに回転させ、切れた電球を取り外します。
同じ品質の新しい電球と交換します。
取り付けの際、ロックナと (3) を時計回りに回転させ、電球を固定します。
左の電球の交換と同様の方法で右の電球を交換します。

重要
ヘッドランプの電球を交換する際、ヘッドランプ自体からメインケーブルの電線を切り離す必要はありません。

参考
新しい電球の透明の部分を手で触れないでください。黒ずんで明るさが減少することがあります。

警告
雨天時または洗車後に車両を使用する際、ランプレンズが曇っている場合があります。
レンズ内の結露はランプを点灯すると短時間で消えます。

パーキングランプ電球の交換

ポジションランプは LED 電球なのでメンテナンスの必要はありません。

ヘッドランプの光軸調整 (図 170)

ヘッドランプの光軸をチェックするには、適切な空気圧のタイヤの車両にまたがり、車体を垂直に保ち、縦軸に対して正しい角度を保持します。車両は壁またはスクリーンから 10m の距離に配置します。壁にヘッドランプの中心と同じ高さで水平に線を引き、また車体の縦軸に一致する垂直線も引きます。
この作業はできれば薄暗い場所で行って下さい。
ロービームを点灯します :
光の照射範囲の高さが (照射された部分と明るいの部分との境界の上限)、地上からヘッドランプの中心までの高さの 9/10 以下でなければなりません。

参考

この方法は、イタリアの基準で制定された照射角度に準拠したものです。
イタリア以外の国で使用する場合は、それぞれの国で法律に従い調整してください。

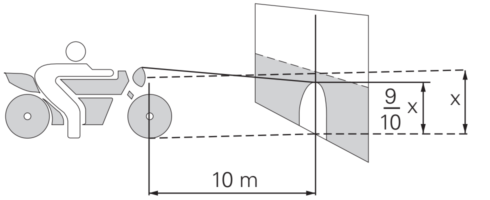


図 170

ヘッドランプの光軸調整は車両のフロント左右両側に取り付けられた 4 本のスクリュー (1) 及び (2) を回して行います。
ヘッドランプの垂直方向の光軸調整を行うには車両の左右両側に一つずつ取り付けられた 2 本のスクリュー (1) を回します。
ヘッドランプの水平方向の光軸調整を行うには車両の左右両側に一つずつ取り付けられた 2 本のスクリュー (2) を回します。

警告
雨天時または洗車後に車両を使用する際、ランプレンズが曇っている場合があります。
レンズ内の結露はランプを点灯すると短時間で消えます。

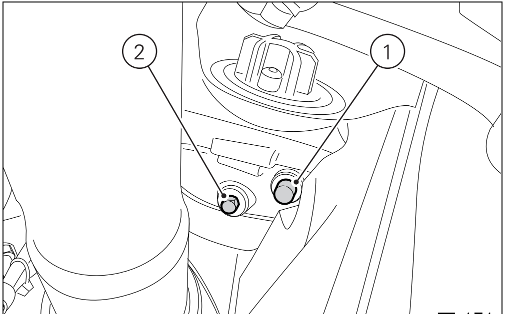


図 171

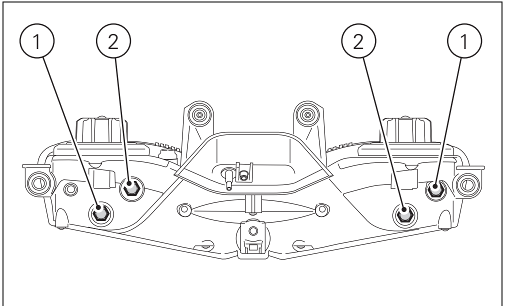


図 172

リアビューミラーの調整（図 173）

(A) を手で押し、ミラーを調整します。

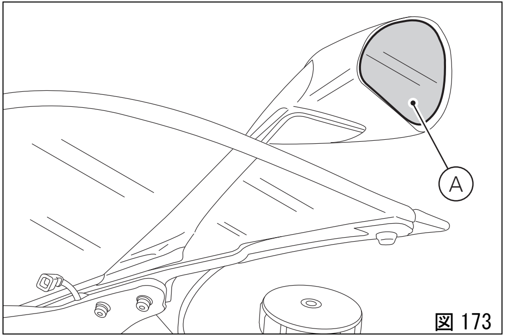


図 173

チューブレスタイヤ

フロントタイヤ空気圧：
2.1bar ～ 2.3 kg/cm²
リアタイヤ空気圧：
2.2bar ～ 2.4 kg/cm²
タイヤの空気圧は外気温や高度によっても変化するので、標高の高い場所や気温差のある場所を走行する場合は、毎回点検と調整を行って下さい。

重要
タイヤの空気圧はタイヤ冷間時に測定しなければなりません。
フロントリムがダメージを受けないように、悪路を走行する時はタイヤの空気圧を0.2～ 0.3bar 上げて下さい。

タイヤの修理、交換（チューブレス）

タイヤに穴が開いた場合、チューブレスタイヤは空気の減り方が遅いため、気付くまでに時間がかかることがあります。タイヤの空気圧が下がってきた場合は、パンクの可能性をチェックします。

警告
パンクしたタイヤは交換して下さい。
交換する際は、標準装備タイヤと同じメーカー、タイプを指定してください。
走行中のエア漏れを防ぐため、タイヤのバルブキャップがしっかり締まっていることを確認します。チューブタイプのタイヤは絶対に使用しないで下さい。突然タイヤが破裂し、ライダー、パッセンジャーの安全に大きな危険を及ぼします。

タイヤ交換の後には、必ずホイールバランスの点検を行って下さい。

重要
ホイールのバランスウェイトを外したり、移動させたりしないで下さい。

参考
タイヤの交換が必要な場合は、ホイールを正しく着脱することが大切ですので、Ducati オフィシャルディーラーまたはサービスセンターにご依頼下さい。
センサー、フォニックホイールなど ABS システム（ABS バージョン）のパーツがホイールに装着されており、特別の調整が必要になります。

タイヤ摩耗の限度

タイヤのトレッド面が一番摩耗している箇所の(S、図 174) 溝の深さを測定します：
溝の深さは 2mm 以下、または道交法の規定値以下であってはなりません。

⚠ 重要

タイヤを定期的に点検します。特に側面に傷やヒビがないか、突起、広範囲のシミ、内部の損傷を表すような箇所がないかを注意深く目視点検して下さい。損傷が著しい場合はタイヤを交換して下さい。トレッドに入り込んだ石や異物は取り除いて下さい。

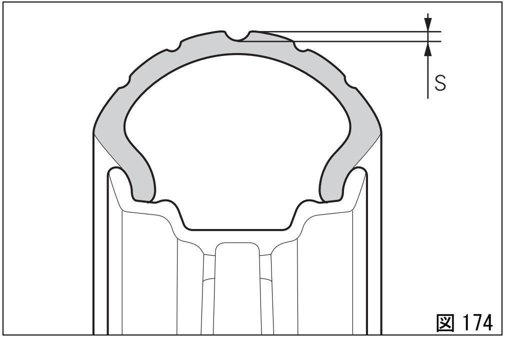


図 174

エンジンオイルレベルの点検 (図 175)

エンジンオイル量は、クラッチカバー上のオイル点検窓 (1) で確認できます。レベルチェックは車体を垂直に配置し、エンジン冷間時に行ってください。オイル液面は、点検窓の横に指示された目盛の間になければなりません。オイル量が不足している場合は、エンジンオイル SHELL Advance 4T Ultra を補充してください。注入口キャップ (2) を外し、指定のオイルを所定のレベルまで補充してください。プラグを取り付けます。

重要

保証書に記載されている定期点検表に従い、エンジンオイルとフィルターの交換は、Ducati ディーラーまたはサービスセンターににご依頼下さい。

粘度

SAE 15W-50

車両使用環境の気温が表示された規定範囲内であれば、表に示された以外の粘度のオイルも使用できます。

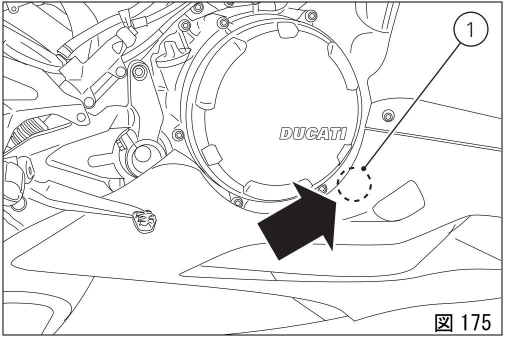
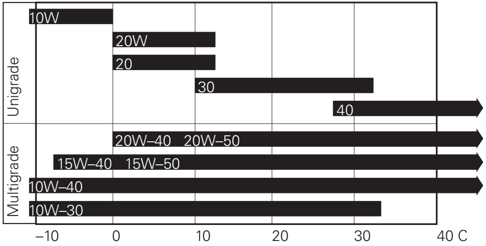


図 175



スパークプラグの清掃と交換（図 176）

スパークプラグはエンジンの重要な部品ですので、定期的な点検が必要です。
スパークプラグの交換が必要な場合は、ディーラーまたはDucati サービスセンターにご連絡下さい。

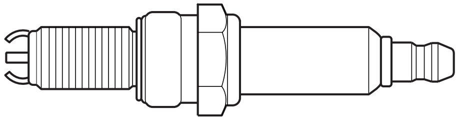


図 176

車両の清掃

塗装部分とメタリック部分の本来の艶を長期間保つため、走行する道路の状態に合わせて、車両を定期的に清掃、洗車しなければなりません。車両に損傷を与えないように、強力な洗剤や溶剤を使用せず、専用の洗剤と水を使って洗車します。
プレキシグラス部分やシートのお手入れには、水と中性洗剤をお使いください。
定期的にアルミニウム製部品を手作業で清掃してください。研磨剤や水酸化ナトリウムが含まれていないアルミニウム専用洗剤を使用してください。

参考
研磨剤付きスポンジやスチールウールは使用せず、柔らかい布のみを使用してください。

十分なメンテナンスが行われていない車両は保証の対象になりません。

重要
走行後のボディがまだ暖かい間は、水染み等を防ぐためすぐには洗車をしないで下さい。高温や、ウォッシャー等の圧力のかかった水で洗浄しないで下さい。ウオッシャー等の使用は、フォークやホイールベアリング、電装部分、ランプ内部の結露（くもり）、フォークシール、エアー吸入口、エキゾーストサイレンサーの磨耗や変形をもたらし、車両の安全を損ねるおそれがあります。

エンジンにひどく汚れた部分や油脂汚れなどがある時は、油取り用洗剤を使って、トランスミッション系統（チェーン、ギア、リム等）に洗剤がかからない様に洗浄します。水道水で良くすすぎ、車体全表面部をセーム革で拭きます。

警告
洗車後は、ブレーキ能力が落ちることがあります。ブレーキディスクには絶対に、グリースやその他のいかなるオイルを付けないで下さい。ブレーキ能力が失われます。ディスクは非油性の溶剤で清掃してください。

警告
洗浄、雨、結露などにより、ヘッドランプレンズにくもりが生じることがあります。
レンズ内の結露はランプを点灯すると短時間で消えます。

ABS システムが効率よく作動するように、フォニックホイールを入念に清掃してください（ABS バージョン)。ホイールやセンサーをいためますので、強い洗剤、溶剤の使用は避けてください。

参考
インストルメントパネルの清掃にアルコール又はその二次製品を使用しないでください。

ビレットアルミ製の部品があるのでホイールリムの清掃には細心の注意を払ってください。車両を使用する度に清掃し水分を拭き取ってください。

長期間の保管

車両を長期間使用しない場合は、保管する前に以下の作業を行うようお薦めします：
車両を清掃します。
燃料タンクを空にします。
車両をスタンドに立てかけて停車します。
バッテリーの接続を切り離し、取り外します。バッテリーメンテナーで定期的に充電します (211ページ参照)。
結露を防止し塗装を保護するため、車体はカバーで覆います。
車体カバーはDucati パフォーマンスにて取り扱っています。

重要注意事項

国によっては（ フランス、ドイツ、イギリス、ヨーロッパ、スイス等 ）排気ガス、騒音規制の基準を設けている場合があります。
法規に義務付けられた定期点検を行う他、規制に適さない部品がある場合は、適合する Ducati オリジナルパーツと取り替えて下さい。

メンテナンスプログラム

警告
このメンテナンスプログラムは 1199 Panigale の公道での使用を想定しています。サーキットで使用する場合、試合でなくとも、車両のすべてのシステムに多大な負荷がかかっているので、定期点検をより頻繁に行う必要があります。

警告
1199 Panigale を競技で使用するためのパーソナルアドバイスを行いますので、オフィシャルディーラー又はDucati サービスセンターにお問い合わせください。

メンテナンスプログラム：ディーラーで行うメンテナンス

メンテナンス項目 / 作業内容（km / マイル毎、または経過時間 *） km x1000	1	12	24	36	48	期間（月）
マイル	0.6	7.5	15	22.	30	
DDS 2.0 による不具合メモリー読取り及びコントロールユニットのソフトウェアバージョン更新の確認	●	●	●	●	●	12
テクニカルアップデート及びリコールの有無の確認	●	●	●	●	●	12
エンジンオイル及びフィルターの交換	●	●	●	●	●	12
エンジンオイルインテークメッシュフィルター清掃			●		●	

メンテナンス項目 / 作業内容 (km / マイル毎、または経過時間 *) km x1000	1	12	24	36	48	期間 (月)
マイル	0. 6	7. 5	15	22.	30	
バルブクリアランスの点検と調整			●		●	
チェーンタイミングシステムの摩耗の目視点検					●	
スパークプラグの交換			●		●	
エアフィルターの清掃		●		●		
エアフィルターの交換			●		●	
クラッチカバー、クラッチプロテクションカバーを固定しているスクリューの締め付け点検		●	●	●	●	
オイルパンを固定しているスクリューの締め付け点検			●		●	
ブレーキ / クラッチフルードレベルの点検	●	●	●	●	●	12
ブレーキ / クラッチフルードの交換						24
ブレーキパッドの点検 必要な場合は交換	●	●	●	●	●	12
ブレーキキャリパー及びブレーキディスクフランジスクリューの締め付け点検	●	●	●	●	●	12
フロント及びリアホイールナットの締め付け点検	●	●	●	●	●	12
ホイールハブベアリングの点検			●		●	
リアホイールシャフトの点検と潤滑			●		●	24

メンテナンス項目 / 作業内容 (km / マイル毎、または経過時間 *) km x1000 マイル	1 0.6	12 7.5	24 15	36 22.	48 30	期間 (月)
リアスプロケットのダンパーの点検			●		●	
リアスプロケットのナット及びセカンダリートランスミッションスプロケットの締め付け点検	●	●	●	●	●	12
チェーンガイドの摩耗点検	●	●	●	●	●	12
チェーン張力の点検と潤滑	●	●	●	●	●	12
ステアリングベアリングの点検及び潤滑			●		●	24
フロントフォークオイルの交換						36
フロントフォーク及びリアショックアブソーバーのシーリング部品の目視点検	●	●	●	●	●	12
フレーム - エンジンの固定締め付けの点検		●	●	●	●	12
サイドスタンドの動作及び締め付け点検	●	●	●	●	●	12
フューエルホースの目視点検		●	●	●	●	12
フレキシブルケーブルと配線ケーブルの摩擦部分、遊び、動作及びポジショニングの点検	●	●	●	●	●	12
ハンドルレバー及びペダルコマンドの潤滑		●	●	●	●	12
クーラントの交換						36
クーラントの点検	●	●	●	●	●	12

メンテナンス項目 / 作業内容 (km / マイル毎、または経過時間 *) km x1000	1	12	24	36	48	期間 (月)
マイル	0.6	7.5	15	22.	30	
電動ファンの作動点検	●	●	●	●	●	12
タイヤ圧、磨耗点検	●	●	●	●	●	12
バッテリーチャージレベルの点検	●	●	●	●	●	12
アイドリング点検	●	●	●	●	●	12
セカンダリーエアシステムの機能点検			●		●	
セキュリティー電気装置の作動点検（サンドスタンドセンサー、フロント及びリアブレーキスイッチ、エンジン停止スイッチ、ギア / ニュートラルセンサー）	●	●	●	●	●	12
ランプ、インジケーターの点検	●	●	●	●	●	12
DDS 2.0 を介したサービスインジケーターのリセット	●	●	●	●	●	12
車両及びセキュリティーデバイス (例、ABS 及び DTC) の道路上の試運転	●	●	●	●	●	12
車両の清掃	●	●	●	●	●	12
定期点検実施の保証書への記入	●	●	●	●	●	12

メンテナンスプログラム：お客様が行うメンテナンス

メンテナンス項目 / 作業内容（km / マイル毎、もしくは経過時間 *） km x1000	1
マイル x1000	0.6
月	6
エンジンオイルレベル点検	●
ブレーキ / クラッチフルードレベルの点検	●
タイヤ圧、磨耗点検	●
チェーン張力の点検と潤滑 必要であれば、ディーラーにて調整して下さい。	●
ブレーキパッドの点検 必要であれば、ディーラーにて交換して下さい。	●

* 走行距離（km）又は経過月数のうち、どちらか最初の期限に達した場合に作業を実施して下さい。

テクニカルデータ

全体寸法 (mm) (図 177)

重量

ABS システムを搭載していないバージョン

総重量 (燃料 93/93/CE を 90% 入れた状態の走行時): 188 kg

総重量 (液体及びバッテリーを含まない): 164 kg

ABS システム搭載バージョン

総重量 (燃料 93/93/CE を 90% 入れた状態の走行時): 190.5 kg

総重量 (液体及びバッテリーを含まない): 166.5 kg

最大許容重量 (最大負荷): 370 kg

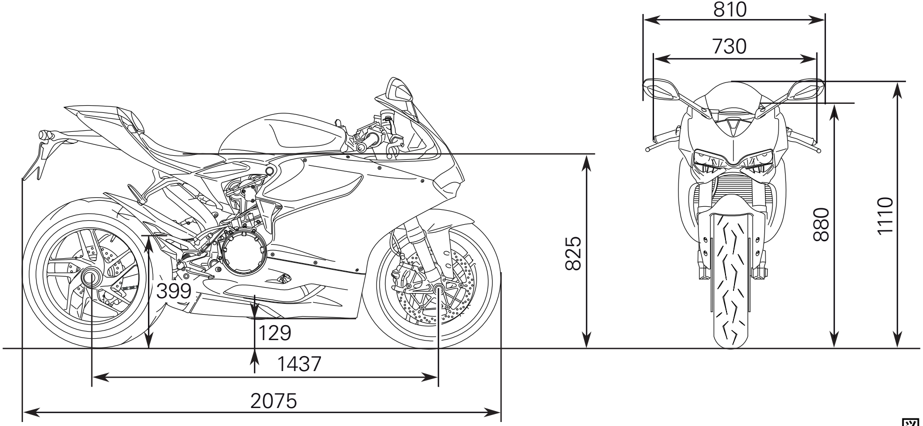


図 177

警告

重量制限を遵守しない場合、操縦性と性能の低下を招き、車両のコントロールを失う原因となります。

給油	タイプ	
燃料タンク、リザーブ 5dm(リットル)を含む	オクタン価 95 以上の無鉛ガソリン	17 リットル
潤滑回路	SHELL - Advance 4T Ultra	3.7 リットル
フロント/リアブレーキシステム、クラッチ	油圧システム用 SHELL - Advance Brake DOT 4	-
電極保護液	配線用スプレー SHELL - Advance Contact Cleaner	-
フロントフォーク	SHELL - Advance Fork 7.5 または Donax TA	155 cc (レッグごと)
クーラントシステム	不凍液 SHELL - Advance Coolant または Glycoshell 35 ~ 40% + 水溶液	2.3 リットル

重要

燃料、潤滑液等には絶対に添加剤を加えないで下さい。この燃料を使用すると、車両のエンジン及び部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。

警告

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料 (E10) のみ使用することができます。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁止されています この燃料を使用すると車両のエンジン及び部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用すると保証の対象外になります。

エンジン

4ストローク90°"L"型2気筒、低タンクキャストクランクケース付き

ボア mm：

112

ストローク mm：

60.8

総排気量、cm^3：

1,198

コンプレッション比：

12.5 ± 0.5:1

クランクシャフト最大出力 (95/1/EC)、kW/馬力：

143 kW/195馬力/10,750rpm

クランクシャフトトルク最大回転数 (95/1/EC)：

132 Nm / 13.5 kgm / 98.1 lb-ft/9000rpm

最大回転数、rpm：

11,300

重要

どんな状況でも許容最大回転数を越えた状態で走行してはいけません。

タイミングシステム

チェーン駆動及びスプロケット付きダブルオーバーヘッドカムシャフト、シリンダーごとに4本のバルブ、デスモドロミックシステム

デスモドロミックタイミングシステム（図178）

1) オープニング（アッパー）ロッカーアーム
2) オープニングロッカーシム
3) クロージング（もしくはロア）ロッカーアームシム
4) ロッカーアームリターンスプリング
5) クロージング（もしくはロア）ロッカーアーム
6) カムシャフト
7) バルブ

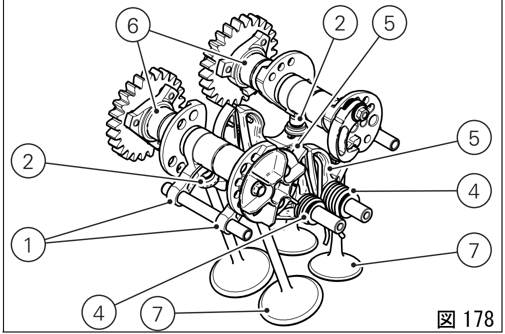


図178

性能データ

各ギアにおける最高速度は、決められた慣らし期間を正しく行い、適切な規定点検整備を受けた場合にのみ出すことができるようになります。

重要
これは保証の必須条件で、この条件が守られなかった結果としてのエンジンの損傷や寿命の短縮について、Ducati モーターホールディング社はいかなる責任を負うものではありません。

スパークプラグ

メーカー：
NGK
タイプ：
MAR09A-J

燃料供給

MITSUBISHI 間接エレクトロニック・フューエル・インジェクションタイプ：a/n / a/n
楕円対応スロットルボディ（直径準拠）
67.5 mm
インジェクター（各シリンダー）：2
インジェクター口径：12
ガソリン燃料：95-98 RON

警告
この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料（E10）のみ使用することができます。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁止されています この燃料を使用すると車両のエンジン及び部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用すると保証の対象外になります。

ブレーキ

各ブレーキのアンチブロックシステムは、両タイヤに搭載されたホール効果センサーで制御されます。ABS 解除が可能。

フロント

穴付きセミフローティングダブルディスク。
ブレーキシュー材質：
スチール製
ハウジング材質：
アルミニウム製
ディスク径：
330 mm
右側ハンドルレバーによる油圧コントロール
ブレーキキャリパーメーカー：
BREMBO
タイプ：
M50（キャリパー径 30）
ブレーキパッド材質：
TT2910 HH
ポンプタイプ：
PR 16/21

リアサスペンション

穴付き固定ディスク、スチール製
ディスク径：
245 mm
車体右側ペダルによる油圧コントロール。
メーカー：
BREMBO
タイプ：
P34c（ピストン付きキャリパー Ø 34）
ブレーキパッド材質：
ライニング Ferit I/D 450 FF
ポンプタイプ：
PS13

⚠ 警告
ブレーキフルードは腐食性です。誤って目や皮膚に付いた場合は、大量の流水で洗浄して下さい。

トランスミッション

湿式クラッチ / 左側ハンドルバレバーによる操作
エンジンとギアボックスメインシャフト間の駆動伝達
エンジンスプロケット / クラッチスプロケット比：
30/53
6 速コンスタントギア、車体左側ペダルによる操作
ギアスプロケット / リアスプロケット比：
15/39
変速比：
1 速　15/37
2 速　16/30
3 速　18/27
4 速　20/25
5 速　22/24
6 速　24/23

トランスミッションチェーン：
メーカー：
レジナ
リンク数：
106

重要
上記のギア比は認可時の値ですので、いかなることがあっても変更してはいけません。

この車両を競技用に仕様変更する場合には、Ducati モーターホールディング社から特別なギア比に関する情報を提供いたしますので、オフィシャルディーラー又はDucati サービスセンターにお問い合わせ下さい。

警告
リアスプロケットの交換作業は、Ducati ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせ下さい。この部品の誤った交換作業はライダーの安全に深刻な危険をもたらし、車両に回復不能な損傷を与える原因となります。

フレーム

アルミニウム合金キャストモノコックフレーム
アルミニウム合金キャストリアフレーム
ステアリングヘッドアングル： 24.5°
ステアリングアングル：左 27°　/ 右 27°
トレール： 100 mm

ホイール

3 スポーク軽合金鍛造リム

フロント

サイズ：
MT3.50 x17”

リアサスペンション

サイズ：
MT5.50 x17”

タイヤ

フロント

” チューブレス ” ラジアルタイヤ
サイズ：
120/70

リアサスペンション

” チューブレス ” ラジアルタイヤ
サイズ：
200/55

サスペンション

フロント

プリロード（ フォークインナースプリング ）及びリバウンド / コンプレッションの外部調整システム付き油圧倒立フォーク
スタンションチューブ径：
TIN 加工 43 mm
ホイールトラベル
120 mm

リアサスペンション

ショックアブソーバーは、リバウンド、コンプレッションダンピング、スプリングプリロードの調整が可能です。
ショックアブソーバーはエンジンクランクケースに対しては前部に、ロッカーアームに対しては後部に支点があります。フォークはエンジンを通る支点ピンの周りを回転します。このシステムは車両に高い安定性をもたらします。
ホイールトラベル
130 mm

エキゾーストシステム

ダクトレイアウト "2 in 1 in 2" ステンレス製サイレンサー 2 つ及びアルミニウム合金製アウタージャケット ラムダセンサー 2 つ、触媒 2 つ

カラーバリエーション

Ducati アニバーサリーレッド、部品番号：473.101 (PPG)
クリアー、部品番号：228.880 (PPG)
ポリウレタンクリアホワイト、部品番号：490.019 (PPG)
グレーモノコックフレーム、ブラックホイール。

エレクトリカルシステム

主要構成部品は以下の通りです：
フロントヘッドライトタイプ：
ハロゲンランプ H11 OSMAR 64211C 12V 55W（ロービーム） 2 個
ハロゲンランプ H11 OSMAR 64211C 12V 55W（ハイビーム） 2 個
ポジションランプタイプ：
LED 8 個
リアランプタイプ：
LED REBEL LXM2-PH01-0060 2 個
LED ストップランプ信号タイプ：
LED LA G6SP-CBEA-24-1 8 個
LED ナンバープレートランプタイプ：
LED CREE CLA1A-WKW-CXAYB453 3 個
ハンドル上スイッチ
LED フロントターンインジケータータイプ：-
LED リアターンインジケータータイプ：
LED OSRAM LYE65F 4 個
警告ホーン。
バッテリー 12 V - 6.5 AH 密閉タイプ
システム電圧 12 V
ジェネレーター、12V- 380W
スターターモーター 12V - 0.6 kW
電子部分は 30A(C、図 181) ヒューズで保護されています。バッテリー下のスターターコンタクター上に配置されています。
ナンバープレートホルダーランプ：LED

参考

電球の交換は 215 ページ、" ハイ / ロービーム電球の交換 " を参照してください。

ヒューズ

エレクトリック部品プロテクションはフロントヒューズボックス内に 12、スターターコンタクター上に一つあります。それぞれのボックス内に補給ヒューズがあります。
用途およびアンペア値については表を参照してください。
左フロントヒューズボックス（A、図 179）及び右フロントヒューズボックス（B、図 180）はシート下のスペースに装備されています。
ヒューズの作業をするには左フェアリングを取り外してください（201 ページ参照）。
ヒューズの交換には、各ヒューズの配置と定格が表記された保護カバーを外してください。

左フロントヒューズボックス（A、図 179）

配置	内容	数値
1	-	-
2	GPS	5 A
3	Key-sense	10 A
4	診断	5 A
5	スロットルオープンリレー（ETV）	10 A
6	インストルメントパネル	10 A
7	スペア	5 A
8	スペア	10 A
9	スペア	20 A

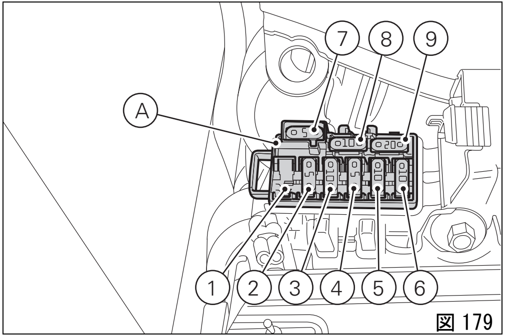


図 179

右フロントヒューズボックス（B、図 180）		
配置	内容	数値
1	ABS 1（ABS バージョンのみ）	30 A
2	ABS 2（ABS バージョンのみ）	15 A
3	インジェクションリレー	20 A
4	ランプ	15 A
5	エンジンコントロールユニット	10 A
6	Black Boxシステム(BBS)	15 A
7	スペア	20 A
8	スペア	10 A
9	スペア	5 A

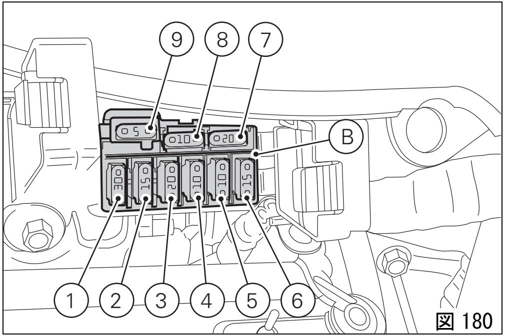


図 180

参考

メインヒューズを操作するには左ロアフェアリングを取り外します (208 ページ " バッテリーの充電 " を参照)。

メインヒューズ (C、図 181) は、スターターコンタクター (D) 上、バッテリーの近くに位置しています。交換の際は保護キャップ (E) を取り外して下さい。
切れたヒューズは、インナーフィラメントが溶断していることで確認できます (F、図 182)。

重要

回路のショートを防止するために、ヒューズ交換は Key-off 後にして下さい。

警告

表示されている規定以外のヒューズは決して使用しないで下さい。この規則を順守しない場合、エレクトリカルシステムに損傷を招き、火災の原因となることがあります。

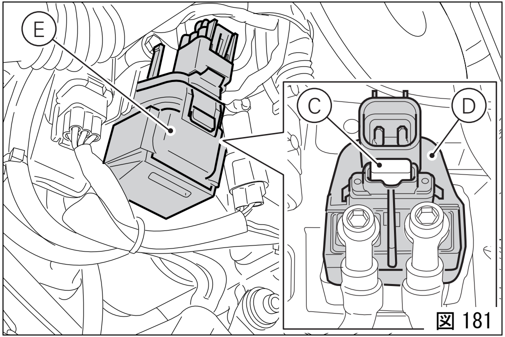


図 181

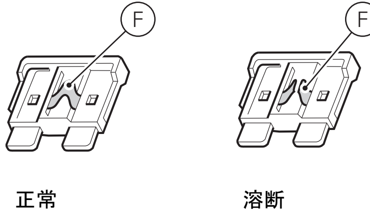


図 182

1199 Panigale インジェクション / エレクトリカルシステム配線図凡例

1) 右側スイッチ
2) E-LOCK コントロールユニット
3) E-LOCK リレー
4) ヒューズボックス 1
5) ヒューズボックス 2
6) エンジンコントロールユニット
7) APS センサー
8) スターターモーター
9) ヒューズコンタクター
10) バッテリー
11) エンジンアース
12) レギュレーター
13) ジェネレーター
14) 右リアターンインジケーター
15) リアライト
16) 左リアターンインジケーター
17) ナンバープレートランプ
18) 診断コネクター
19) 車両コントロールユニット (BBS)
20) EX-UP モーター
21) ギアセンサー
22) リアスピードセンサー
23) フロントスピードセンサー
24) フューエルポンプ
25) 燃料レベル
26) ホリゾンタルコイル
27) バーチカルコイル
28) エンジン回転 / 作動センサー
29) バーチカルラムダセンサー
30) ホリゾンタルラムダセンサー
31) クイックシフト
32) サイドスタンドスイッチ
33) 油圧センサー
34) リアストップスイッチ
35) クラッチスイッチ
36) フロントストップスイッチ
37) フューエルポンプリレー
38) バーチカル ETV リレー
39) ホリゾンタル ETV リレー
40) バーチカル MAP センサー
41) ホリゾンタル MAP センサー
42) クーラント温度センサー
43) 気温センサー
44) ホリゾンタル TPS
45) バーチカル TPS
46) ホリゾンタルメインインジェクター
47) ホリゾンタルスーペリアインジェクター
48) バーチカルメインインジェクター
49) バーチカルスーペリアインジェクター
50) ホリゾンタル ETV モーター
51) バーチカル ETV モーター
52) セカンダリーエアアクチュエーター
53) 左側スイッチ
54) 警告ホーン
55) GPS
56) 左フロントターンインジケーター
57) インストルメントパネル
58) 左ハイビームランプ
59) 右フロントターンインジケーター
60) ファン
61) 左ロービームランプ
62) ポジションランプ
63) 右ロービームランプ
64) 右ハイビームランプ
65) ロービームランプリレー
66) ハイビームランプリレー

1199 Panigale ABS インジェクション / エレクトリカルシステム配線図凡例

1) 右側スイッチ
2) E-LOCK コントロールユニット
3) E-LOCK リレー
4) ヒューズボックス 1
5) ヒューズボックス 2
6) エンジンコントロールユニット
7) APS センサー
8) スターターモーター
9) ヒューズコンタクター
10) バッテリー
11) エンジンアース
12) レギュレーター
13) ジェネレーター
14) 右リアターンインジケーター
15) リアライト
16) 左リアターンインジケーター
17) ナンバープレートランプ
18) 診断コネクター
19) 車両コントロールユニット (BBS)
20) EX-UP モーター
21) ギアセンサー
22) リアスピードセンサー
23) フロントスピードセンサー
24) フューエルポンプ
25) 燃料レベル
26) ホリゾンタルコイル
27) バーチカルコイル
28) エンジン回転 / 作動センサー
29) バーチカルラムダセンサー
30) ホリゾンタルラムダセンサー
31) クイックシフト
32) サイドスタンドスイッチ
33) 油圧センサー
34) リアストップスイッチ
35) クラッチスイッチ
36) フロントストップスイッチ
37) フューエルポンプリレー
38) バーチカル ETV リレー
39) ホリゾンタル ETV リレー
40) バーチカル MAP センサー
41) ホリゾンタル MAP センサー
42) クーラント温度センサー
43) 気温センサー
44) ホリゾンタル TPS
45) バーチカル TPS
46) ホリゾンタルメインインジェクター
47) ホリゾンタルスーペリアインジェクター
48) バーチカルメインインジェクター
49) バーチカルスーペリアインジェクター
50) ホリゾンタル ETV モーター
51) バーチカル ETV モーター
52) セカンダリーエアアクチュエーター
53) 左側スイッチ
54) 警告ホーン
55) GPS
56) 左フロントターンインジケーター
57) インストルメントパネル
58) 左ハイビームランプ
59) 右フロントターンインジケーター
60) ファン
61) 左ロービームランプ
62) ポジションランプ
63) 右ロービームランプ
64) 右ハイビームランプ
65) ロービームランプリレー
66) ABS コントロールユニット
67) ハイビームランプリレー

配線カラー表

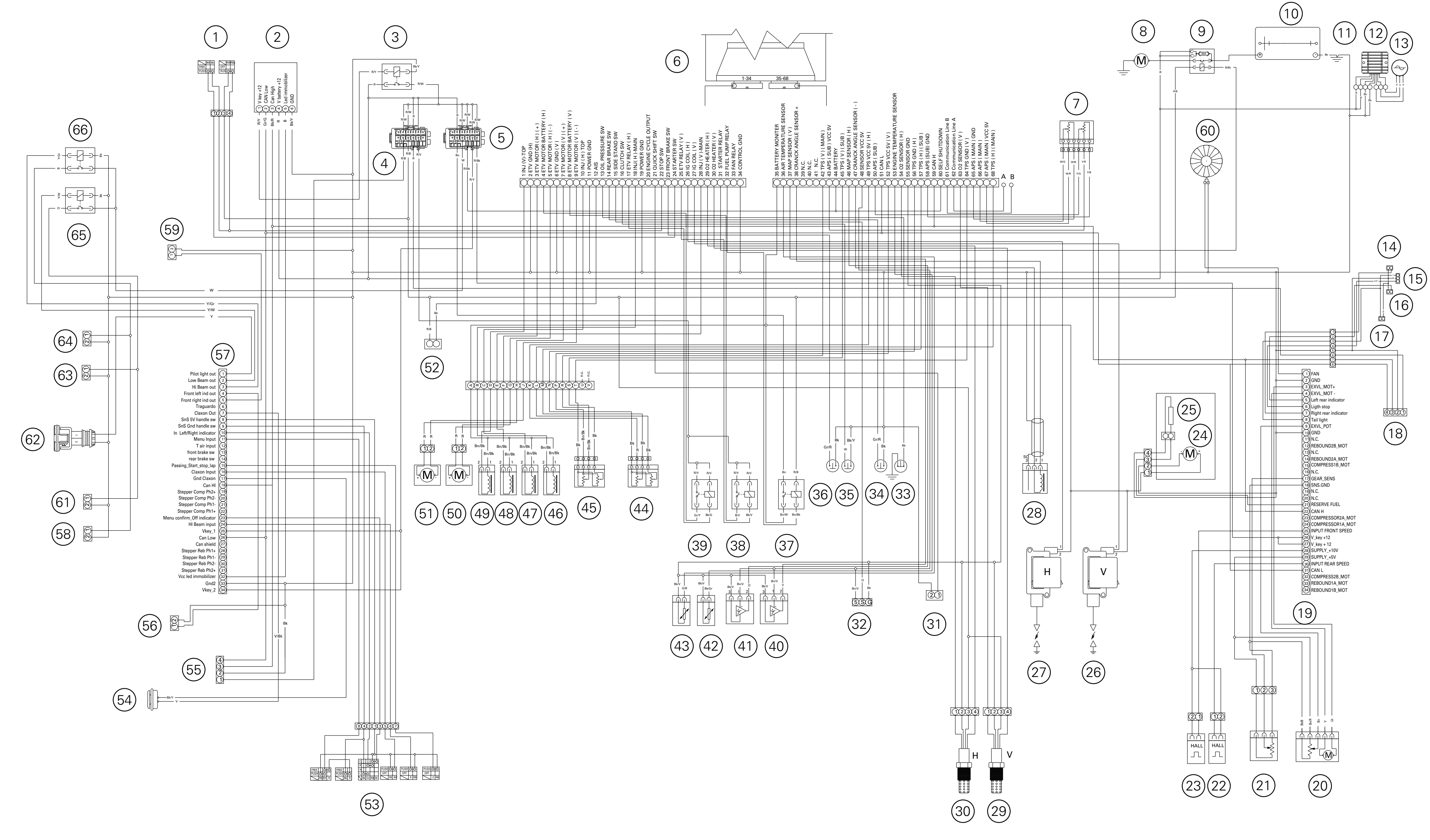
B 青
W 白
V 紫
BK 黒
Y 黄
R 赤
LB ライトブルー
GR グレー
G 緑
BN 茶
O オレンジ
P ピンク

参考

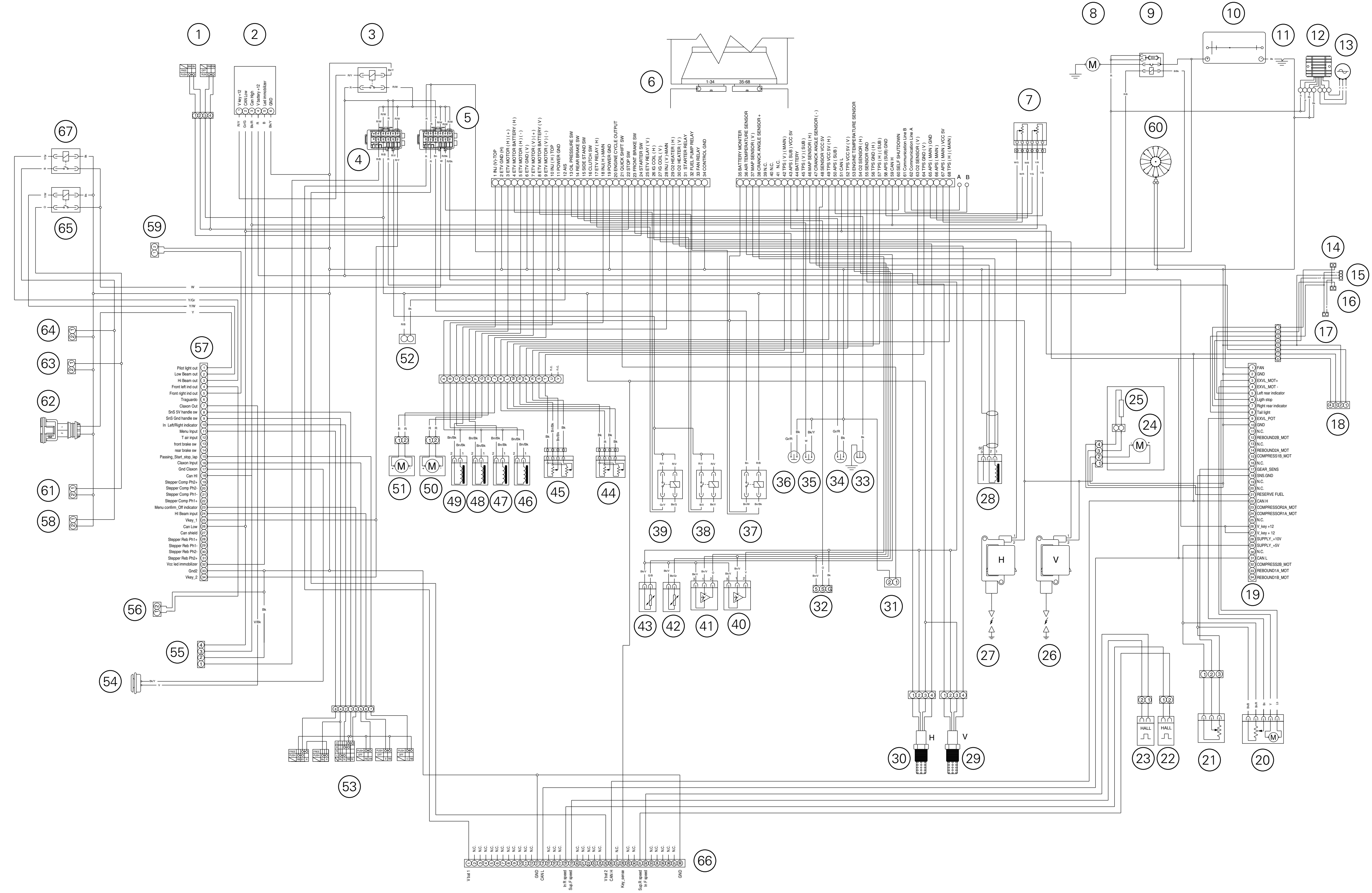
配線図はマニュアルの最後部にあります。

定期点検メモ

KM	DUCATI サービスセンター名	走行距離	実施日
1000			
12000			
24000			
36000			
48000			
60000			



1199 Panigale



1199 Panigale ABS

Stampato 04/2012 Cod. 913.7.192.1B

Ducati Motor Holding spa
www.ducati.com

Via Cavalieri Ducati, 3
40132 Bologna, Italia
Tel. +39 051 6413111
Fax +39 051 406580

cod 913.7.192.1B